

1998 収蔵整理概要

1983年度栗東町埋蔵文化財 発掘調査 資料集



2000. 3

栗 東 町 教 育 委 員 会
(財)栗東町文化体育振興事業団

1983年度栗東町埋蔵文化財
発掘調査 資料集

2000. 3

栗 東 町 教 育 委 員 会
(財)栗東町文化体育振興事業団

例 言

1. 本書は、1983年度に栗東町教育委員会・栗東町文化体育振興事業団が実施した埋蔵文化財発掘調査について、1998年度に実施した整理調査の成果を報告するものである。

2. 現地調査は滋賀県教育委員会の指導・助言を得て、栗東町教育委員会を主体として栗東町文化体育振興事業団が実施した。尚国庫補助事業および町事業の調査は栗東町教育委員会が実施した。整理事業は栗東町教育委員会の委託を受け、栗東町文化体育振興事業団が実施した。

3. 整理調査の体制は以下の通りである。

栗東町教育委員会	生涯学習課	課長	乾 澤 亮
	文化財保護係	係長	清 水 好 洋
		主査	松 村 浩

財団法人栗東町文化体育振興事業団

埋蔵文化財調査課	課長	奥 村 明
調査係	係長	大 崎 隆 志
	技師	雨 森 智 美

4. 本書の執筆・編集は調査担当者の意向のもと、雨森が行った。

5. 調査内容中の調査地位置図は、特に指定しているもの以外は全て5千分の1である。

6. 調査内容中の表にある文献の内容は本書末尾に記載した。

7. 整理作業参加者

調査員 森 智 美

整理員 奥村 美枝子 岩 根 隆 子 木村 三津子 穴 戸 貴 子

宮 嶋 八重美

表紙の写真：竪穴住居

〔辻遺跡（83R003-01）〕

右の写真：備前焼鳥形水注

〔手原遺跡（83R025-04）〕



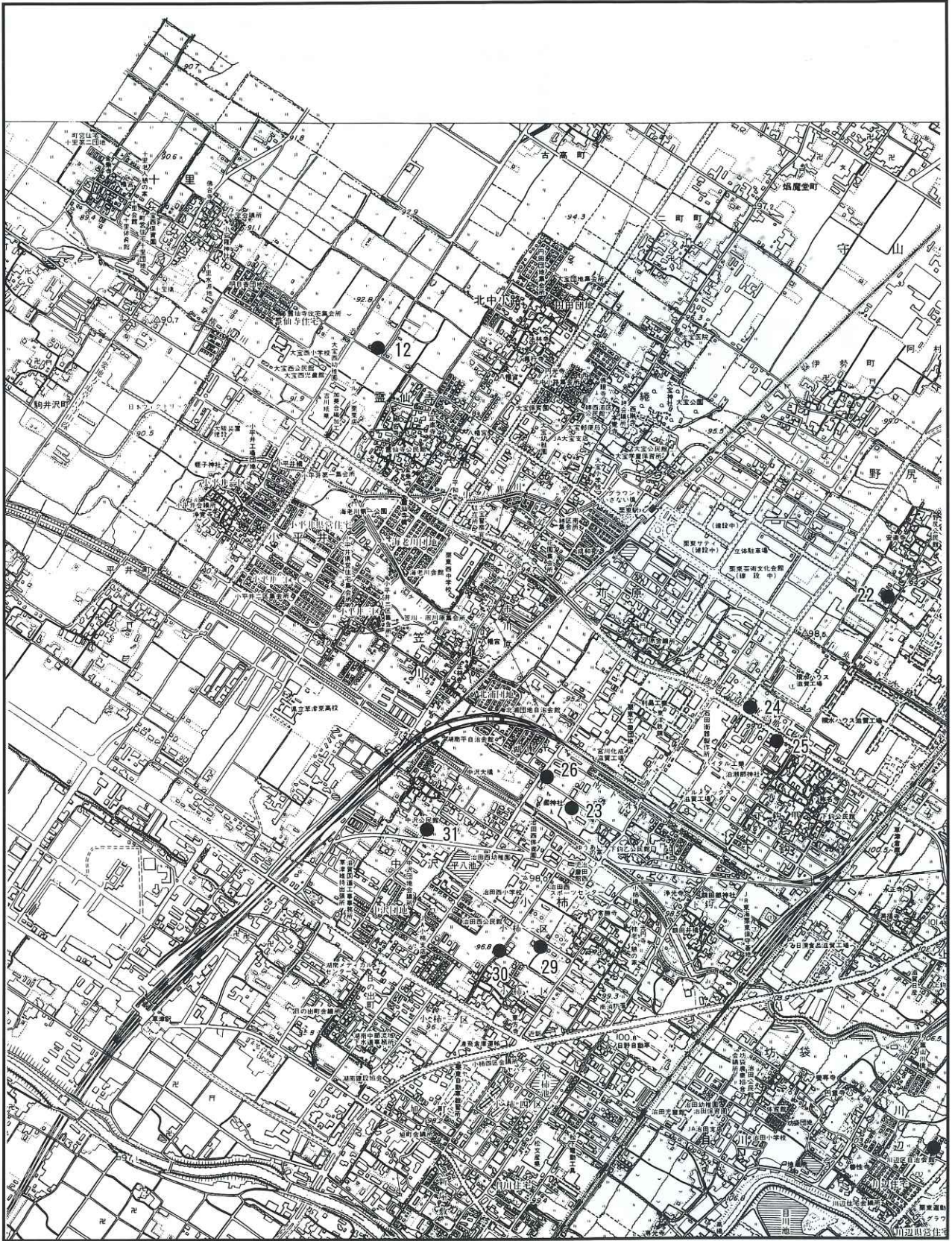
目

次

目次	1
遺跡位置図	2
調査一覧表	5
1 辻遺跡 (83R003-01)	6
2 辻遺跡 (83R003-02)	25
3 林遺跡 (83R009-01)	26
4 林遺跡 (83R009-02)	27
5 手原遺跡 (83R025-01)	28
6 手原遺跡 (83R025-02)	29
7 手原遺跡 (83R025-03)	30
8 手原遺跡 (83R025-04)	32
9 蜂屋遺跡 (83R022-01)	34
10 蜂屋遺跡 (83R022-02)	35
11 蜂屋遺跡 (83R022-03)	36
12 霊仙寺遺跡 (83R033-01)	37
13 中村遺跡 (83R057-02)	38
14 岩畑遺跡 (83R085-01)	44
15 岩畑遺跡 (83R085-02)	46
16 狐塚遺跡 (83R086-01)	48
17 高野遺跡 (83R092-01)	50
18 高野遺跡 (83R092-02)	54
19 高野遺跡 (83R092-03)	58
20 高野遺跡 (83R092-04)	60
21 高野遺跡 (83R092-05)	64
22 野尻遺跡 (83R088-01)	65
23 下鉤遺跡 (83R095-01)	66
24 下鉤遺跡 (83R095-02)	68
25 下鉤遺跡 (83R095-03)	70
26 下鉤遺跡 (83R095-04)	72
27 辻越遺跡 (83R096-01)	74
28 八王子遺跡 (83R098-01)	78
29 小柿遺跡 (83R100-01)	80
30 小柿遺跡 (83R100-02)	82
31 中沢遺跡 (83R034-01)	84
文献目録	86

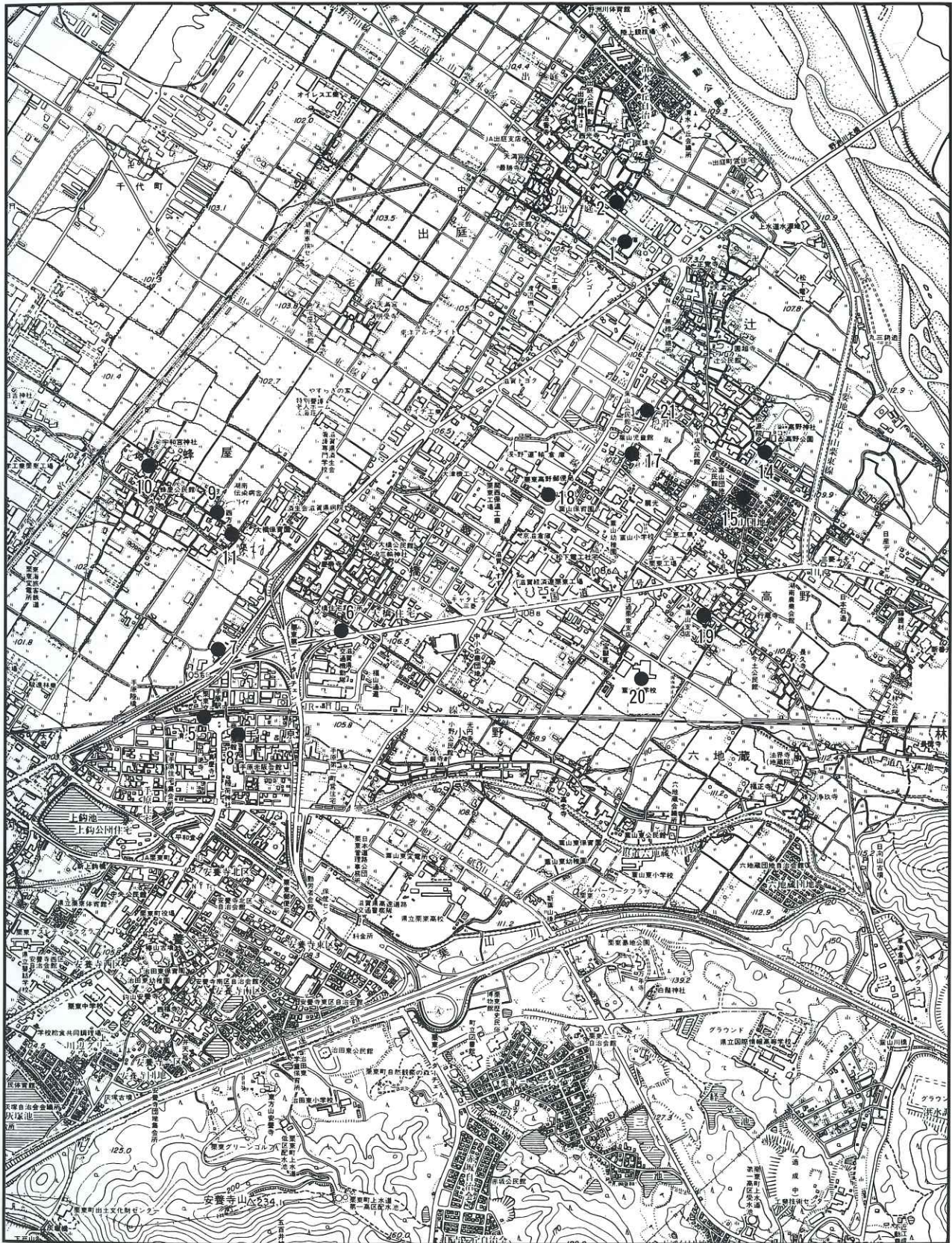


遺跡位置図(1)



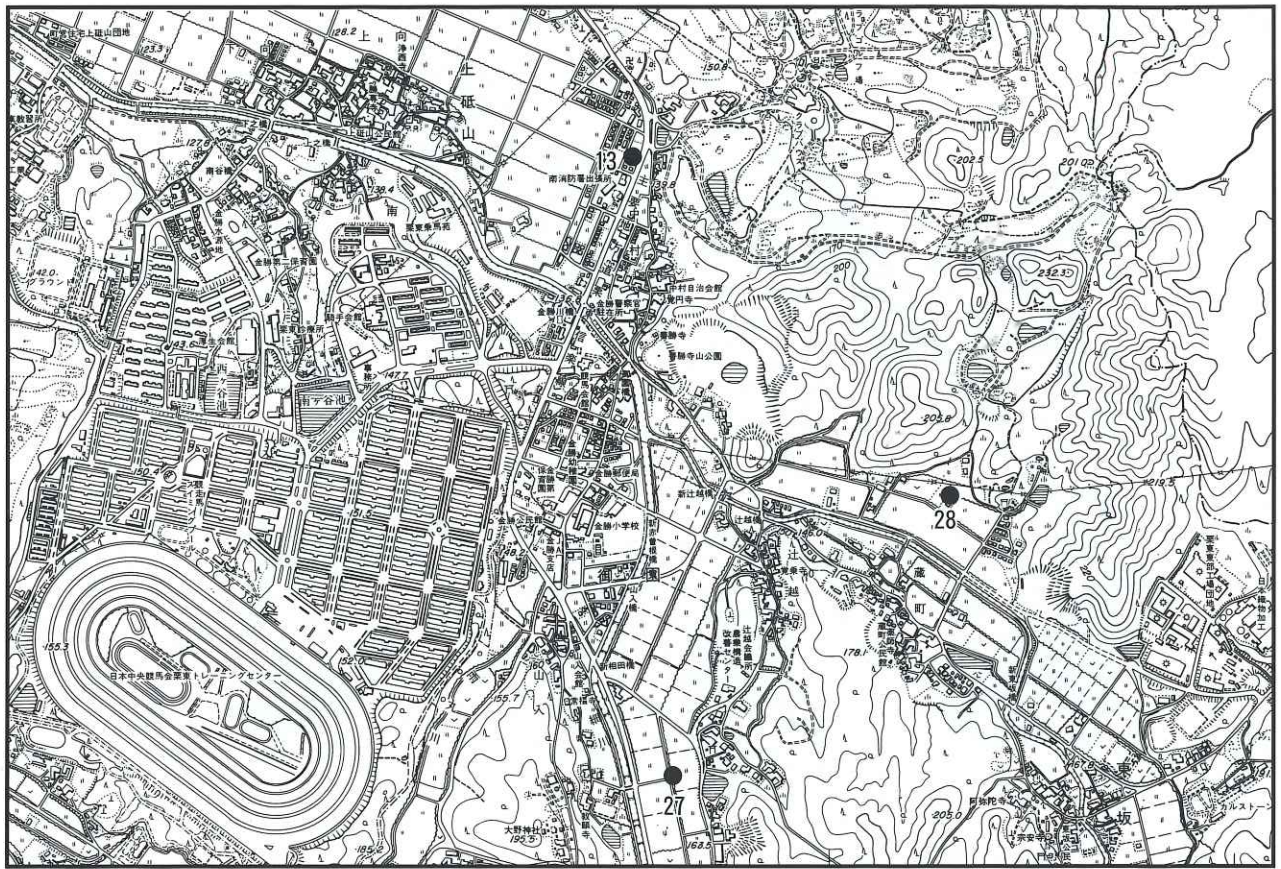
(1:20,000)

遺跡位置図(2)

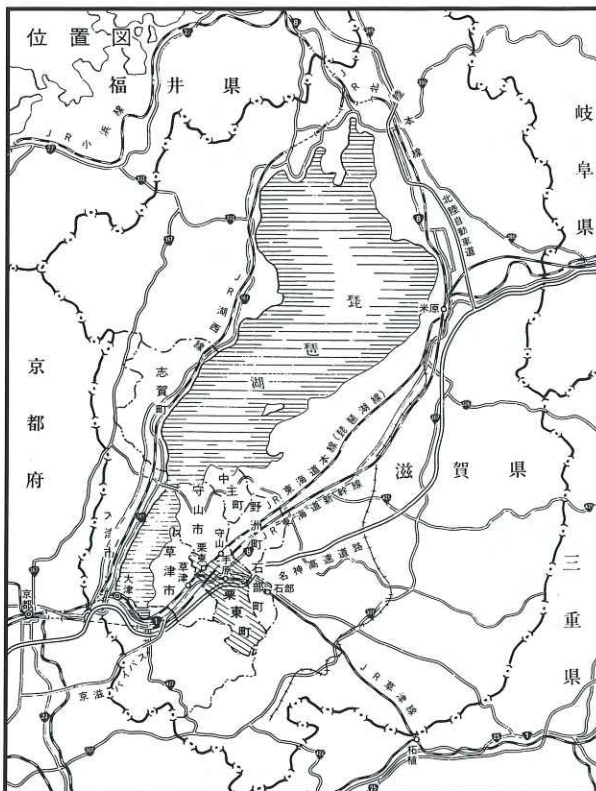


(1:20,000)

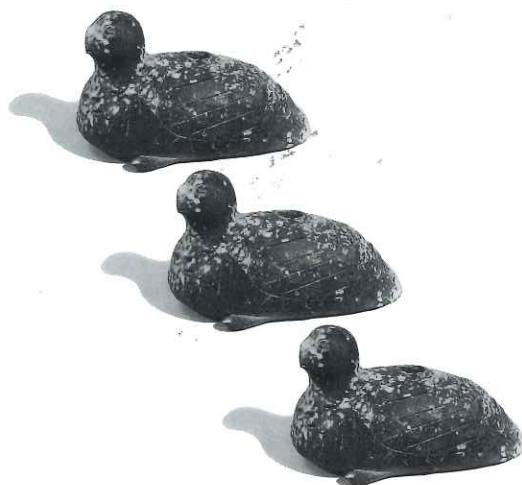
遺跡位置図(3)



(1:20,000)



1983 年度 調査



番号	遺 跡 名	調査略号	所 在 地	遺 構	遺 物	頁
1	辻 遺 跡	83R003-01	辻字鳥居本506~511	竪穴住居・溝・土坑	須恵器・土師器・黒色土器	6
2	辻 遺 跡	83R003-02	出庭字田中128	ピット・溝・旧河道	須恵器・土師器	25
3	林 遺 跡	83R009-01	林256	ピット・溝・土坑	須恵器・土師器・陶器	26
4	林 遺 跡	83R009-02	林256	ピット		27
5	手原遺跡	83R025-01	手原	掘立柱建物・溝・土坑	土師器・白磁・瓦	28
6	手原遺跡	83R025-02	大橋字八反田	掘立柱建物・土坑	土師器・灰釉陶器	29
7	手原遺跡	83R025-03	手原字上永正172-1他	掘立柱建物・溝	須恵器・土師器	30
8	手原遺跡	83R025-04	手原字里ノ内913他	ピット・溝・土坑	陶器・瓦質土器	32
9	蜂屋遺跡	83R022-01	蜂屋字宮ノ前224	掘立柱建物	須恵器・土師器・染付	33
10	蜂屋遺跡	83R022-02	蜂屋字墓原63	柵列・溝・ピット	黒色土器・白磁・陶器	35
11	蜂屋遺跡	83R022-03	蜂屋字墓原53-1	井戸・溝	黒色土器・瓦器・瓦	36
12	霊仙寺遺跡	83R033-01	北中小路字桃田342-5			37
13	中村遺跡	83R057-01	御園字中村地先	掘立柱建物・溝・土坑	土師器・黒色土器・瓦器・陶器	38
14	岩畑遺跡	83R085-01	高野字岩畑664-1	竪穴住居・溝・土坑	須恵器・土師器・鉄斧・紡錘車	44
15	岩畑遺跡	83R085-02	高野字一ツ橋657 他	掘立柱建物・竪穴住居・井戸	須恵器・土師器	46
16	狐塚遺跡	83R085-01	川辺字東浦、久保田	土墳墓・溝・沼沢地	須恵器・土師器・黒色土器・石器	48
17	高野遺跡	83R092-01	高野字やどや549	竪穴住居・井戸・炬・ピット	須恵器・土師器・黒色土器・白磁	50
18	高野遺跡	83R092-02	高野字ドント178-1、179-1	竪穴住居・掘立柱建物	土師器・緑釉陶器	54
19	高野遺跡	83R092-03	高野字いばだち325-1他	竪穴住居・溝	土師器	58
20	高野遺跡	83R092-04	六地藏888他	竪穴住居・掘立柱建物	土師器・黒色土器・陶器・銭	60
21	高野遺跡	83R092-05	高野字サルガウ	ピット・土坑	須恵器	64
22	野尻遺跡	83R088-01	野尻字梨元274	溝・井戸・ピット	須恵器・土師器・黒色土器	65
23	下鉤遺跡	83R095-01	下鉤字宮ノ東1101-1	掘立柱建物・溝・方形周溝墓	弥生土器・須恵器・緑釉陶器	66
24	下鉤遺跡	83R095-02	下鉤字卯之田841-1他	竪穴住居・溝・土坑	弥生土器・土師器	68
25	下鉤遺跡	83R095-03	下鉤地先	溝・土坑・ピット	須恵器・土師器・黒色土器・陶器	70
26	下鉤遺跡	83R095-04	下鉤字宮の北1190-1他	井戸・流路・ピット	弥生土器	72
27	辻越遺跡	83R096-01	御園字辻越	掘立柱建物・溝・井戸	土師器・青磁・白磁・陶器・銭	74
28	八王子遺跡	83R098-01	御園	掘立柱建物・土坑・ピット	須恵器・土師器・緑釉陶器	78
29	小柿遺跡	83R100-01	小柿字鉤代317-5	溝・土坑・ピット	須恵器・土師器・磨製石斧	80
30	小柿遺跡	83R100-02	小柿地先	掘立柱建物・土坑・溝・流路	弥生土器・須恵器・白磁	82
31	中沢遺跡	83R034-01	中沢地先	溝・ピット・土坑・沼沢地	弥生土器・土師器・染付	85

1. Tsuji

辻 遺 跡

(83R003-01)

所在地	辻字鳥居本506～511 北緯 35°02'15" 東経 136°00'57"
コード	321-003
調査期間	1983.8～1985.2.28
調査面積	9719.08m ²
調査原因	倉庫建設
調査担当	大崎隆志
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	古墳時代、平安時代
主な遺構	竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑
主な遺物	須恵器、土師器、鉄器、黒色土器 滑石製品
文献	④

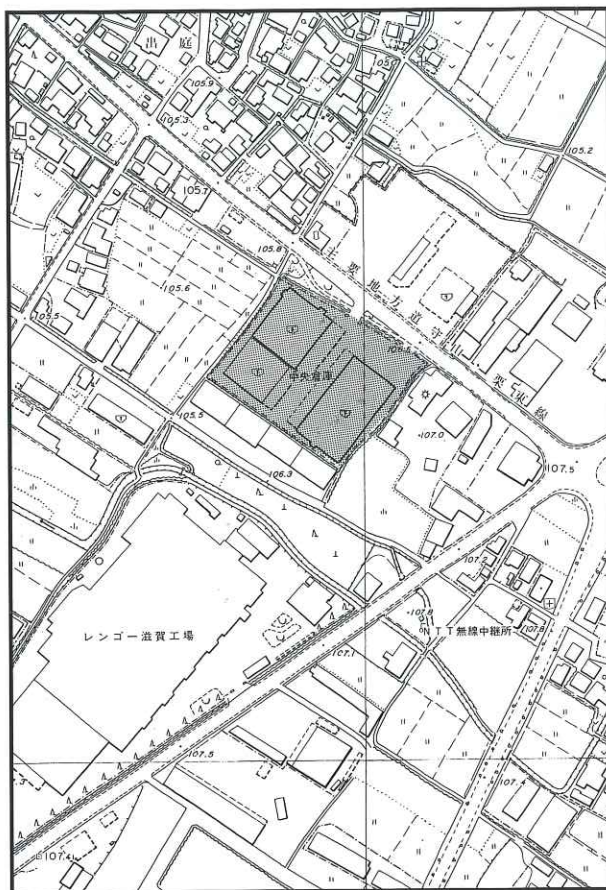


図1 調査地位置図

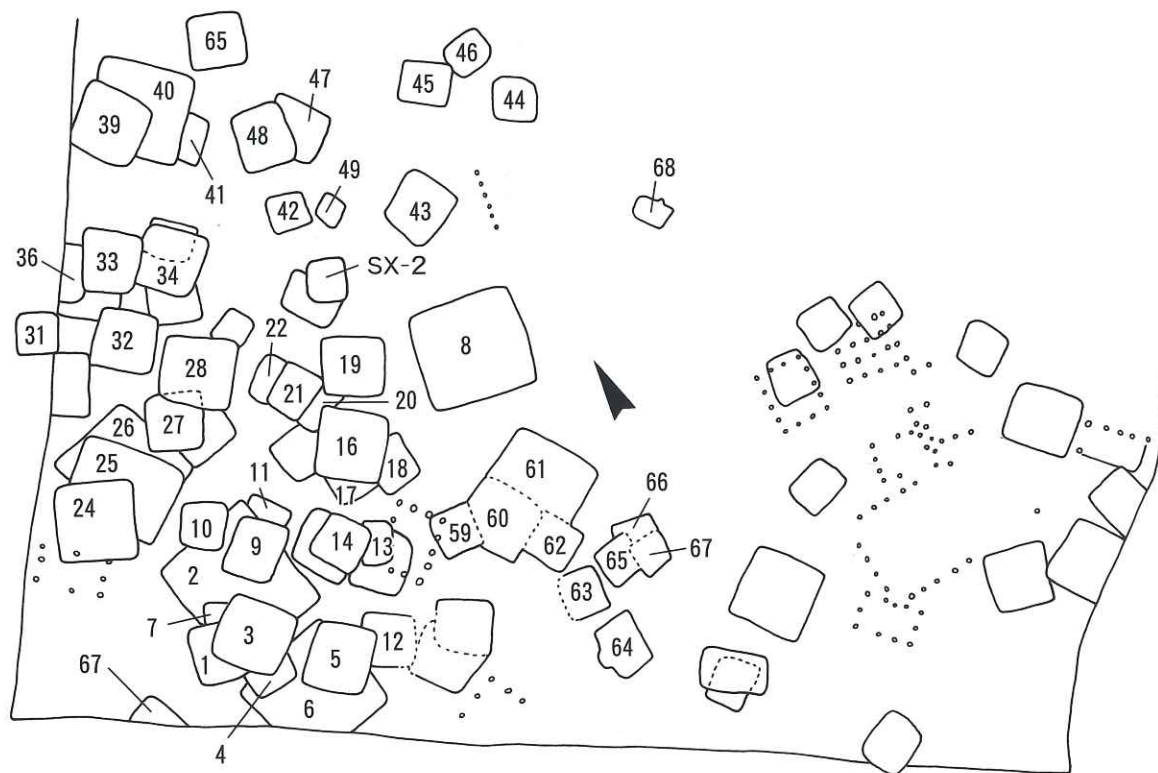
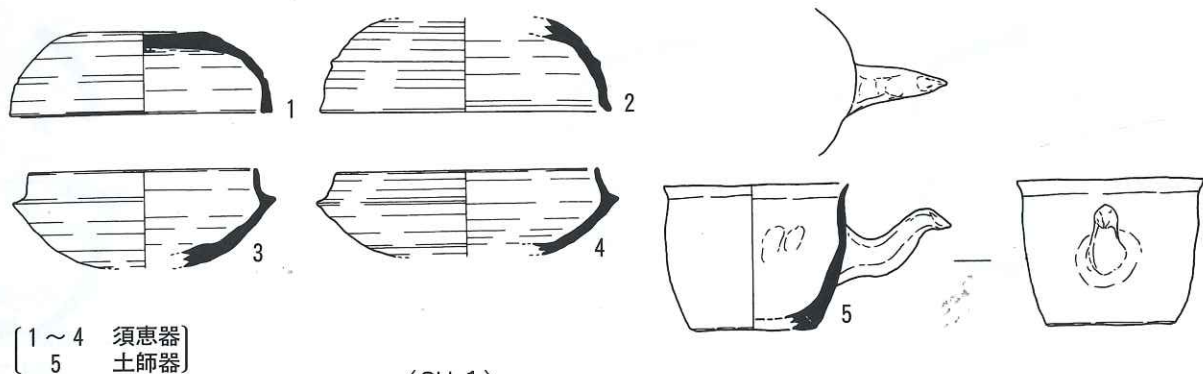
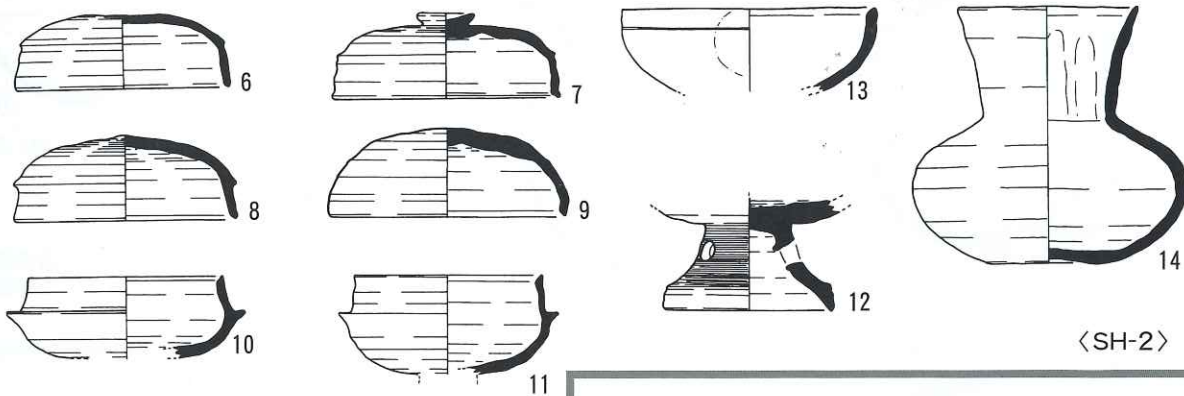


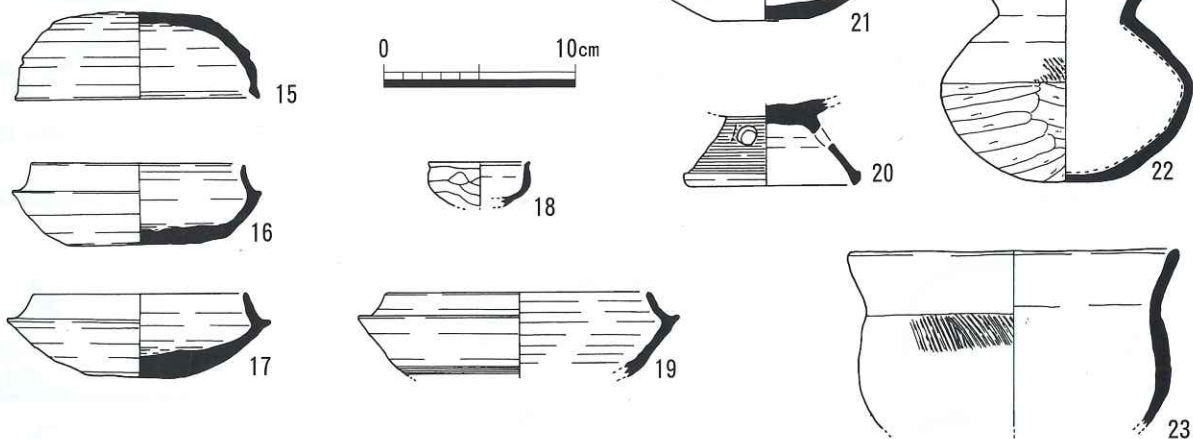
図2 遺構略図 (番号のみの記載はすべて竪穴住居(SH)をしめす)



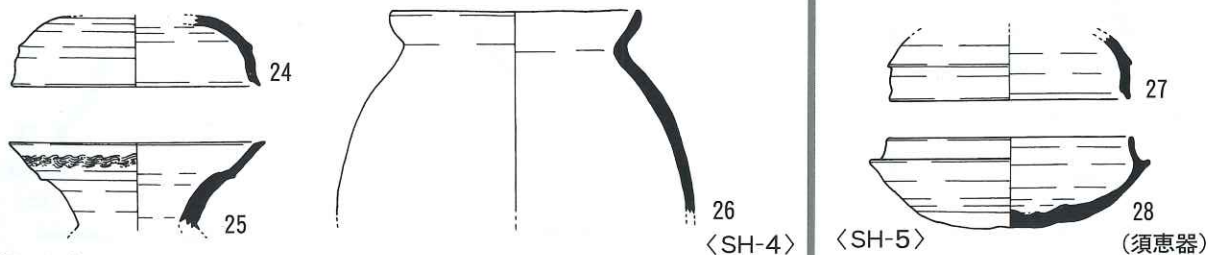
〈SH-1〉



〈SH-2〉



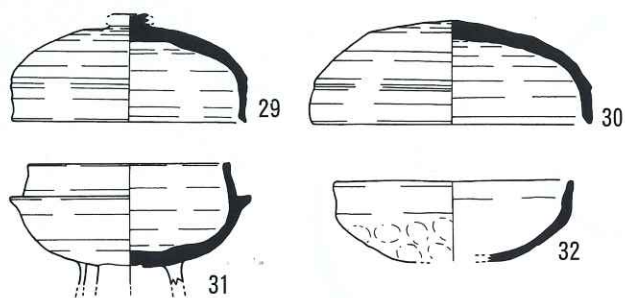
〈SH-3〉



〈SH-4〉

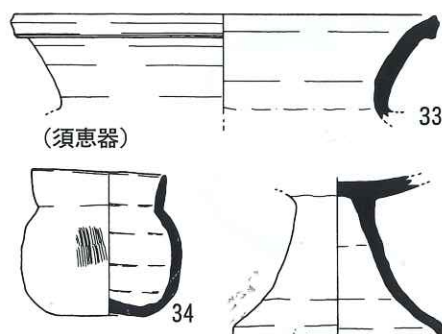
〈SH-5〉

図3 出土遺物実測図 ①



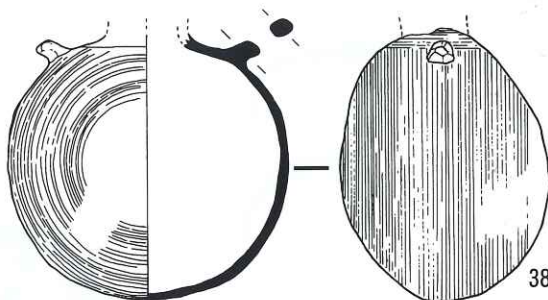
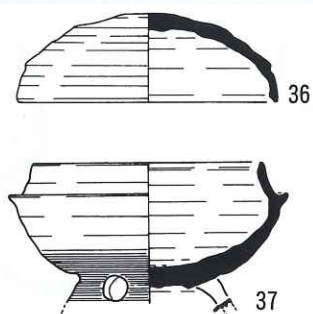
(29, 31 須恵器 32 土師器)

<SH-6>



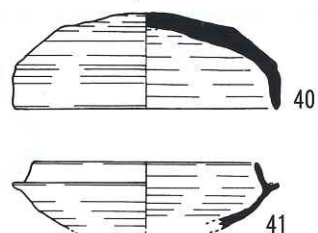
(34, 35 土師器)

<SH-7>

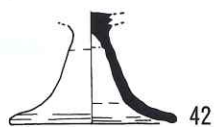


<SH-8>

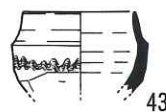
[36~38 須恵器
39 土師器]



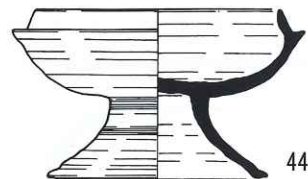
[40, 41 須恵器
42 土師器]



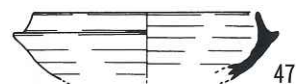
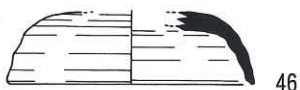
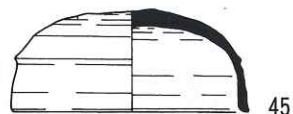
<SH-9>



(須恵器)



<SH-10>

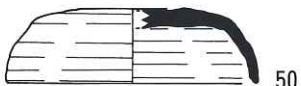


(45~47 須恵器)

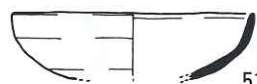


(48 土師器)

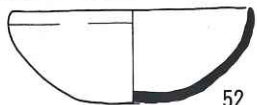
<SH-11>



(49, 50 須恵器)



(51, 52 土師器)

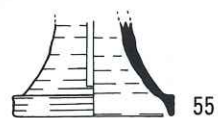
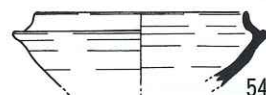


<SH-13>



(土師器)

<SH-12>

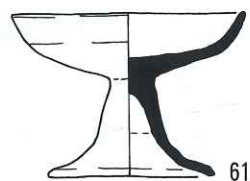
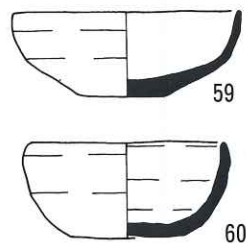
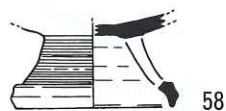
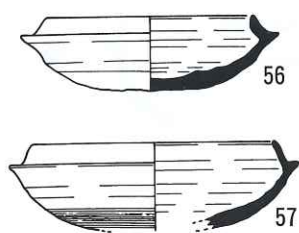


(須恵器)

<SH-13, 14>

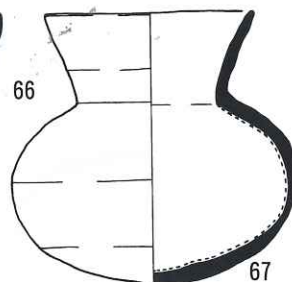
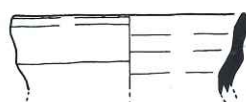
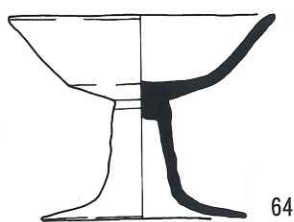
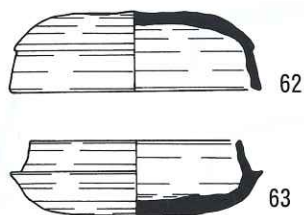


図4 出土遺物実測図 ②

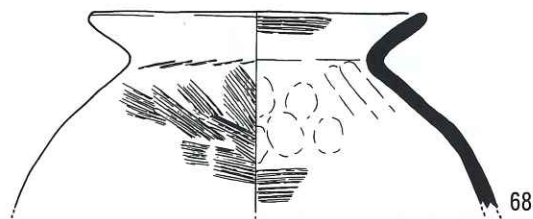


(56~58 須恵器、59~61 土師器)

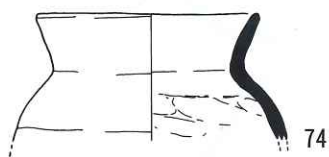
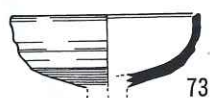
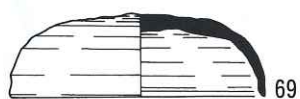
<SH-14>



(62, 63 須恵器、64~68 土師器)

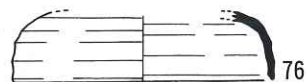


<SH-15>



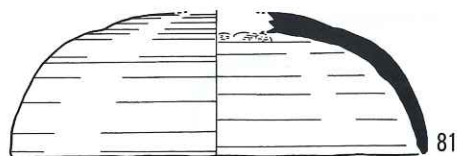
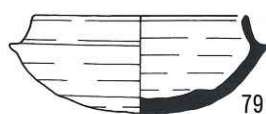
(69~73 須恵器、74 土師器)

<SH-16>



(須恵器)

<SH-17>



<SH-18>

図5 出土遺物実測図 ③

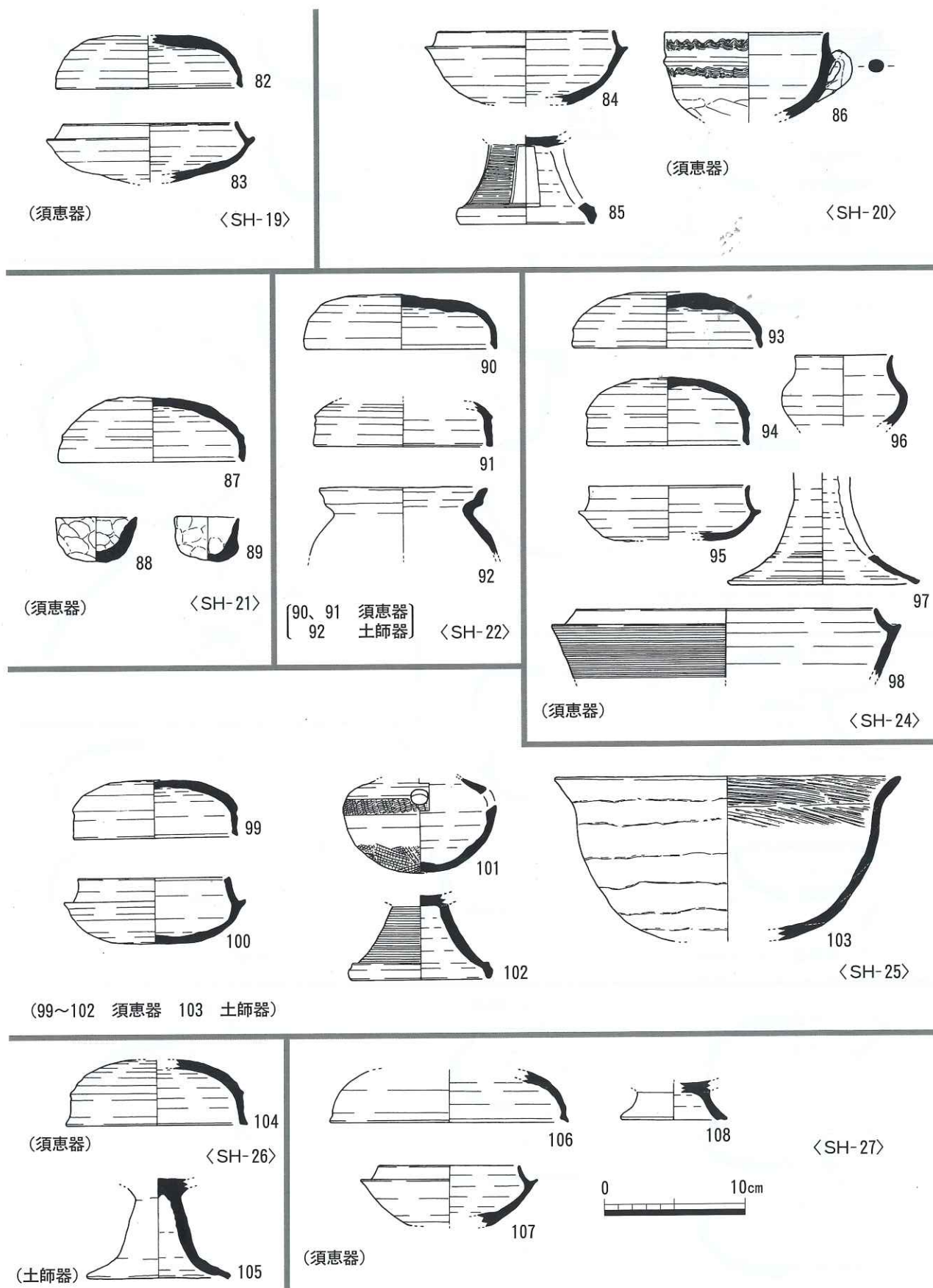
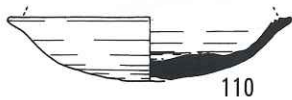
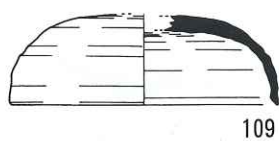
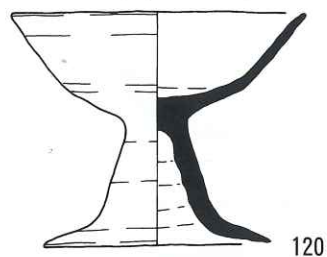
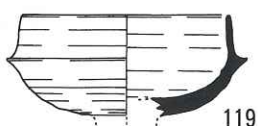
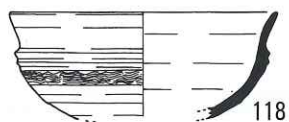
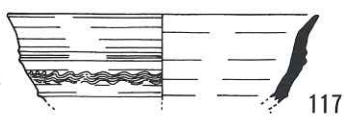
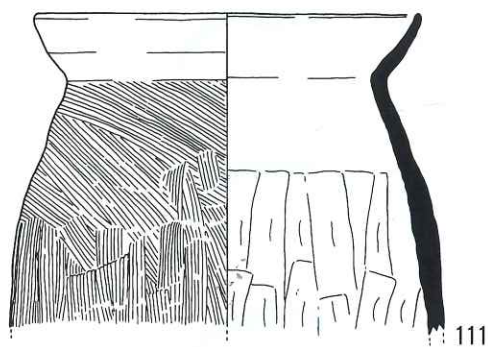


図6 出土遺物実測図 ④

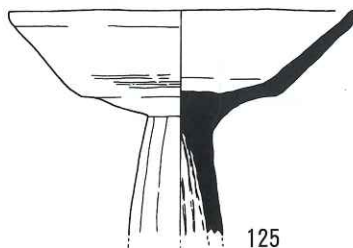
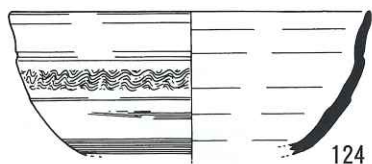
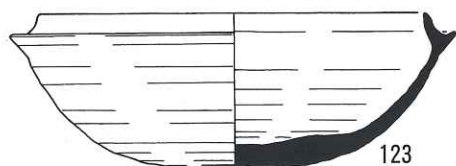


<SH-28>



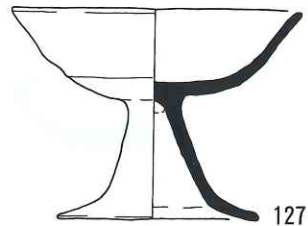
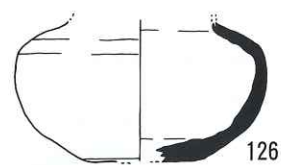
(112~119 須恵器 120, 121 土師器)

<SH-29>



[122~124 須恵器
125 土師器]

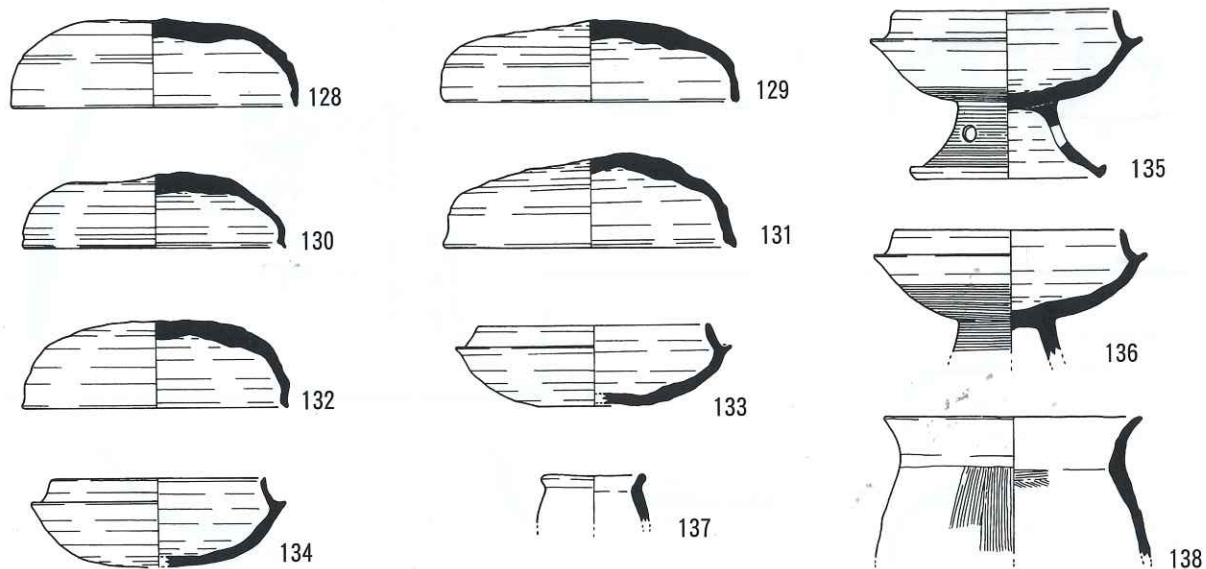
<SH-30>



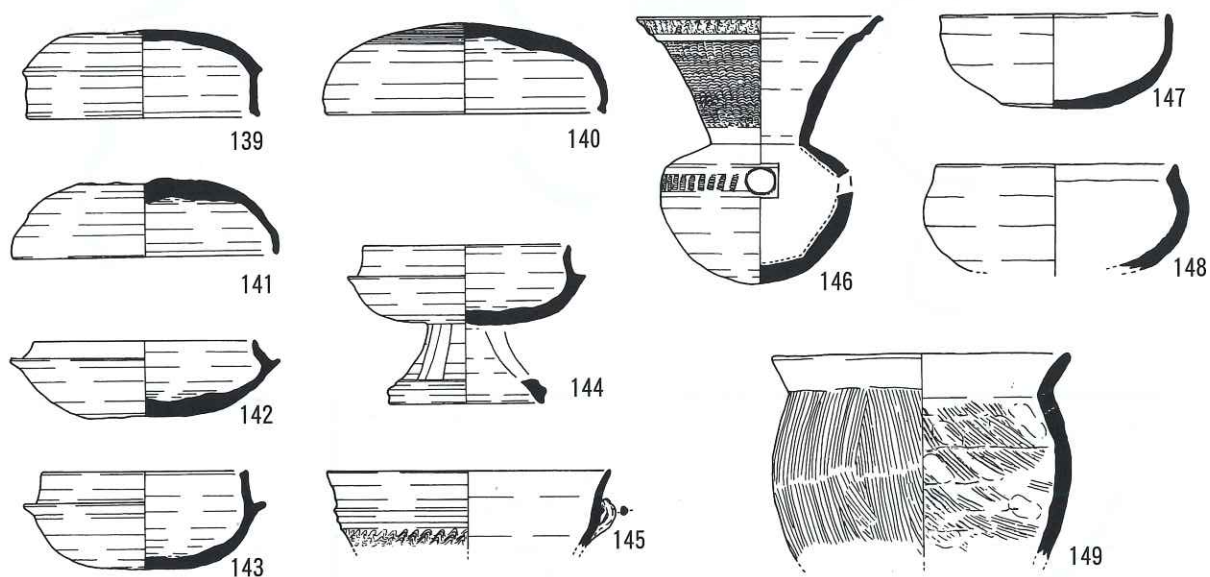
(土師器)

<SH-31>

図7 出土遺物実測図 ⑤

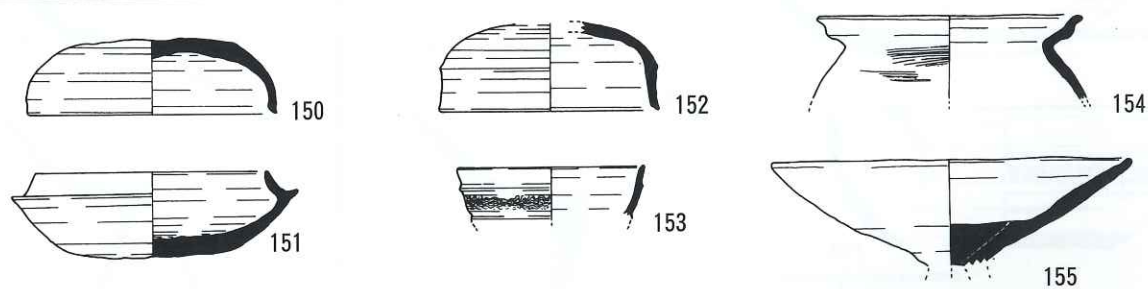


(128~136 須恵器 137、138 土師器) <SH-32>



(139~146 須恵器 147~149 土師器)

<SH-33>



(150~153 須恵器 154、155 土師器)

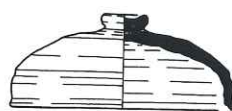
<SH-34>

図8 出土遺物実測図 ⑥



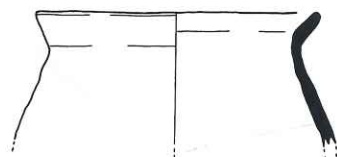
156

(156, 157 須恵器 158 土師器)

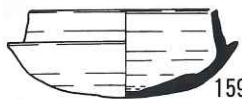


157

<SH-35>



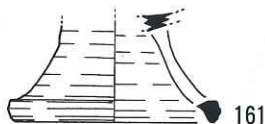
158



159



160



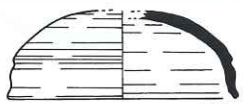
161

(須恵器)

<SH-36>



162

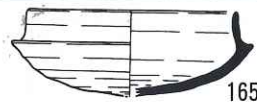


163



164

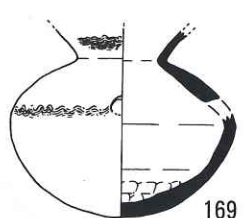
(162~165 須恵器 166 土師器)



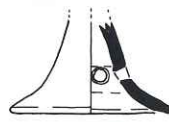
165



167

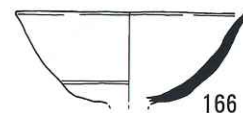


169



170

<SH-38>



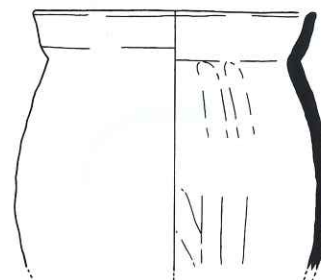
166

<SH-37>



168

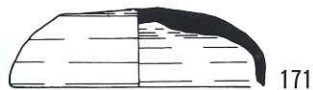
(167~169 須恵器 170 土師器)



178

(土師器)

<SH-41>



171

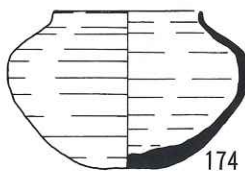


173



172

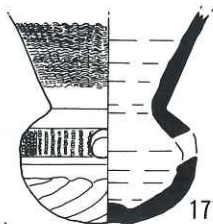
<SH-39>



174

[171, 172, 174 須恵器
173 土師器]

175



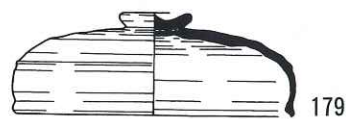
177

<SH-40>



176

(須恵器)



179



180



181

(須恵器)

<SH-42>

图9 出土遺物実測図 ⑦

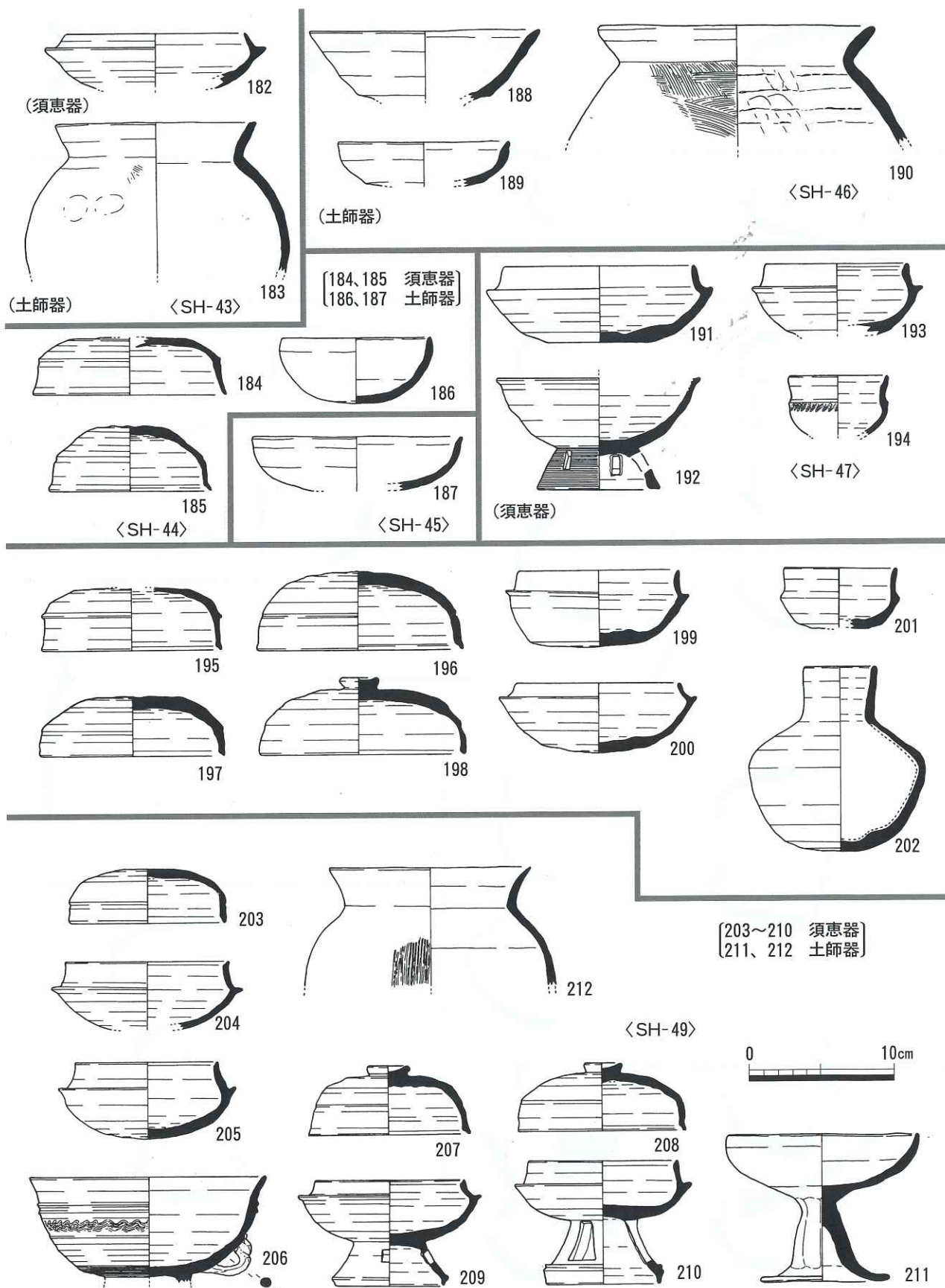


図10 出土遺物実測図 ⑧

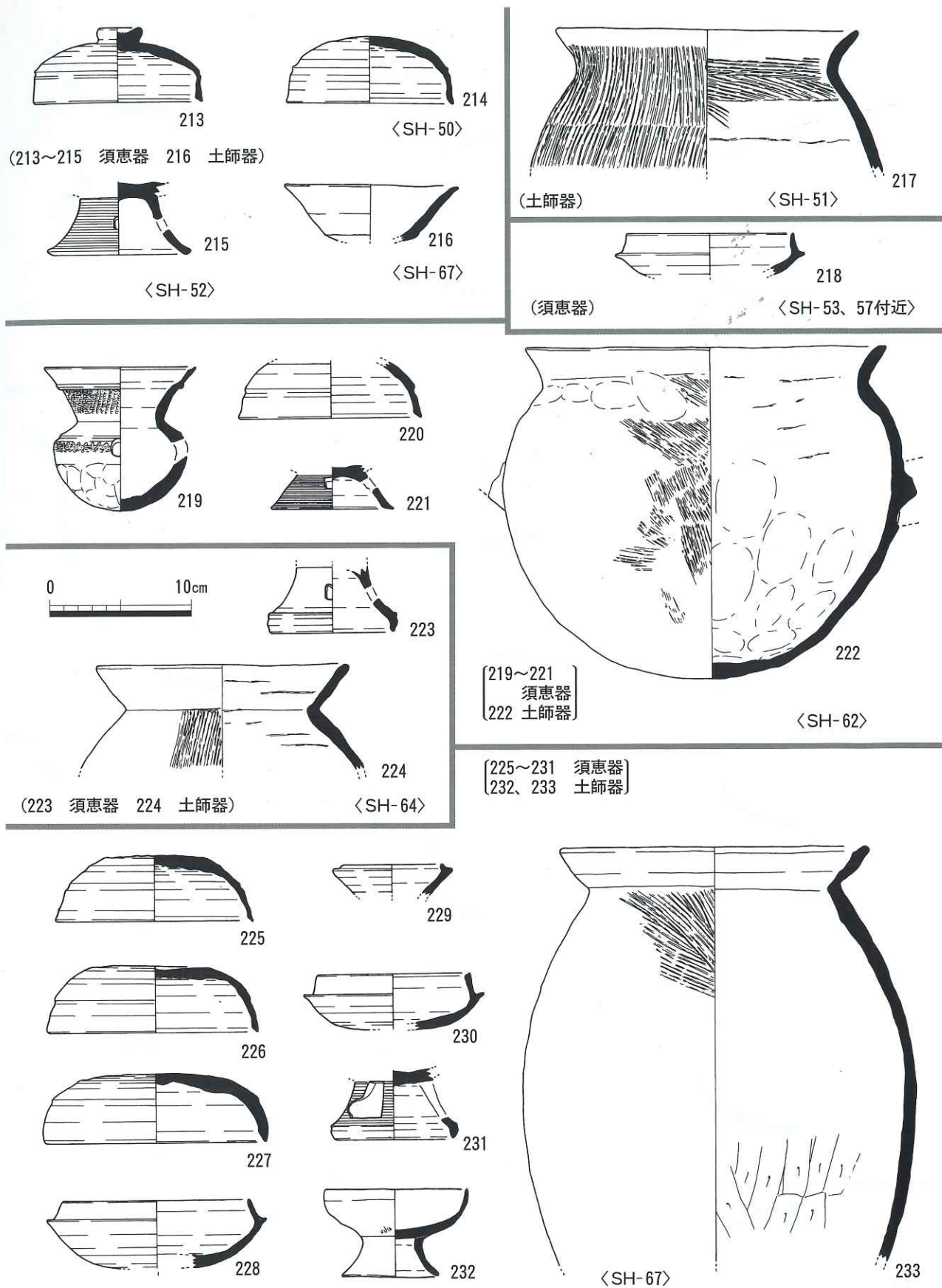
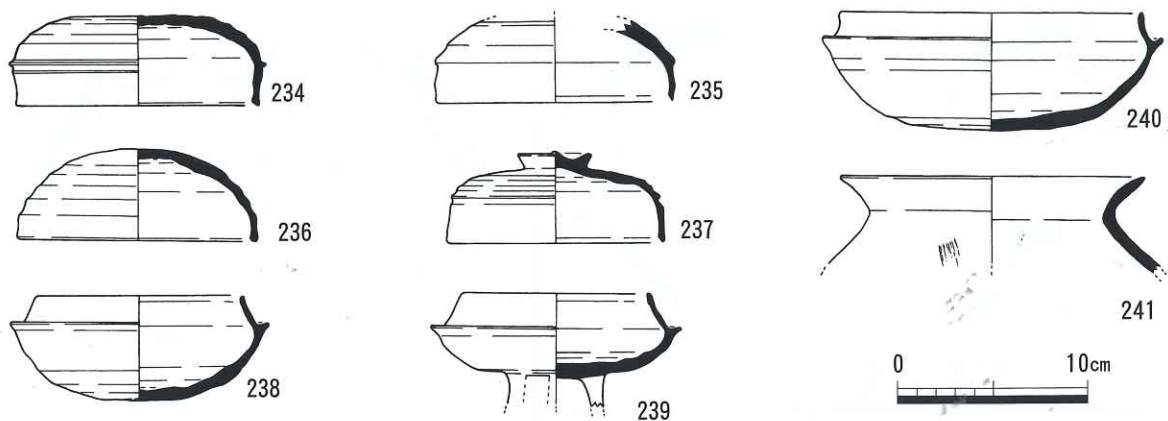
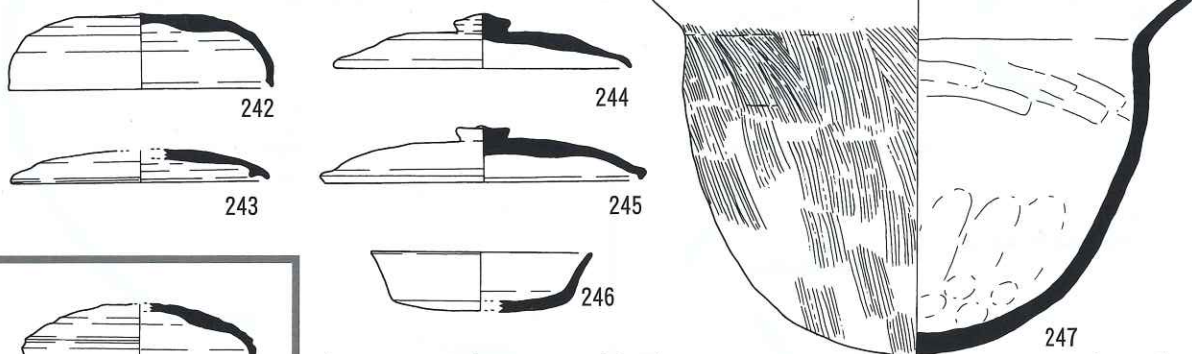


図11 出土遺物実測図 ⑨



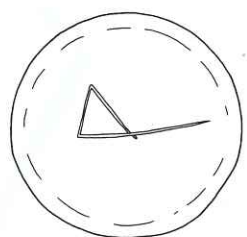
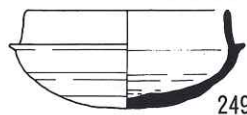
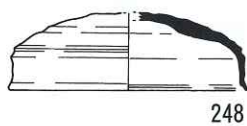
(234~240 須恵器 241 土師器)

〈SD-1〉

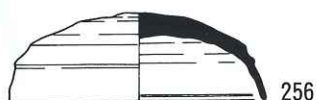
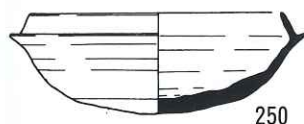


(242~246 須恵器 247 土師器)

〈SD-2〉

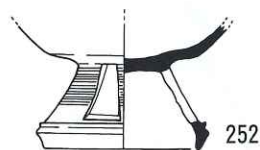
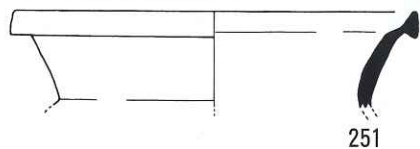


(須恵器)

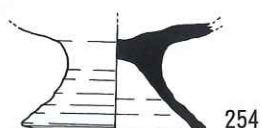
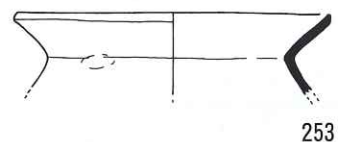


(須恵器)

〈SD-5〉

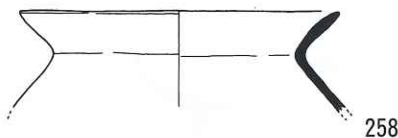
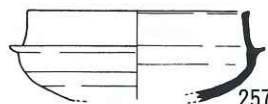


〈SD-4〉

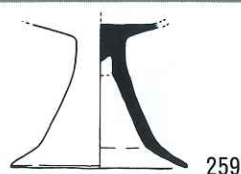


(254, 255 須恵器)

〈SD-3〉



(257 須恵器 258, 259 土師器)



〈SD-7〉

図12 出土遺物実測図 ⑩

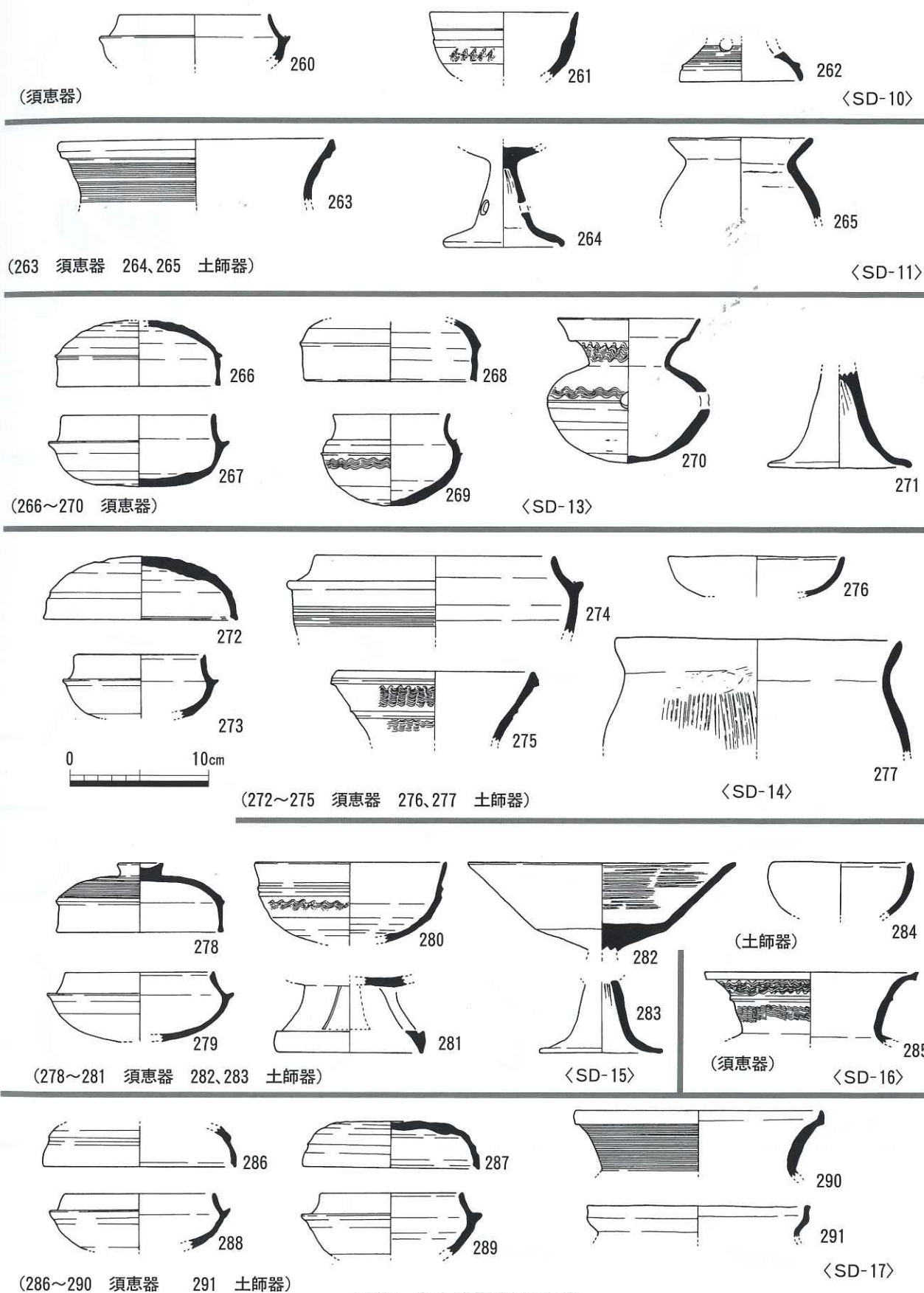
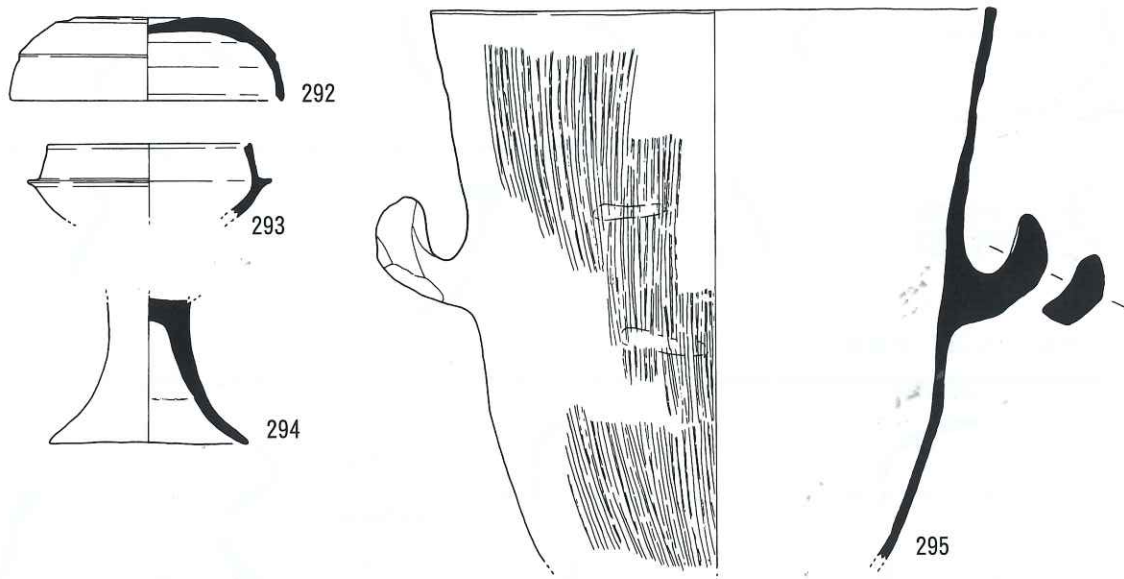
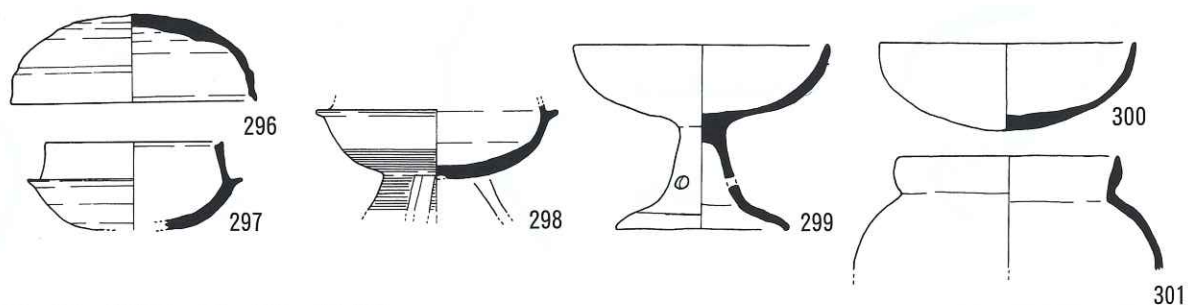


図13 出土遺物実測図 ⑪



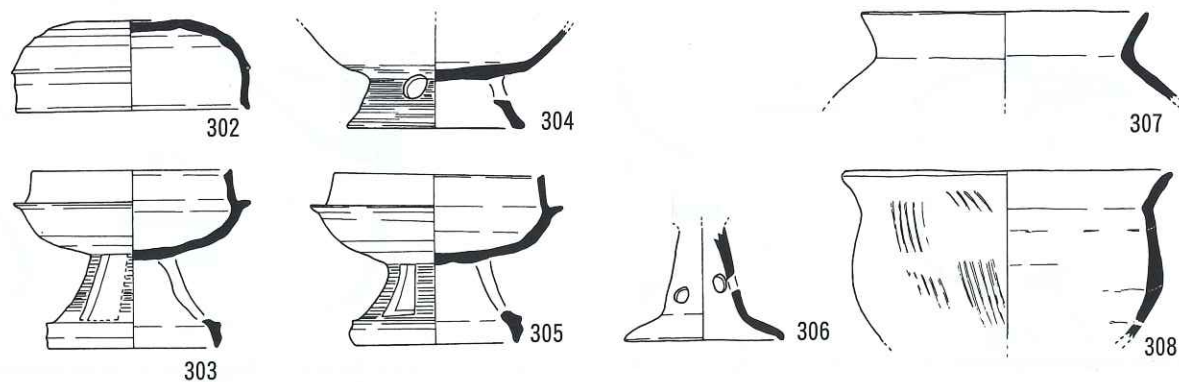
(292、293 須恵器 294、295 土師器)

<SD-18>



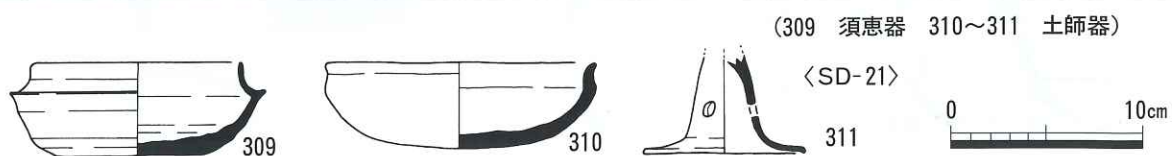
(296~298 須恵器 299~301 土師器)

<SD-20>



(302~305 須恵器 306~308 土師器)

<SD-21>



(309 須恵器 310~311 土師器)

<SD-21>

図14 出土遺物実測図 ⑫

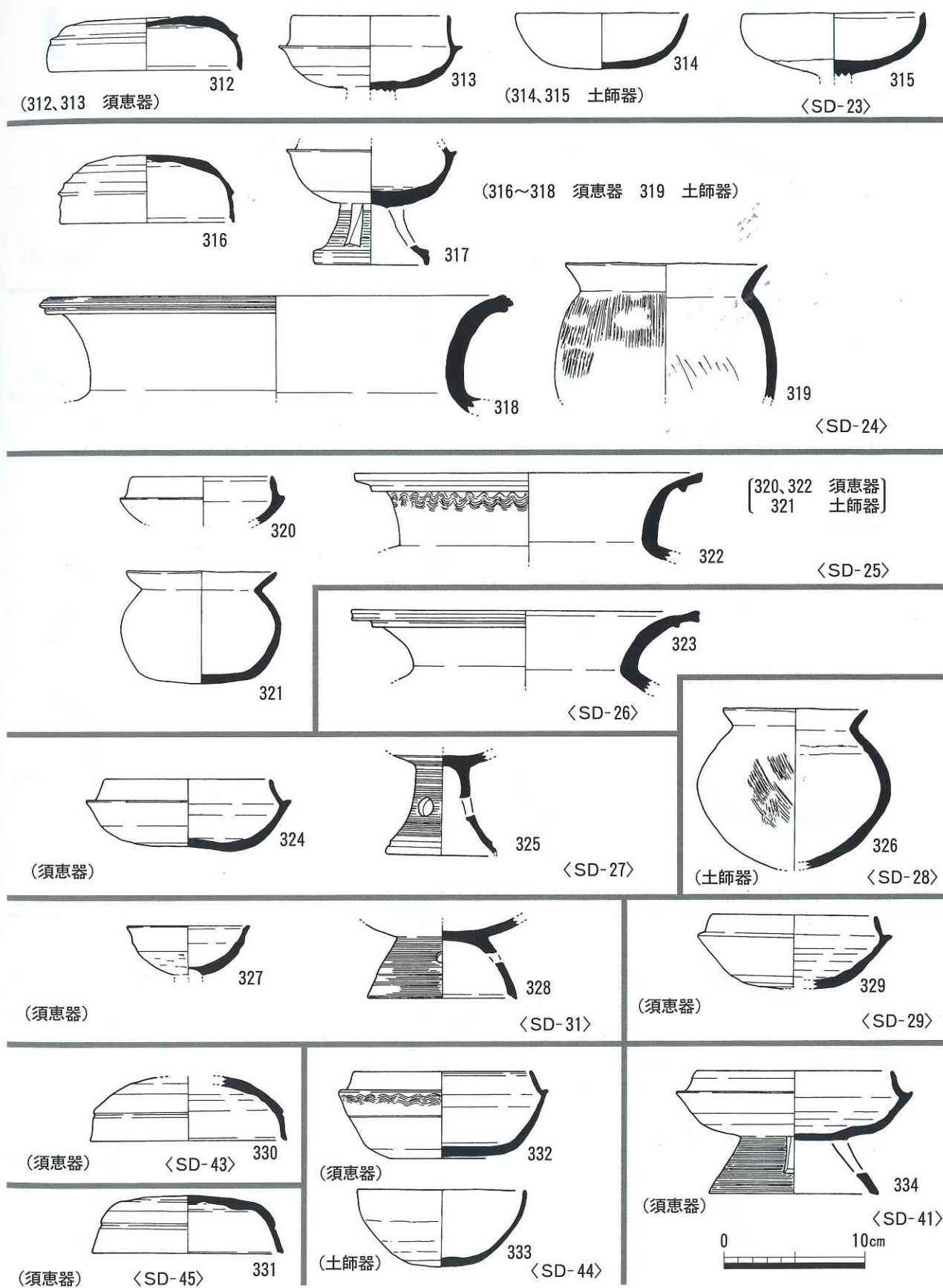


図15 出土遺物実測図 ⑬

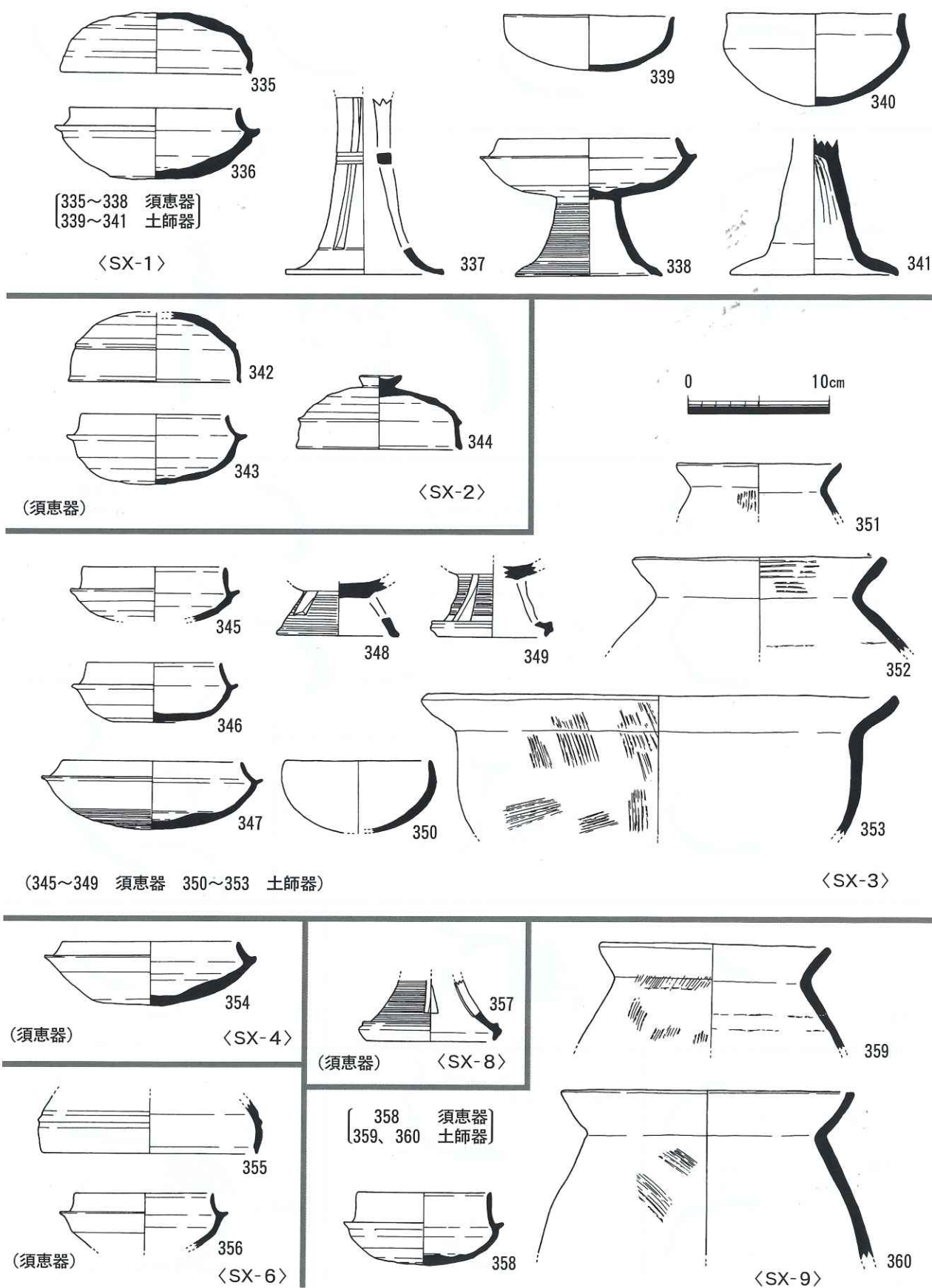


図16 出土遺物実測図 ⑭

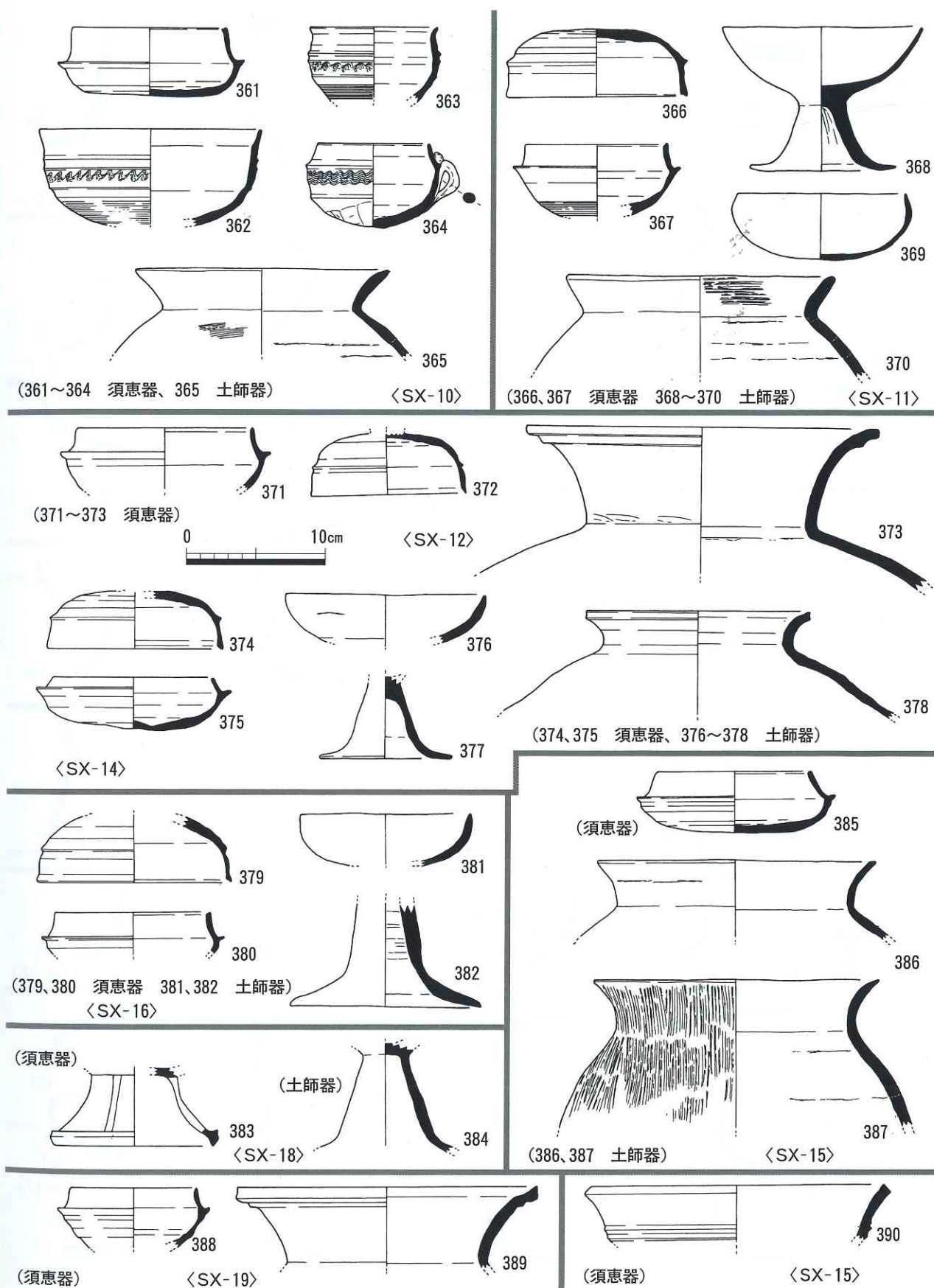


図17 出土遺物実測図 ⑮

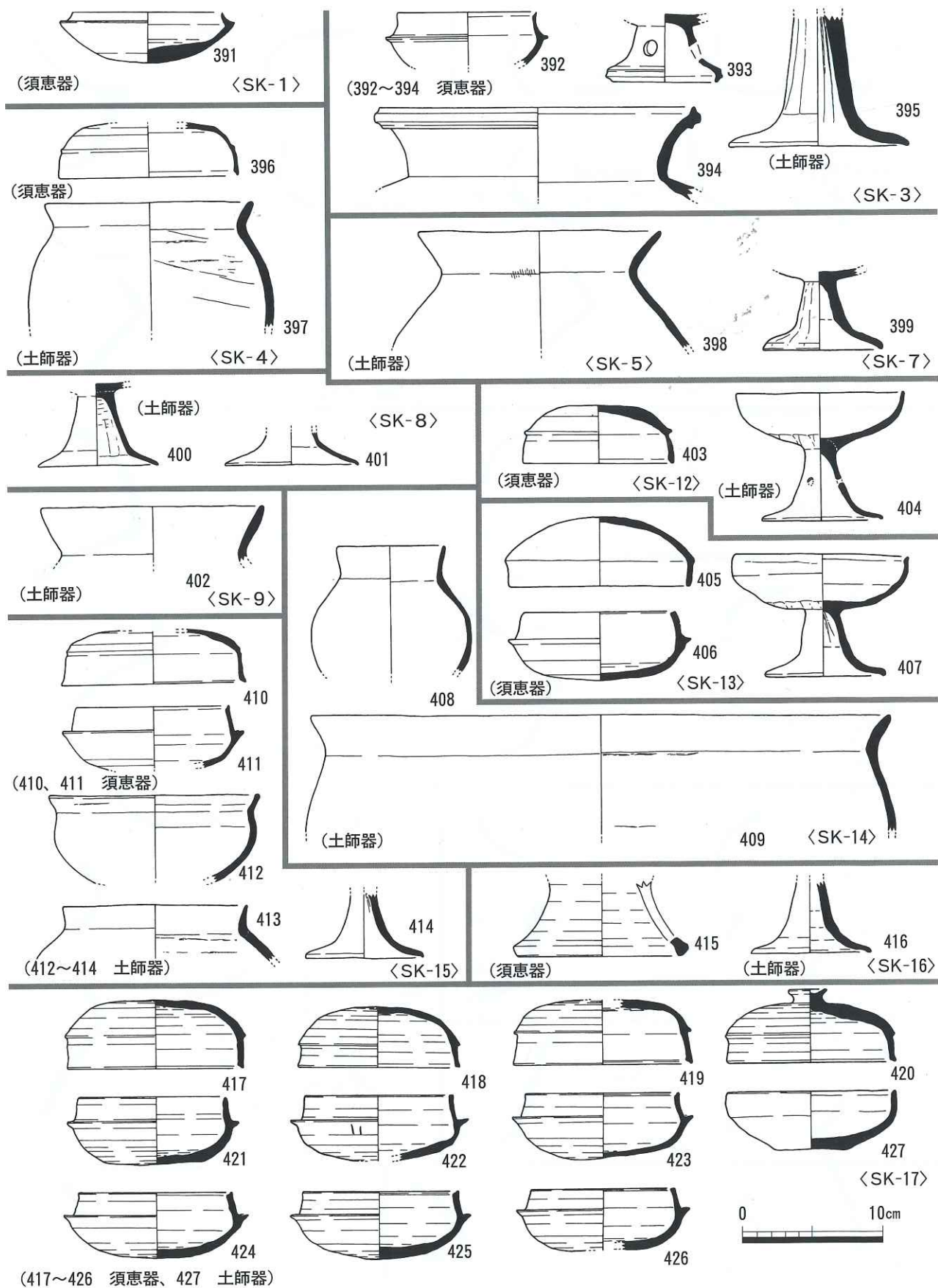


図18 出土遺物実測図 ⑩

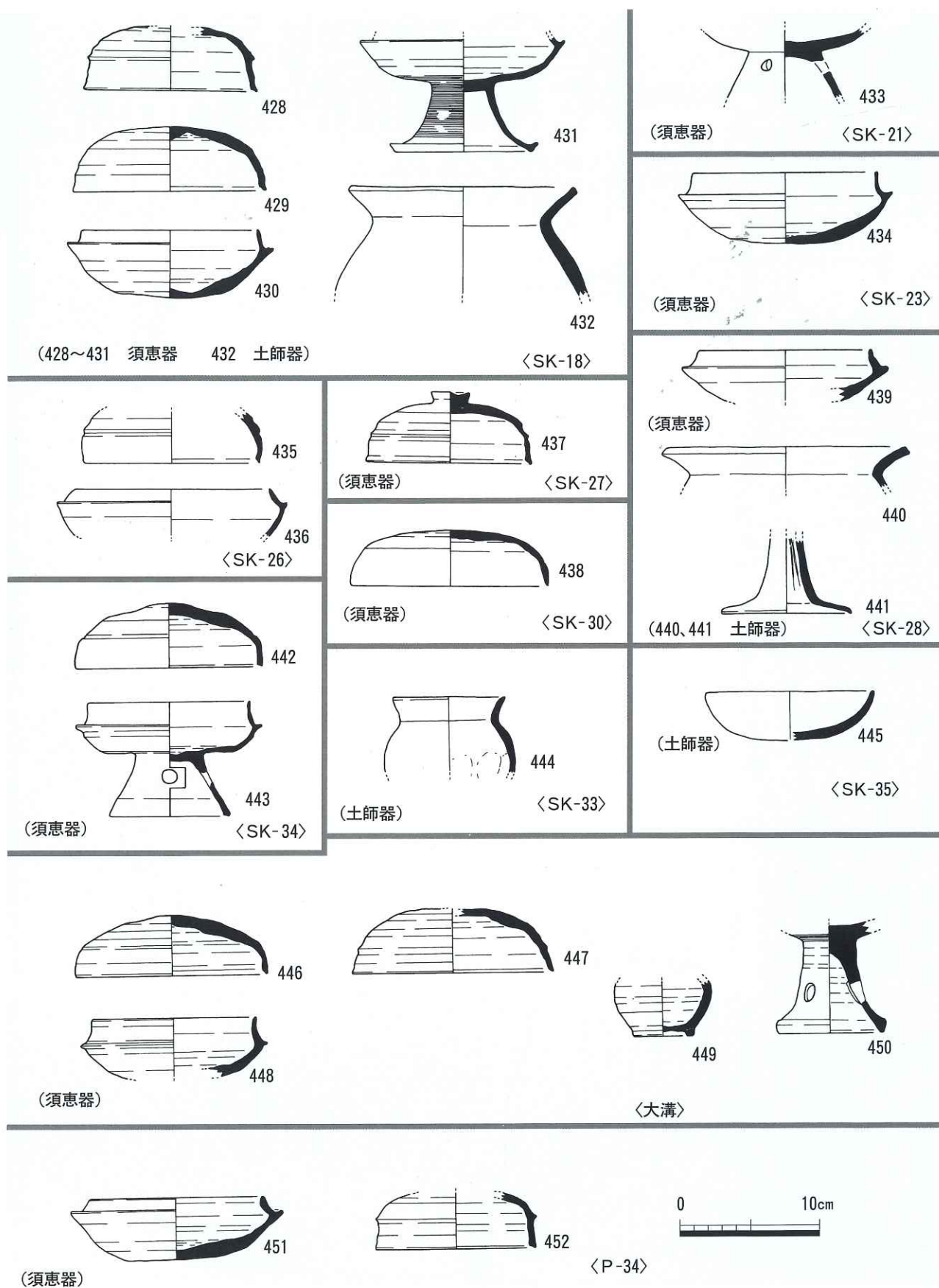


図19 出土遺物実測図 ⑪



調査地全景

2. Tsuji

辻 遺 跡

(83R003-02)

所在地	栗東町出庭字田中128 北緯 35°02'19" 東経 136°00'57"
コード	321-003
調査期間	1984年1月11日～25日
調査面積	147m ²
調査原因	店舗建設
調査担当	大崎隆志
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	古墳時代～中世
主な遺構	ピット、溝、旧河道
主な遺物	須恵器、土師器
文献	

83R003-01調査区の北に隣接する調査区である。中世の溝（SD-1）が検出され、土師器皿・羽釜、黒色土器が出土した。SD-1に先行する流路からは緑釉陶器が出土している。

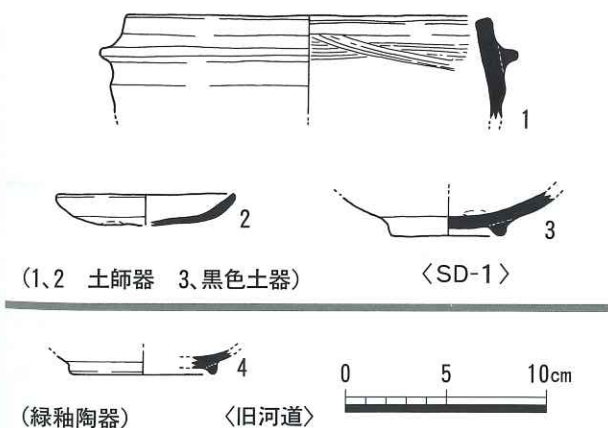


図3 出土遺物実測図

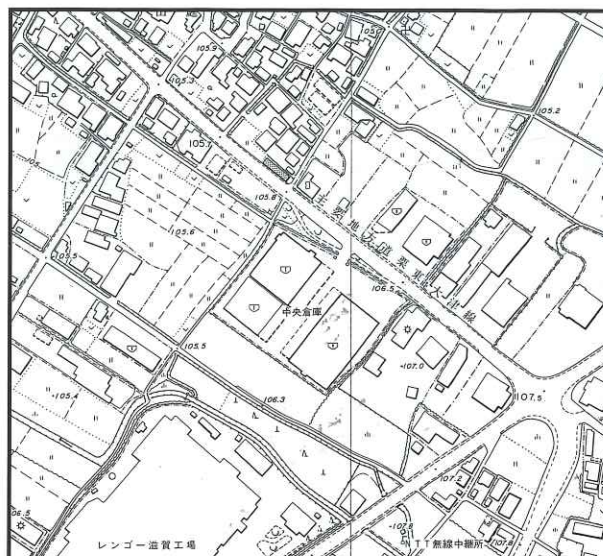


図1 調査地位置図

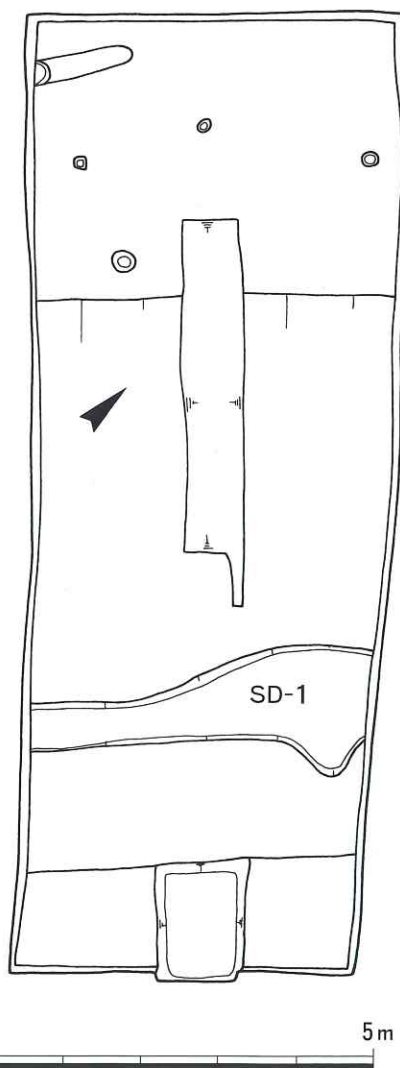


図2 調査地遺構図

3. Hayashi

林 遺 跡

(83R009-01)

所在地	栗東町林256 北緯 35°01'34" 東経 136°01'36"
コード	321-009
調査期間	1983年4月7日～4月18日
調査面積	100㎡
調査原因	個人用住宅
調査担当	平井 寿一
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	集 落
主な時代	古墳時代、中世
主な遺構	土坑、ピット、溝
主な遺物	土師器
文 献	

新善光寺敷地内の調査である。T-1からは近世以降の濠が検出されている。T-2では土坑・溝・ピットが検出されている。土坑(SK-1)は石敷であったと考えられるもので、信楽焼擂鉢が出土している。

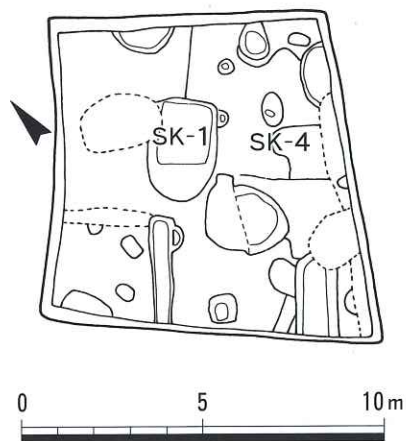


図2 T-2 遺構図

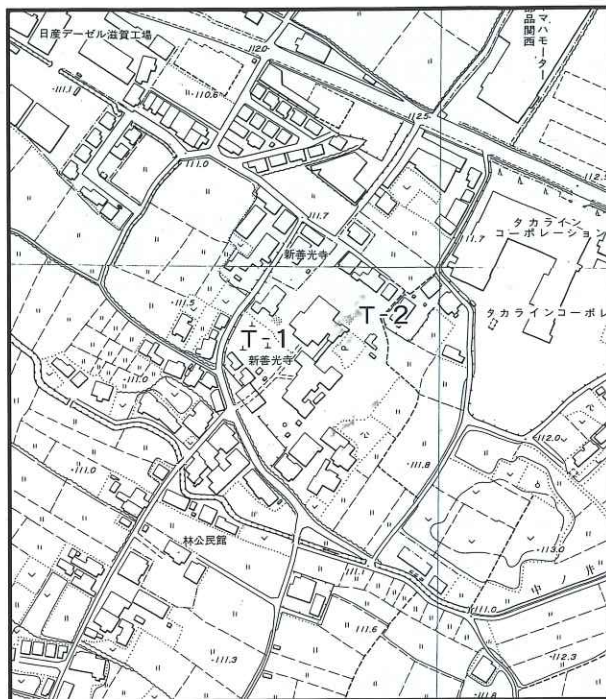


図1 調査地位置図



T-2 全景

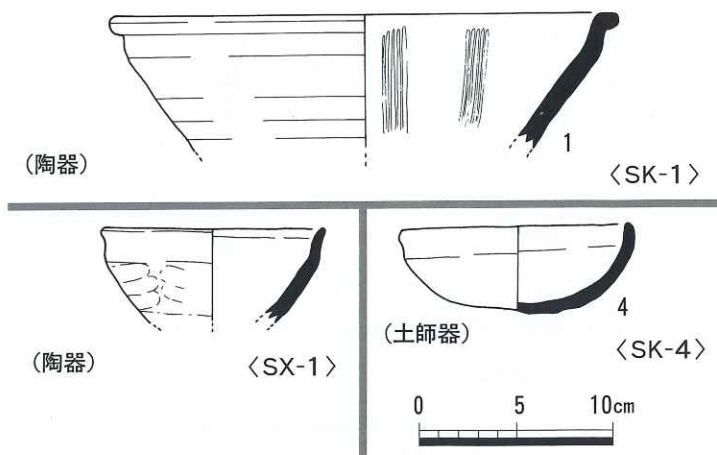


図3 出土遺物実測図

4. Hayashi

林 遺 跡

(83R009-02)

所在地	栗東町林字里内256
	北緯 35°01'34"
	東経 136°01'35"
コード	321-009
調査期間	1983年6月1日～2日
調査面積	40m ²
調査原因	防火水槽
調査担当	清水 好 洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集 落
主な時代	不明
主な遺構	ピット
主な遺物	なし
文 献	

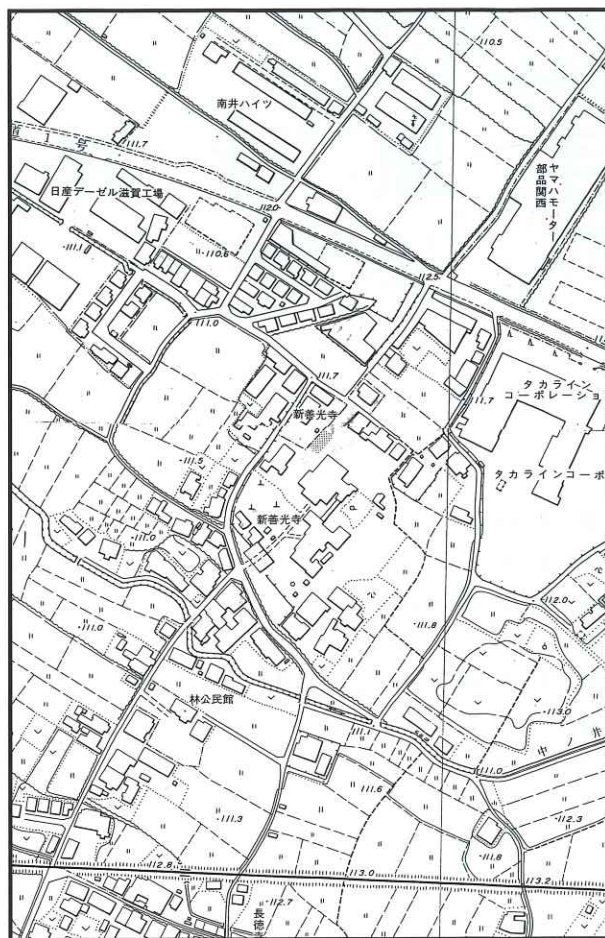


図1 調査地位置図

新善光寺敷地内の防火水槽工事に伴う調査である。顕著な遺構・遺物は発見されていない。

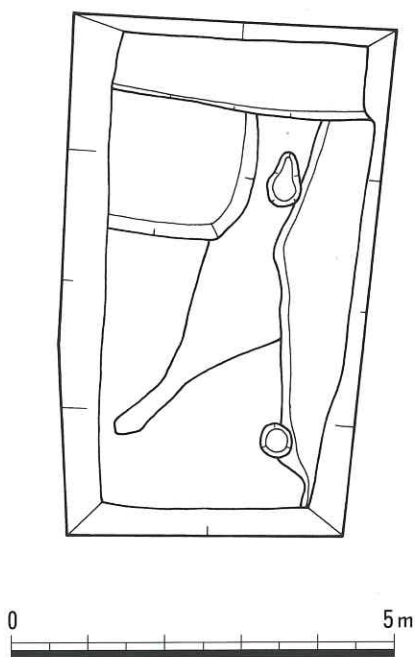


図2 調査地遺構図



新善光寺

平家の落ち武者である平宗定が高野左衛門尉と称してこの地に住み、長野善光寺に帰依して平家追福のために開いた寺院であると伝えられる。

5. Tehara

手原遺跡

(83R025-01)

所在地	栗東町手原 北緯 35°00'06" 東経 136°01'26"
コード	321-025
調査期間	1983年6月30日～7月19日
調査面積	517.55m ²
調査原因	駐在所建設
調査担当	平井 寿一
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	寺院・官衙・集落
主な時代	奈良～平安時代
主な遺構	掘立柱建物・土抗・溝
主な遺物	瓦、土師器、白磁、石硯
文献	

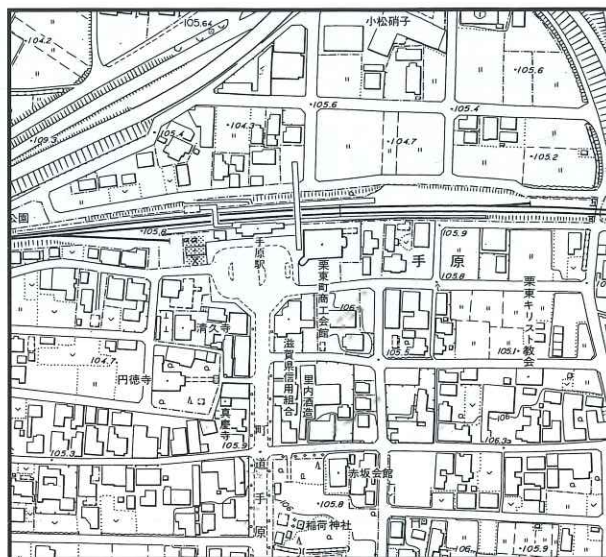


図1 調査地位置図



調査区全景（南より見る）

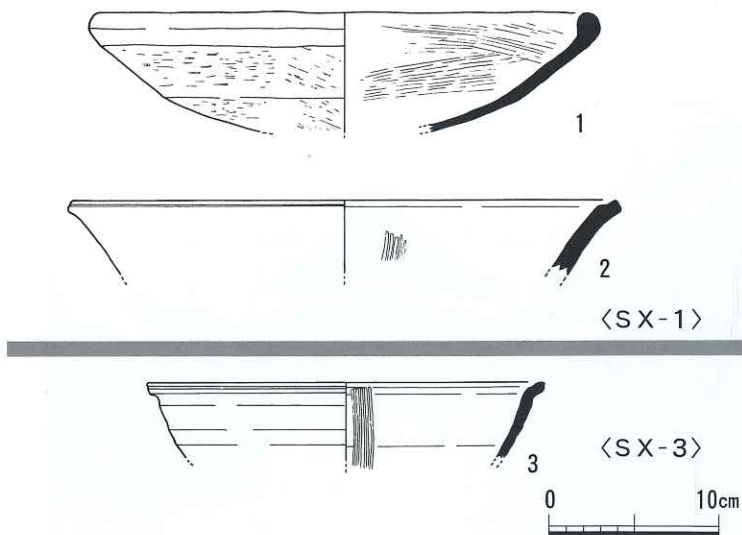


図2 出土遺物実測図

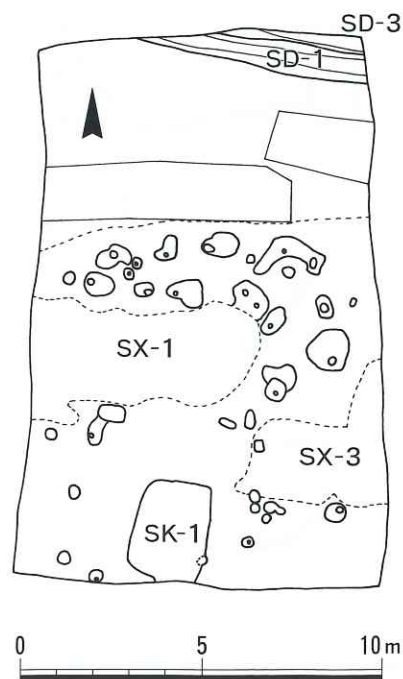


図3 調査地遺構図

1982年度調査で、多量の古瓦が出土した地点の北側にあたる。今回の調査では、中世の掘立柱建物等が検出された。柱穴から複弁蓮華文軒丸瓦が1点出土している。

6. Tehara

手原遺跡

(83R025-02)

所在地	栗東町大橋字八反田598-5 北緯 35°01'05" 東経 136°00'21"
コード	321-025
調査期間	1983年10月3日～10月14日
調査面積	421㎡
調査原因	造成工事
調査担当	平井 寿一
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	平安時代
主な遺構	掘立柱建物、土抗
主な遺物	土師器、灰釉陶器
文献	

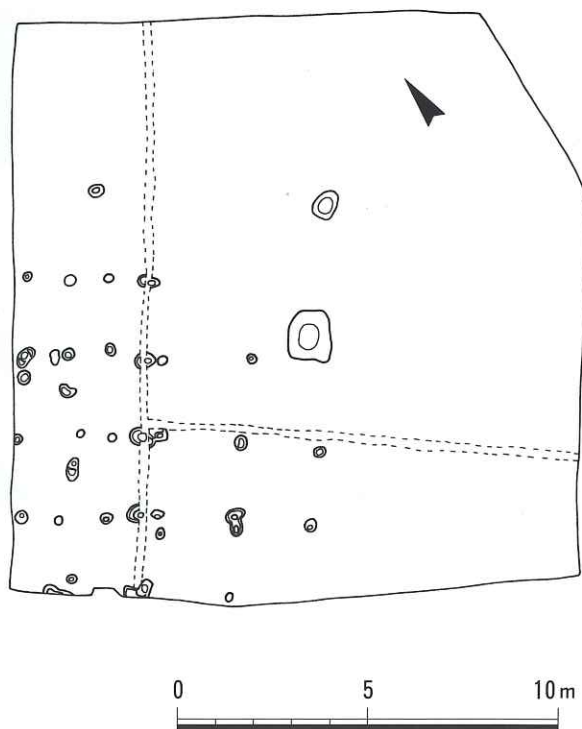


図2 調査地遺構図

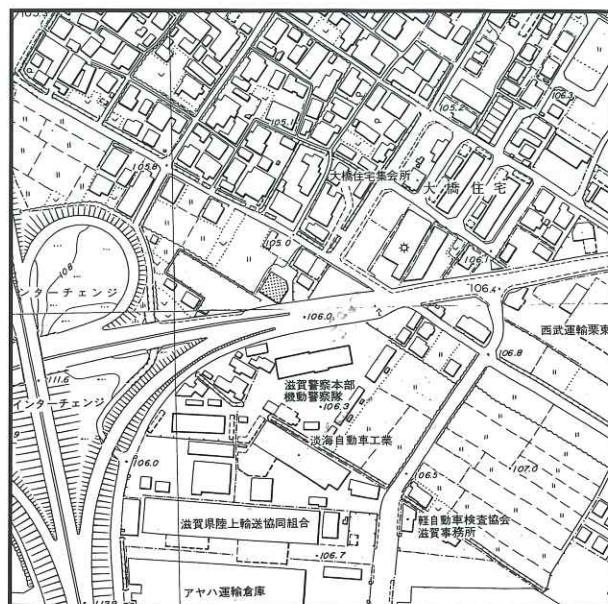


図1 調査地位置図

手原遺跡の北東隅で高野遺跡に隣接する地点で、異方位地割の範囲外での発掘調査である。調査では平安時代の掘立柱建物、及び土坑が検出されている。

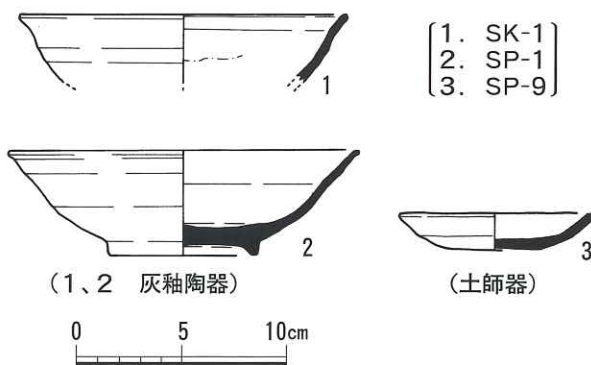


図3 出土遺物実測図



掘立柱建物（南東より）

7. Tehara

手原遺跡

(83R025-03)

所在地	栗東町手原上永正172-1 他 北緯 35°01'34" 東経 136°00'07"
コード	321-025
調査期間	1983年10月22日～12月23日
調査面積	2,347㎡
調査原因	工場建設
調査担当	大崎隆志
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	平安時代
主な遺構	掘立柱建物、溝
主な遺物	須恵器
文献	④

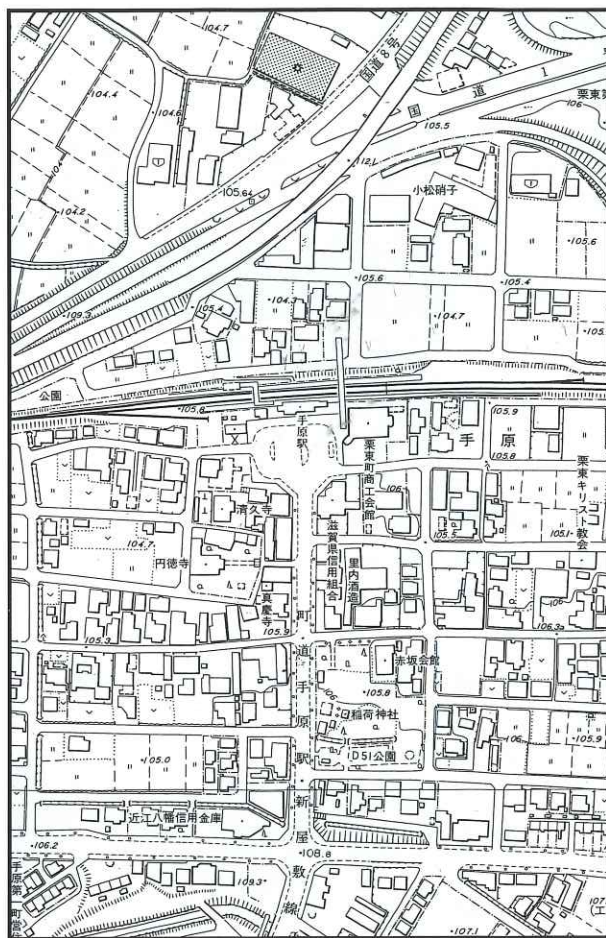
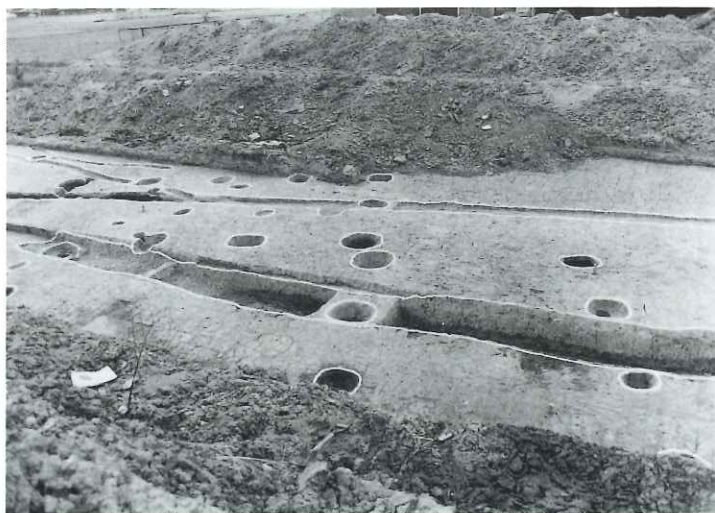


図1 調査地位置図

手原遺跡は、正南北方向の地割りが残ることや、古瓦の散布から廃寺跡や官衙跡の可能性が考えられている。また1982年度以降に実施されている発掘調査では、JR草津線の北側を中心に8世紀後半以降の総柱建物群が、柱筋をそろえるなどして計画的に配置されていたことが明らかになっている。本調査区ではこうした建物群が検出される地点のさらに北側にあたり、4間×2間などの側柱建物4棟が発見された。また、建物群の東側には建物群と同様の方位をとる溝が検出されており、区画溝を伴っていた可能性が考えられている。



掘立柱建物

手原遺跡の8世紀後半以降の建物群は、総柱建物群を中心とする一群と今回の調査のように側柱建物から成る一群とがあり、機能が異なる建物群が計画的に配置されていた状況が窺える。

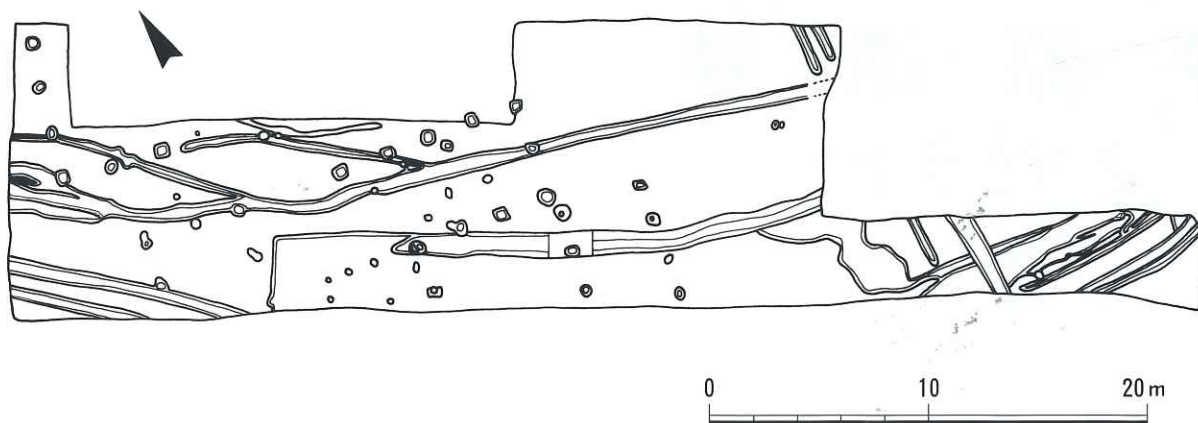


図2 調査地遺構図

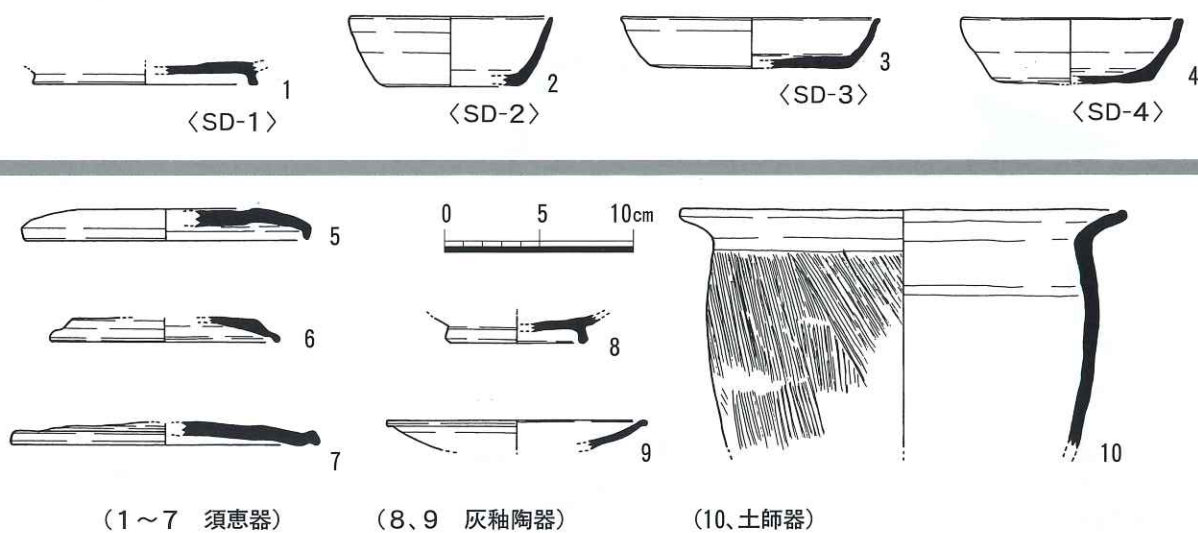


図3 出土遺物実測図

8. Tehara

手原遺跡

(83R025-04)

所在地	栗東町手原字里の内913 他 北緯 35°01'25" 東経 136°00'10"
コード	321-025
調査期間	1984年2月20日～3月15日
調査面積	1,336㎡
調査原因	病院建設
調査担当	松村 浩
調査機関	栗東町教育委員会／財栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	平安時代～近世
主な遺構	濠、溝、ピット、土抗
主な遺物	陶器、瓦質土器
文献	

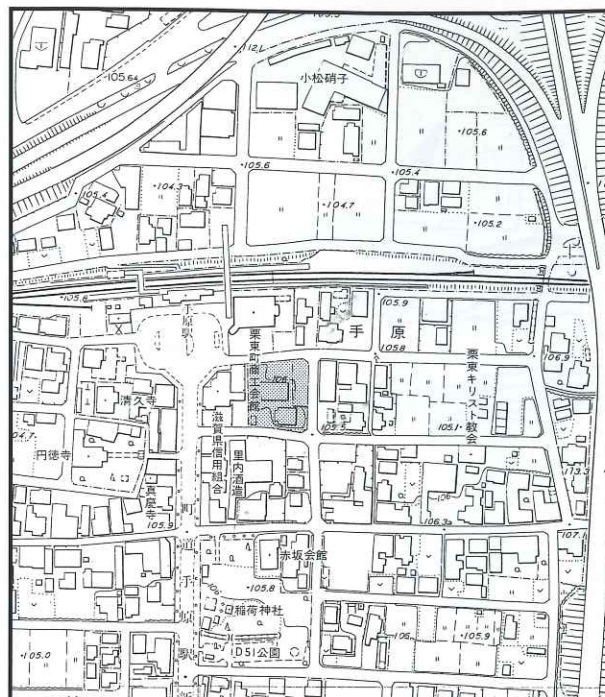


図1 調査地位置図

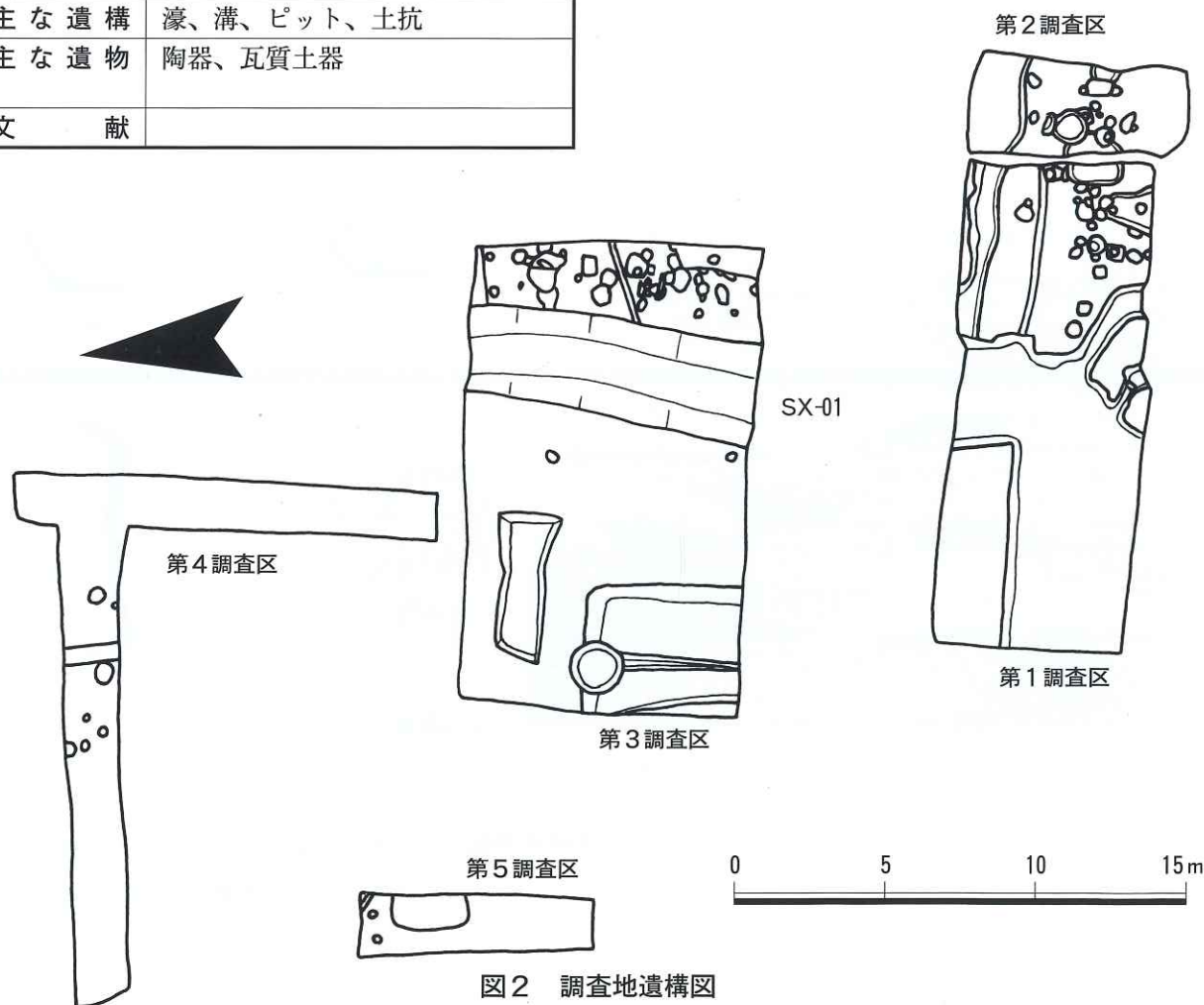
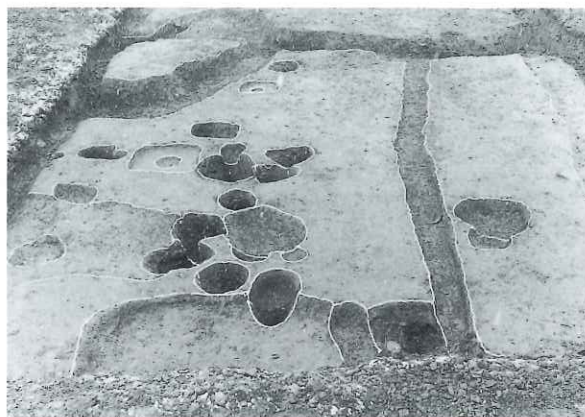


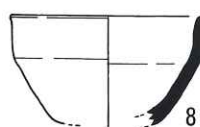
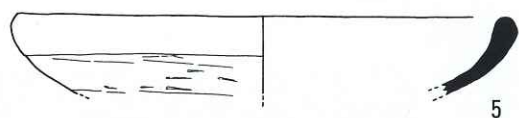
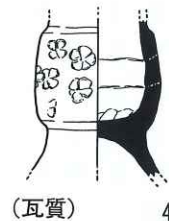
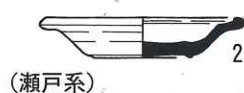
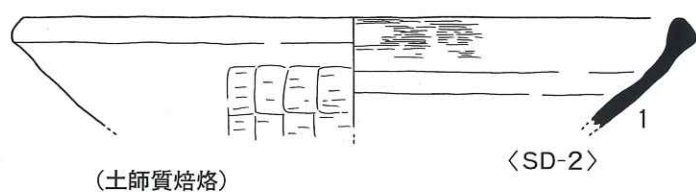
図2 調査地遺構図

本調査地は、手原遺跡内でも瓦が集中して発見される地区から東にはずれた地点である。1982年度には本調査区の西隣で調査が実施され、古瓦多数と中、近世の土器が出土した。今回の調査では第3及び第1調査区から南北方向の幅3mの溝（SX-01）が検出された。溝の東側には柱穴が集中しており、調査地及びその東側に屋敷地があったと考えられる。

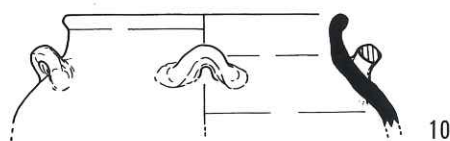
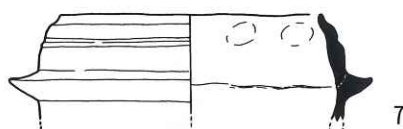
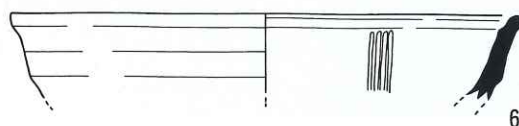
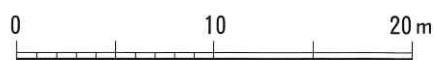
出土遺物では柱穴から備前焼鳥形水注が出土しており、注目される。



第1調査区（東から）



<5~9 SX-2>



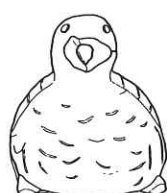
<SX-03>

(瀬戸美濃系)

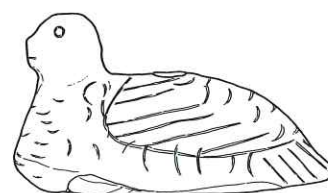
(5、土師質焙烙 6、信楽 7、瓦質 8、9 瀬戸美濃系)



(備前)



<P-04>



11

図3 出土遺物実測図

9. Hachiya

蜂屋遺跡

(83R022-01)

所在地	栗東町蜂屋字宮の前224
	北緯 35°01' 53"
	東経 135°59' 59"
コード	321-022
調査期間	1983年4月18日～28日
調査面積	1,170㎡
調査原因	草の根広場 造成
調査担当	平井 寿一
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	寺院、集落
主な時代	古墳時代
主な遺構	掘立柱建物
主な遺物	土師器
文献	

本調査区は宇和宮神社の南に隣接する地点である。神社周辺には正南北方向の地割りが残っている。本調査区では正南北方向の掘立柱建物および近世の濠状遺構が検出された。

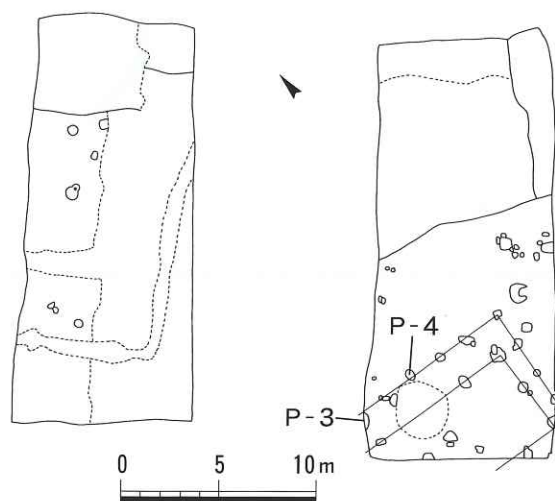


図2 調査地遺構図

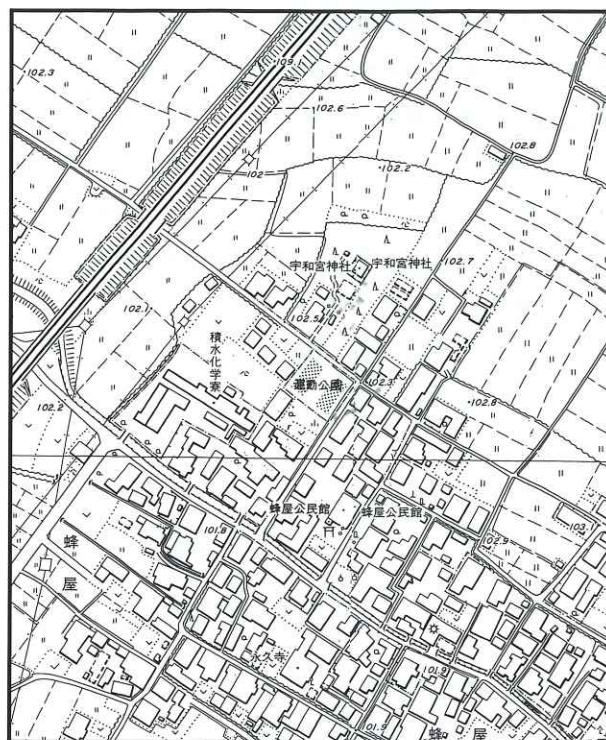
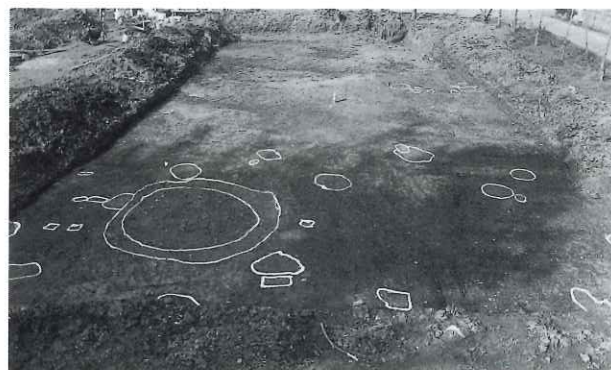


図1 調査地位置図



東側トレンチ全景

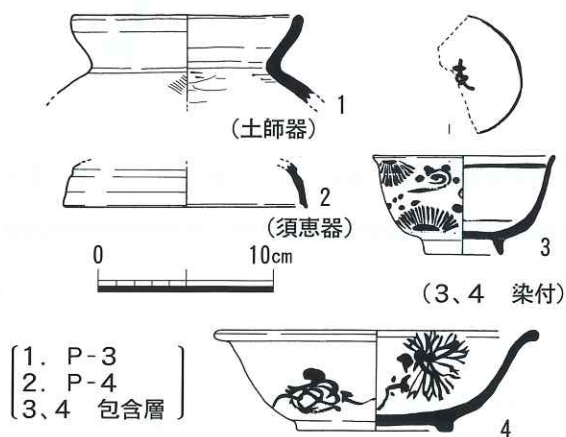


図3 出土遺物実測図

10. Hachiya

蜂屋遺跡

(83R022-02)

所在地	栗東町蜂屋字墓原63
	北緯 35°01'46"
	東経 136°00'09"
コード	321-022
調査期間	1983年5月20日～6月9日
調査面積	333m ²
調査原因	個人住宅
調査担当	平井 寿一
調査機関	栗東町教育委員会
種別	寺院、集落
主な時代	平安時代～近世
主な遺構	柵列、溝、ピット
主な遺物	黒色土器、白磁、陶器
文献	



図1 調査地位置図



調査区全景

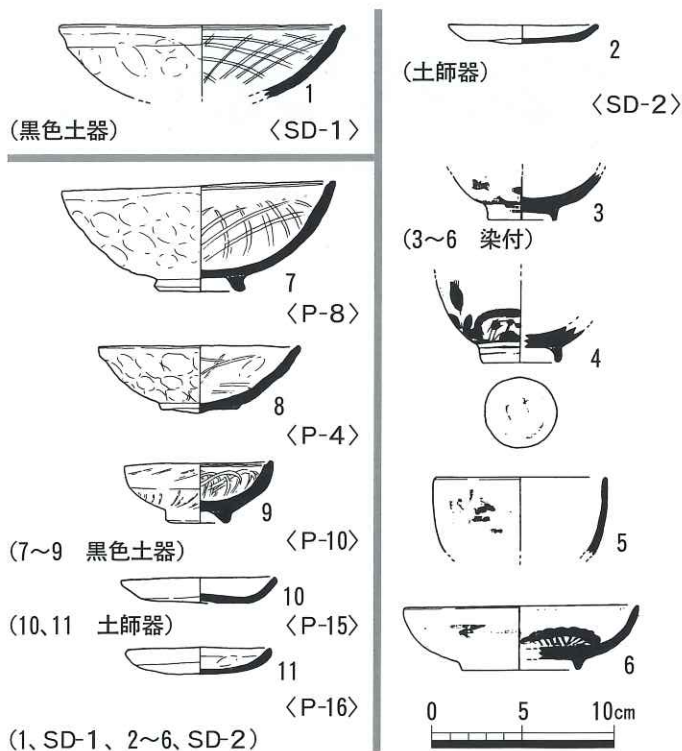


図2 出土遺物実測図

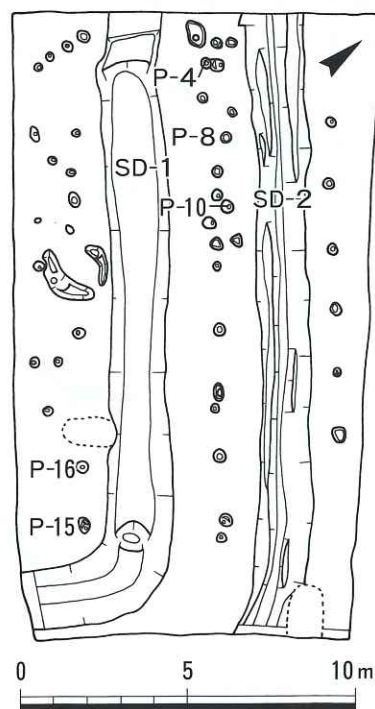


図3 調査地位置図

11. Hachiya

蜂屋遺跡

(83R022-03)

所在地	栗東町蜂屋字墓原53-1
	北緯 35°01'48"
	東経 136°00'07"
コード	321-022
調査期間	1984年1月6日～14日
調査面積	330m ²
調査原因	個人住宅
調査担当	平井寿一
調査機関	栗東町教育委員会
種別	寺院、集落
主な時代	鎌倉時代
主な遺構	井戸、溝
主な遺物	瓦、黒色土器、瓦器
文献	

本調査区では、小溝多数および井戸1基が検出された。小溝は井戸に先行する時期で条里方向に沿っている。井戸は掘方が直径約3mのもので、最下層で井戸枠の部材が見られた。黒色土器、瓦器、土師皿、箸が出土している。他に包含層から巴文軒丸瓦が出土した。

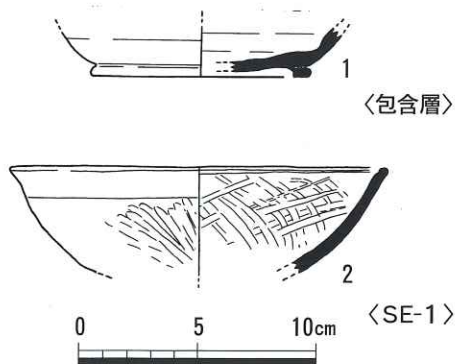


図2 出土遺物実測図

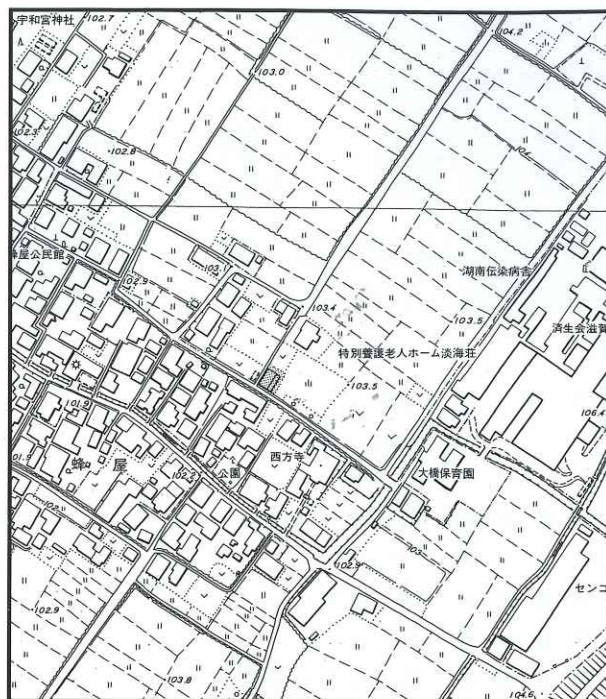


図1 調査地位置図



調査区全景

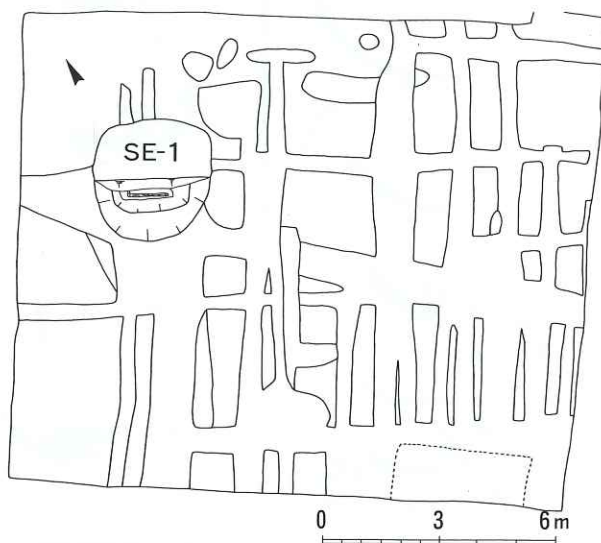


図3 調査地遺構図

12. Ryosenji

靈仙寺遺跡

(83R033-01)

所在地	栗東町北中小路字桃田342-5 北緯 35°02'21" 東経 135°58'22"
コード	321-033
調査期間	1983年12月13日～24日
調査面積	494m ²
調査原因	個人住宅、倉庫
調査担当	松村 浩
調査機関	栗東町教育委員会
種別	墓、集落
主な時代	弥生時代～近世
主な遺構	
主な遺物	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、瓦
文献	

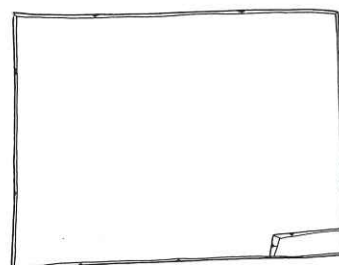
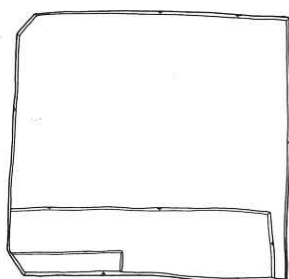
本調査区では弥生時代から近世にいたる包含層が確認されたが、顕著な遺構は発見されなかった。出土した遺物には弥生土器・土師器・須恵器・陶器・瓦等がある。



図1 調査地位置図



東側トレンチ



0 5 10m

図2 調査地遺構図

13. Nakamura

中村遺跡

(83R057-01、02)

所在地	栗東町御園字中村地先
	北緯 35°00'07"
	東経 136°01'38"
コード	321-057
調査期間	1982年2月～4月30日 1983年11月～1984年3月
調査面積	40,000㎡
調査原因	区画整理
調査担当	清水好洋
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	平安時代
主な遺構	掘立柱建物、溝、土坑
主な遺物	土師器、黒色土器、瓦器、陶器
文献	

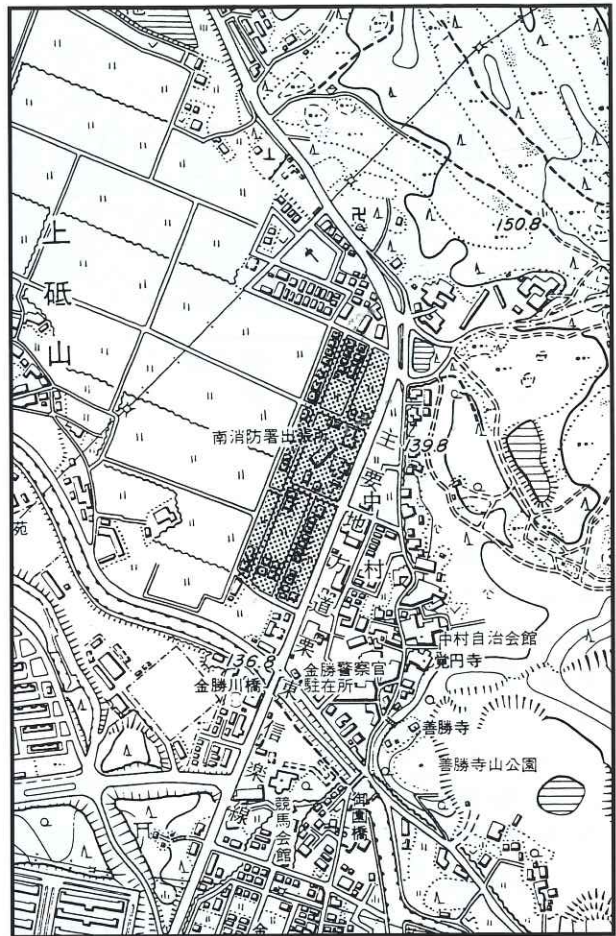


図1 調査地位置図 (S=1/10000)

1982年度調査区の北東側で、引き続き区画整理に伴う調査が実施された。各トレンチで平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物・溝・土坑などが検出されている。

特にT-14からは掘立柱建物群及び7基の土坑 (SK-1～7) が検出され、さらにこれらを取り囲むように幅7m以上の大溝が発見されている。

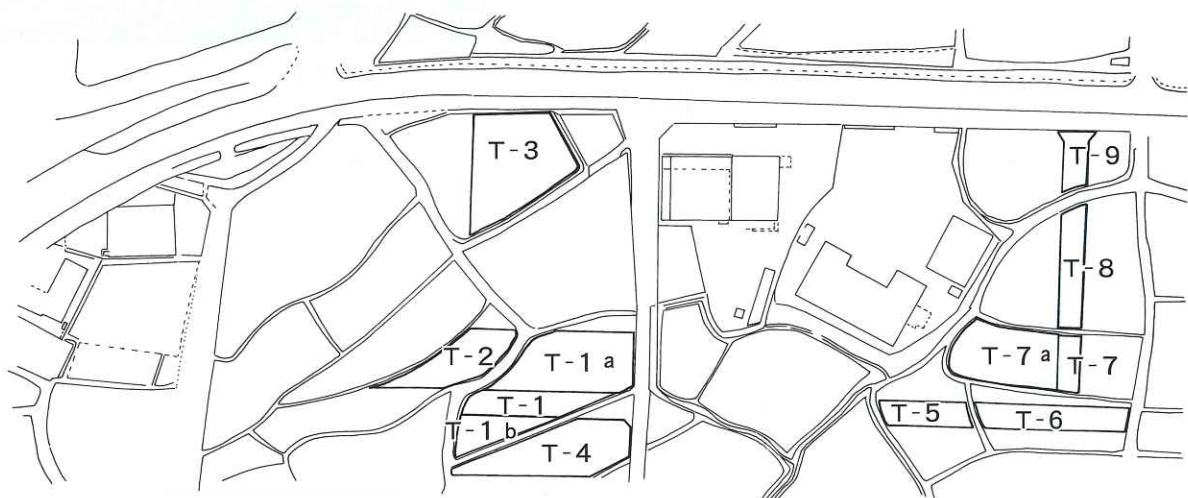


図2 トレンチ配置図



图3 T-1 遺構図

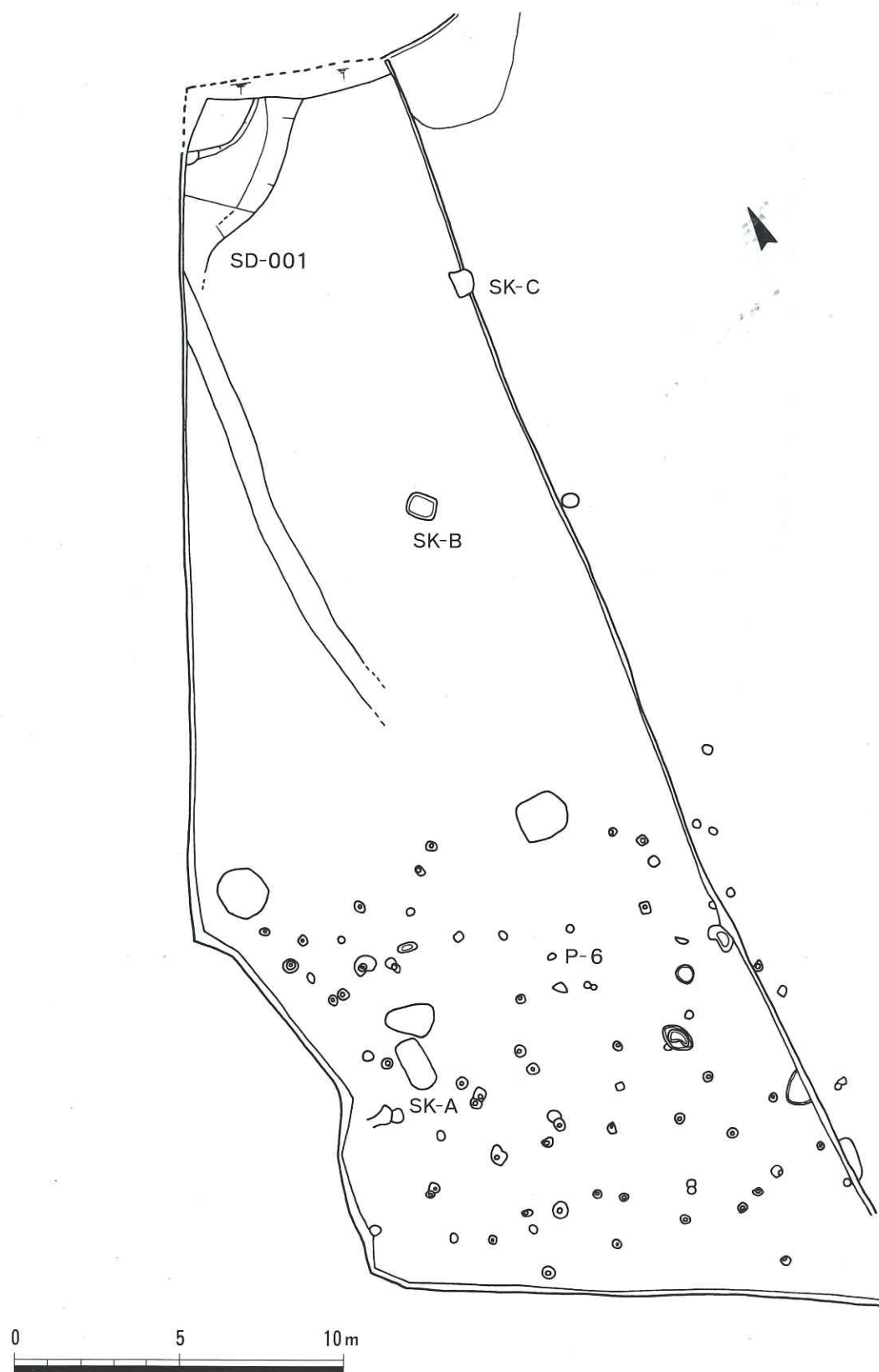


図4 T-4 遺構図



图5 T-6、7 遺構図



図6 T-14 遺構図



T-5



T-14

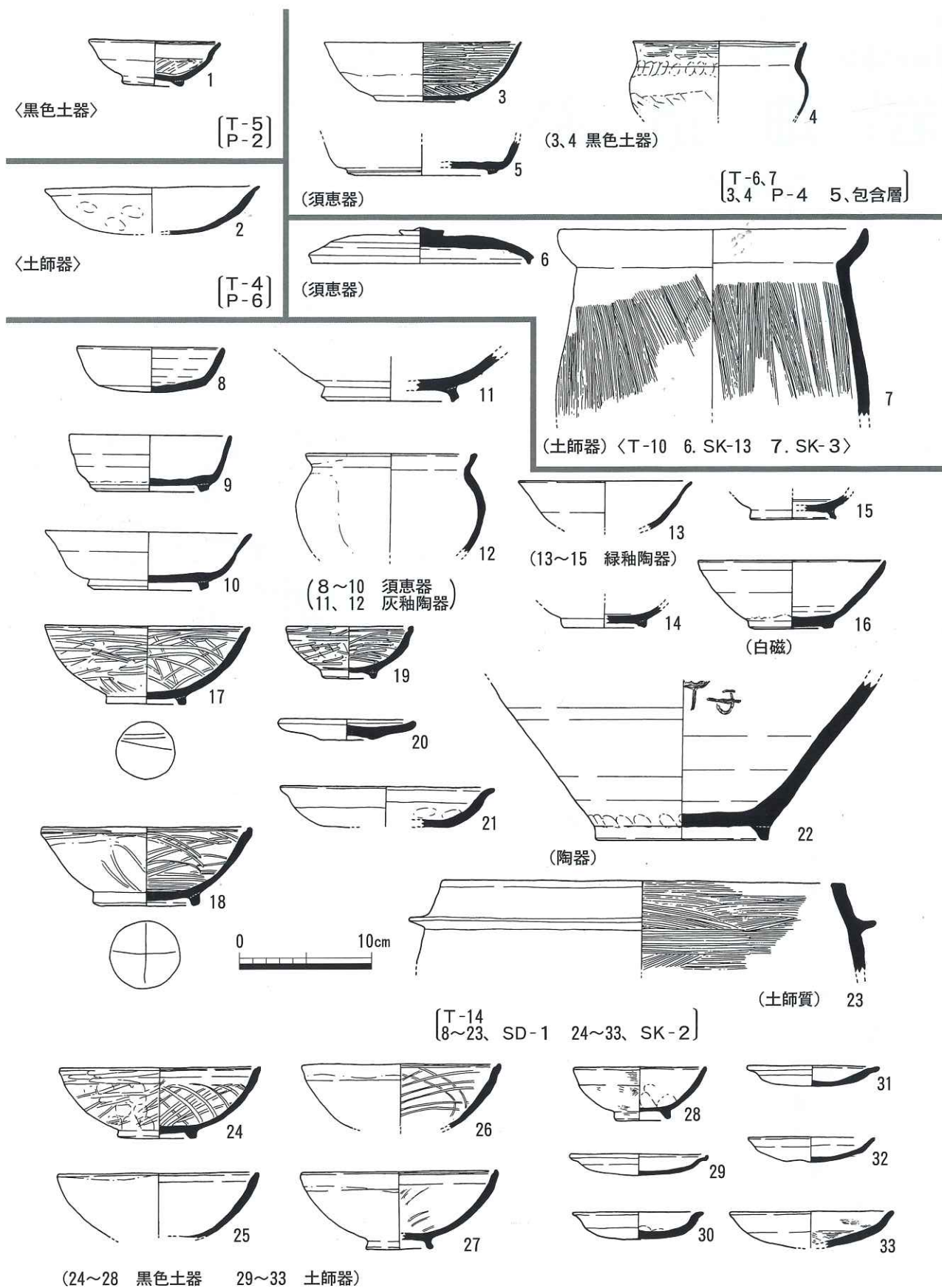


図7 出土遺物実測図

14. Iwahata

岩畑遺跡

(83R085-01)

所在地	栗東町高野字岩畑664-1 北緯 35°01'54" 東経 136°01'15"
コード	321-085
調査期間	1983年5月26日～6月23日
調査面積	661㎡
調査原因	個人用住宅
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	古墳時代、中世～近世
主な遺構	竪穴住居、焼土、土壇、溝
主な遺物	鉄斧、有孔円盤、紡錘車、土師器 須恵器
文献	

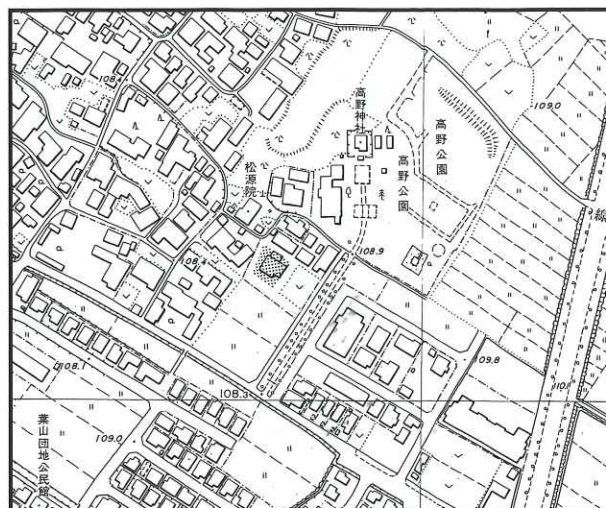
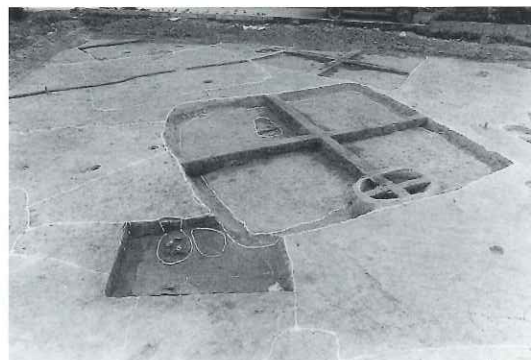


図1 調査地位置図



調査地全景

本調査区では古墳時代前期から後期の竪穴住居が11棟検出されている。遺構の掘り込みは建設予定建物敷地部分を中心に行なわれた。

竪穴住居の内SH-1からは滑石製紡錘車・有孔円盤および滑石の原石が出土している。SH-7からは鉄斧が1点出土している。他に、焼土や炉壁片が出土する土壇が発見されている。

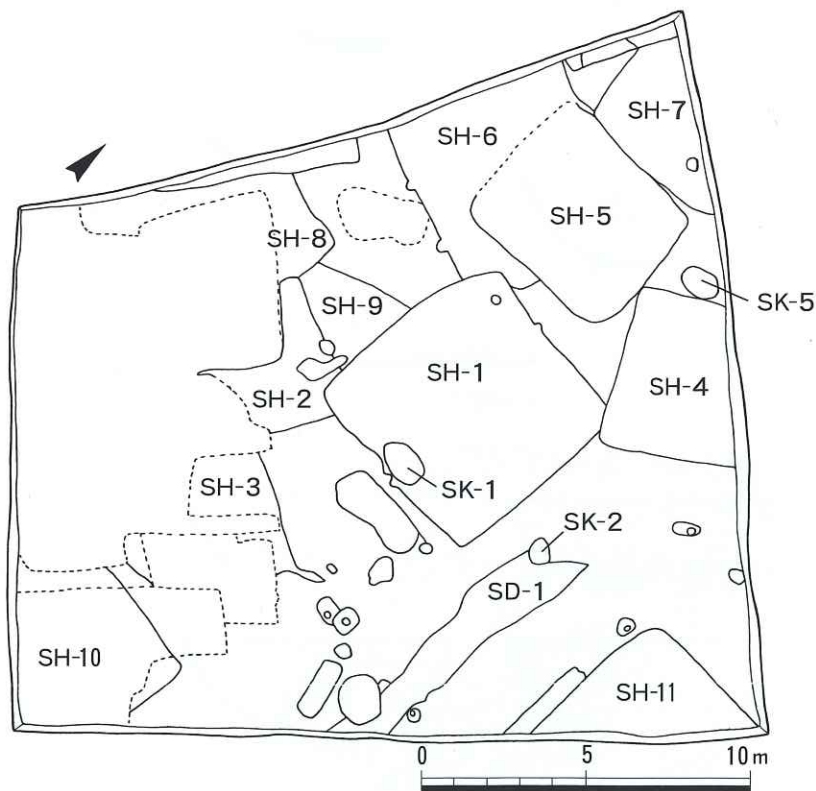


図2 調査地遺構図

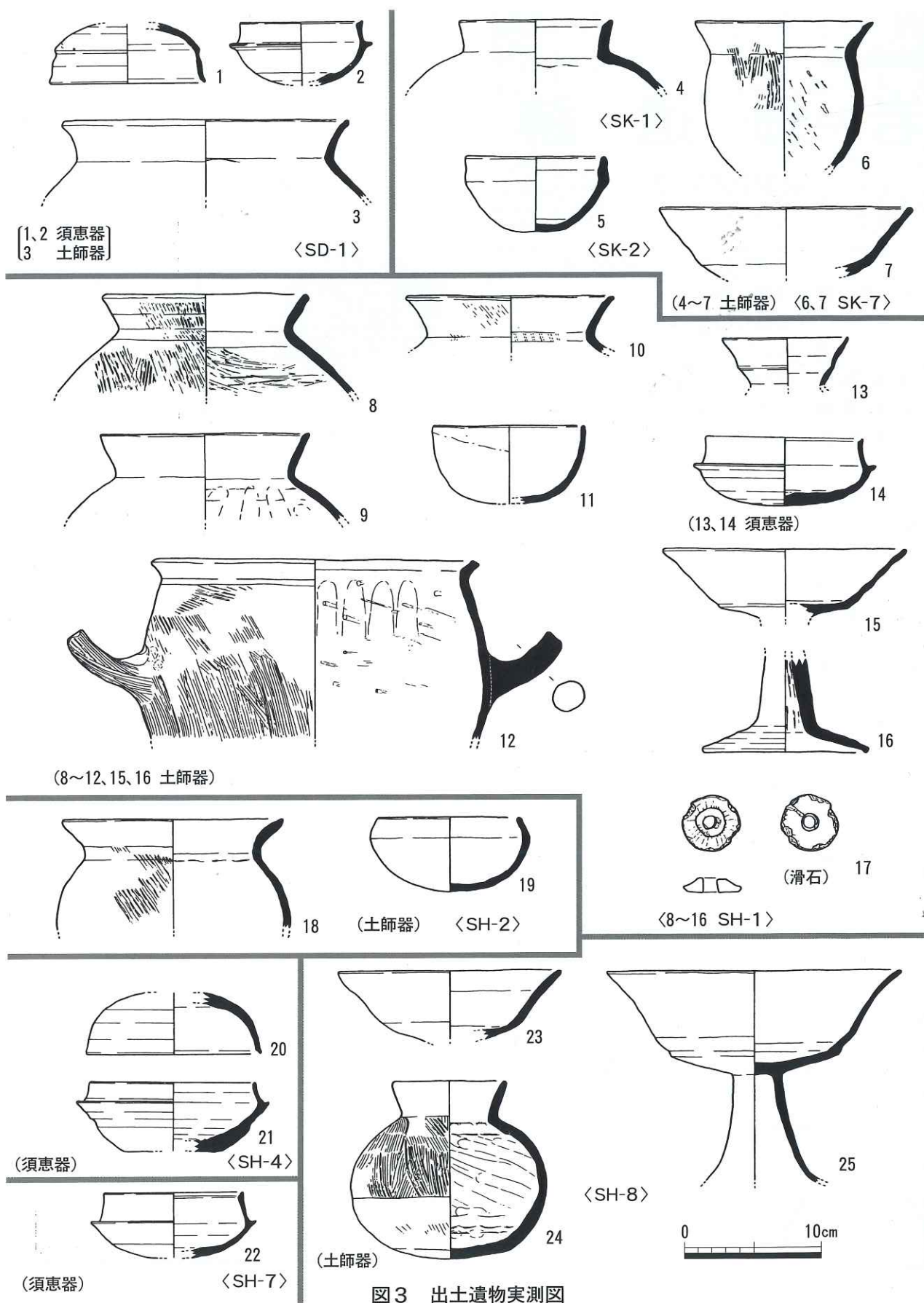


図3 出土遺物実測図

15. Iwahata

岩畑遺跡

(83R085-02)

所在地	栗東町高野字一ツ橋657 他
	北緯 35°01'49"
	東経 136°01'13"
コード	321-085
調査期間	1984年1月19日～2月13日
調査面積	4,032.965m ²
調査原因	宅地造成
調査担当	平井寿一
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	古墳時代、平安時代
主な遺構	掘立柱建物、竪穴住居、井戸
主な遺物	土師器、須恵器
文献	

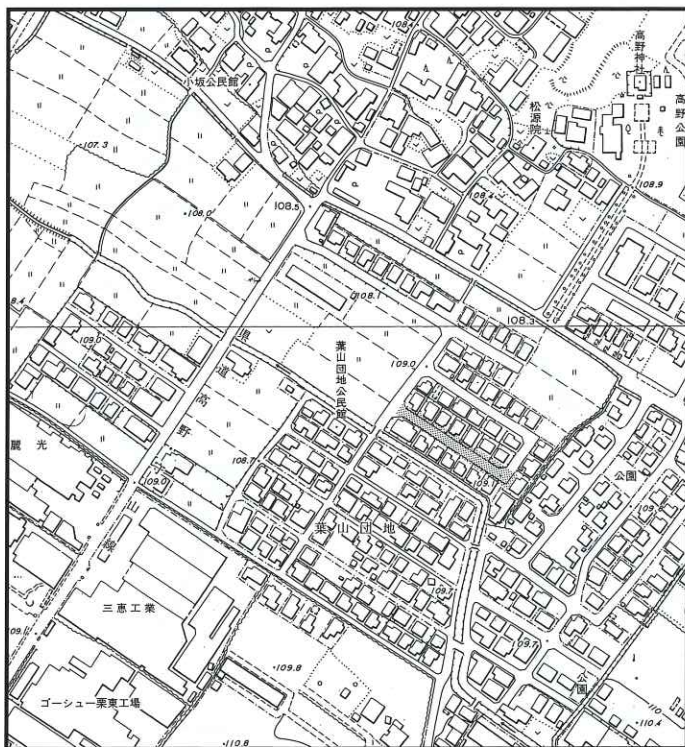


図1 調査地位置図

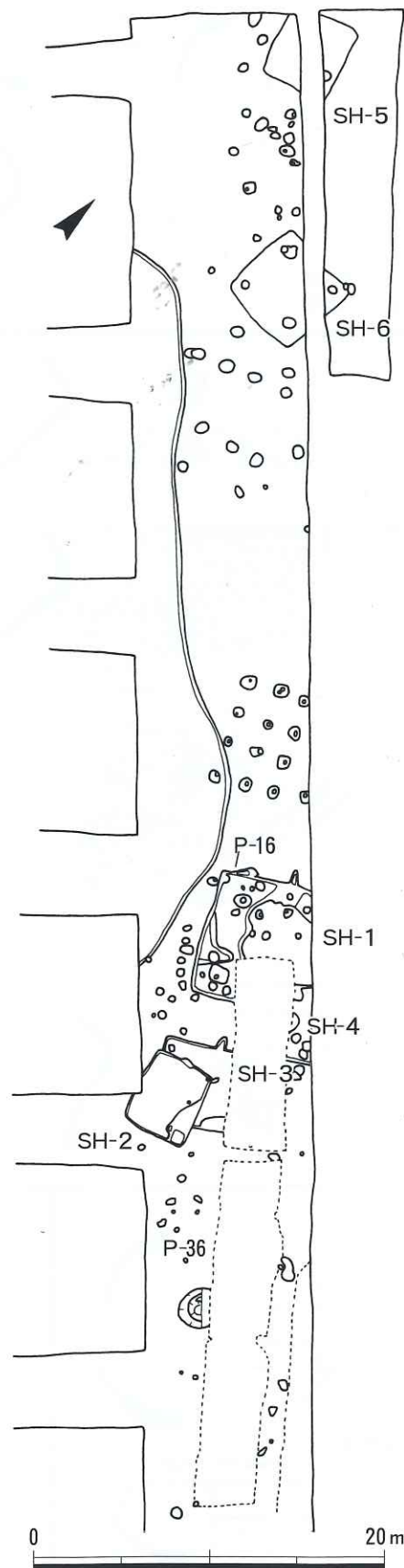
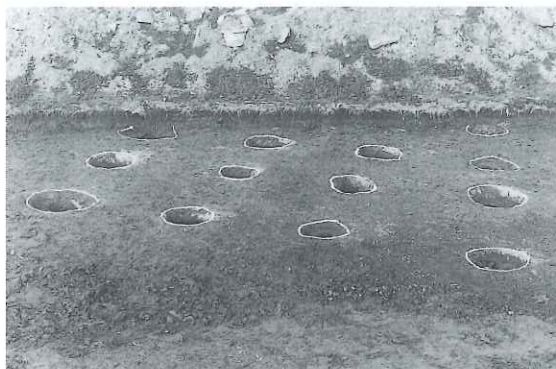


図2 調査地遺構図

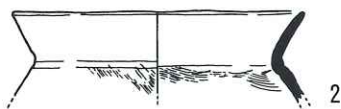
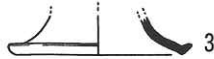
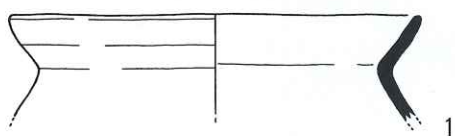
岩畑遺跡は野洲川左岸自然堤防状微高地上に位置する古墳時代以降の集落遺跡である。本調査区では竪穴住居6棟、掘立柱建物が検出された。竪穴住居は概ね6世紀末から7世紀初頭のものと考えられている。さらに7世紀後半の須恵器を含む柱穴があることから、竪穴住居に引き続く時期の掘立柱建物があると考えられ、竪穴住居から掘立柱建物への移行期における集落とすることができよう。さらに平安時代初頭と考えられる3間×3間の総柱建物も検出されている。



SH-1



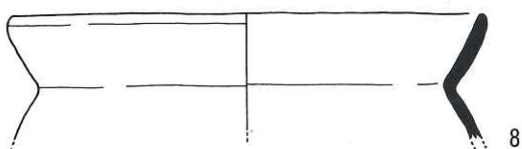
掘立柱建物



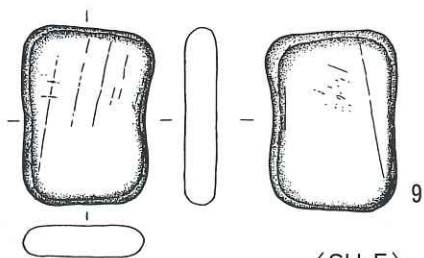
〈SH-1〉



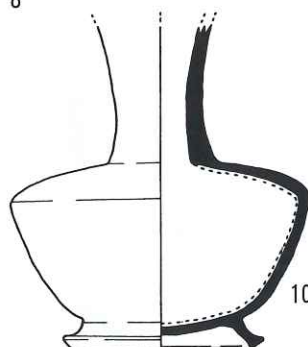
〈SH-3〉



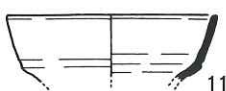
〈SH-4〉



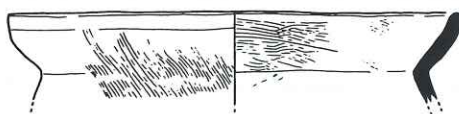
〈SH-5〉



〈SH-5内ピット〉



〈P-16〉



〈P-36〉

図3 出土遺物実測図

16. Kitsunezuka

狐塚遺跡

(83R086-01)

所在地	栗東町川辺字東浦、久保田272、273
	北緯 35°00'54"
	東経 135°59'35"
コード	321-086
調査期間	1983年6月15日～7月31日
調査面積	4,820㎡
調査原因	宅地造成
調査担当	大崎隆志
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	墓、水田
主な時代	縄文時代～平安時代
主な遺構	土坑墓、溝、沼沢地
主な遺物	石器、土師器、黑色土器
文献	

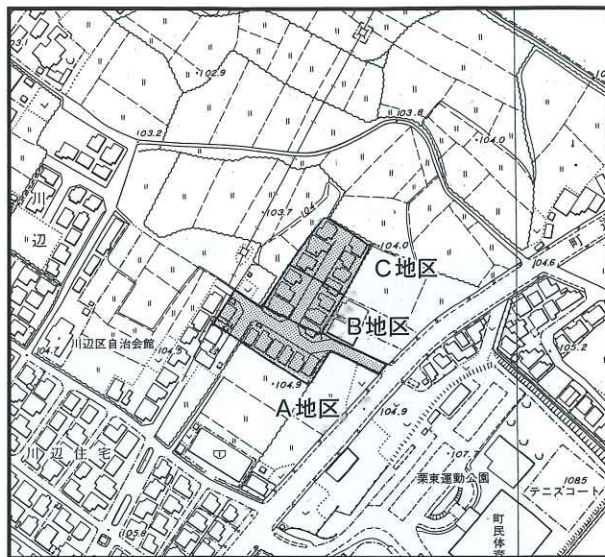
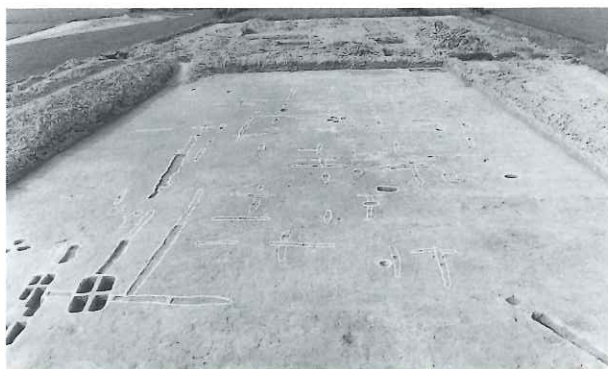


図1 調査地位置図



B区全景

狐塚遺跡は葉山川と金勝川の中流域の間に位置する遺跡である。本調査区では沼沢地状の落ち込み、小溝群、土坑が発見された。A地区では縄文土器を含む土坑が検出されたほか、石器や剥片も出土している。またB地区からC地区にかけて北東方向に沼沢地状の落ち込みがみられ、落ち際からは弥生時代末から古墳時代初頭の遺物が出土した。さらにC地区では平安時代末から鎌倉時代の土坑墓が検出されている。

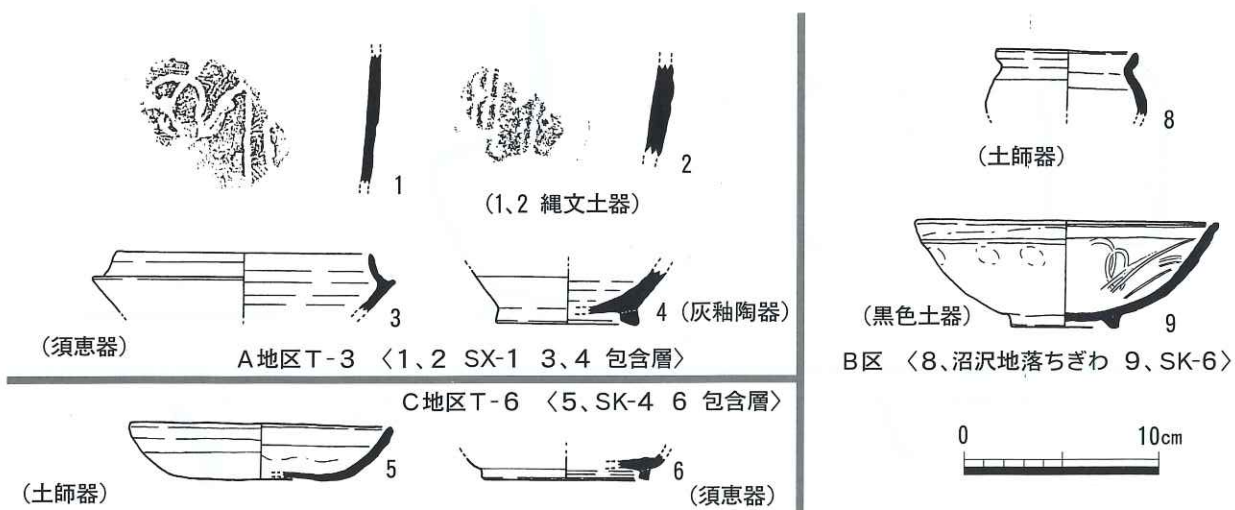


図2 出土遺物実測図

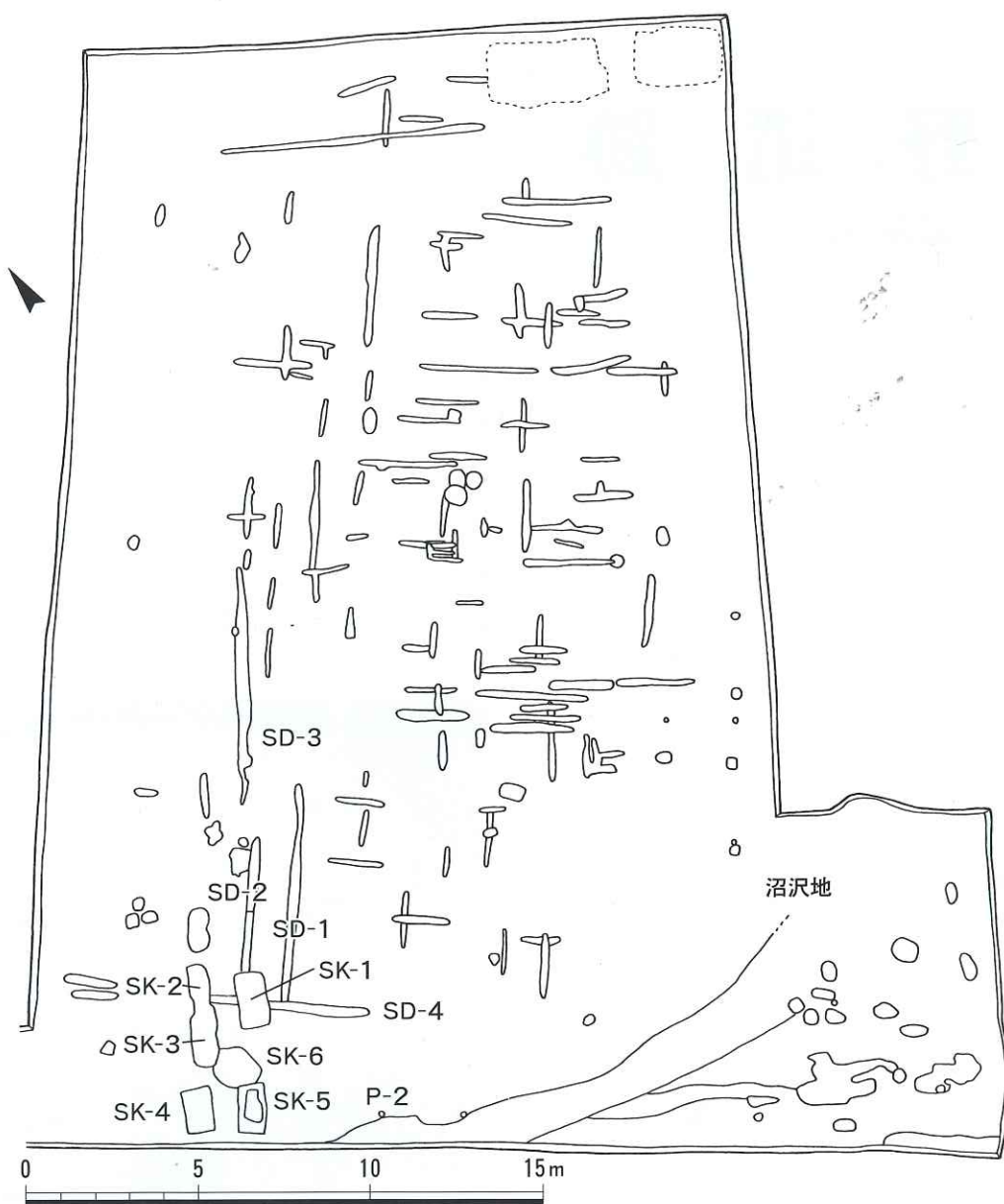


図3 C地区遺構図

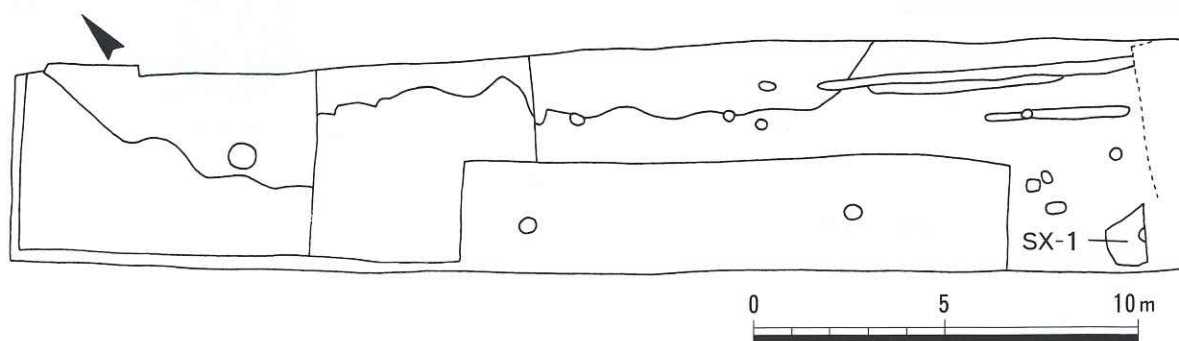


図4 A地区T-3遺構図

17. Takano

高野遺跡

(83R092-01)

所在地	栗東町高野字やどや549
	北緯 35°01'55"
	東経 136°00'59"
コード	321-092
調査期間	1983年6月10日～8月20日
調査面積	1,137㎡
調査原因	個人住宅
調査担当	平井寿一
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	古墳時代～中世
主な遺構	竪穴住居、炉、井戸、ピット
主な遺物	須恵器、土師器、白磁、黒色土器 スラッグ、紡錘車
文献	①



図1 調査地位置図



調査地全景



鑄造関連遺構

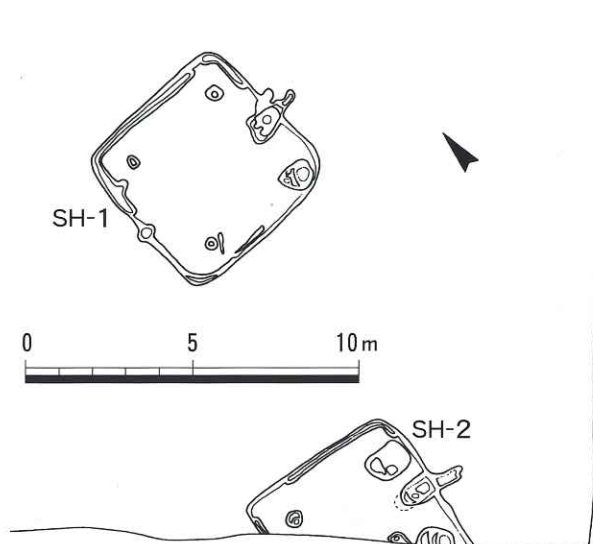


図2 第2遺構面遺構図

遺構には竪穴住居2棟（SH-1、2）がある。住居の年代は6世紀末頃と考えられる。中世の遺構には掘立柱建物・土坑・溝がある。このうち（SK-1、2、3）は炉壁片・焼土・鉄さい等で検出面下約40cmまで埋まり、最下層は灰色砂が堆積しており、鍛冶等の炉跡の可能性ある。本調査区に近接して、近世に活躍した辻鋳物史の本拠地があり、鋳物業の開始年代を知る手がかりになる資料となろう。

本調査区では中世（第1遺構面）および古墳時代（第2遺構面）の遺構が検出されている。古墳時代の

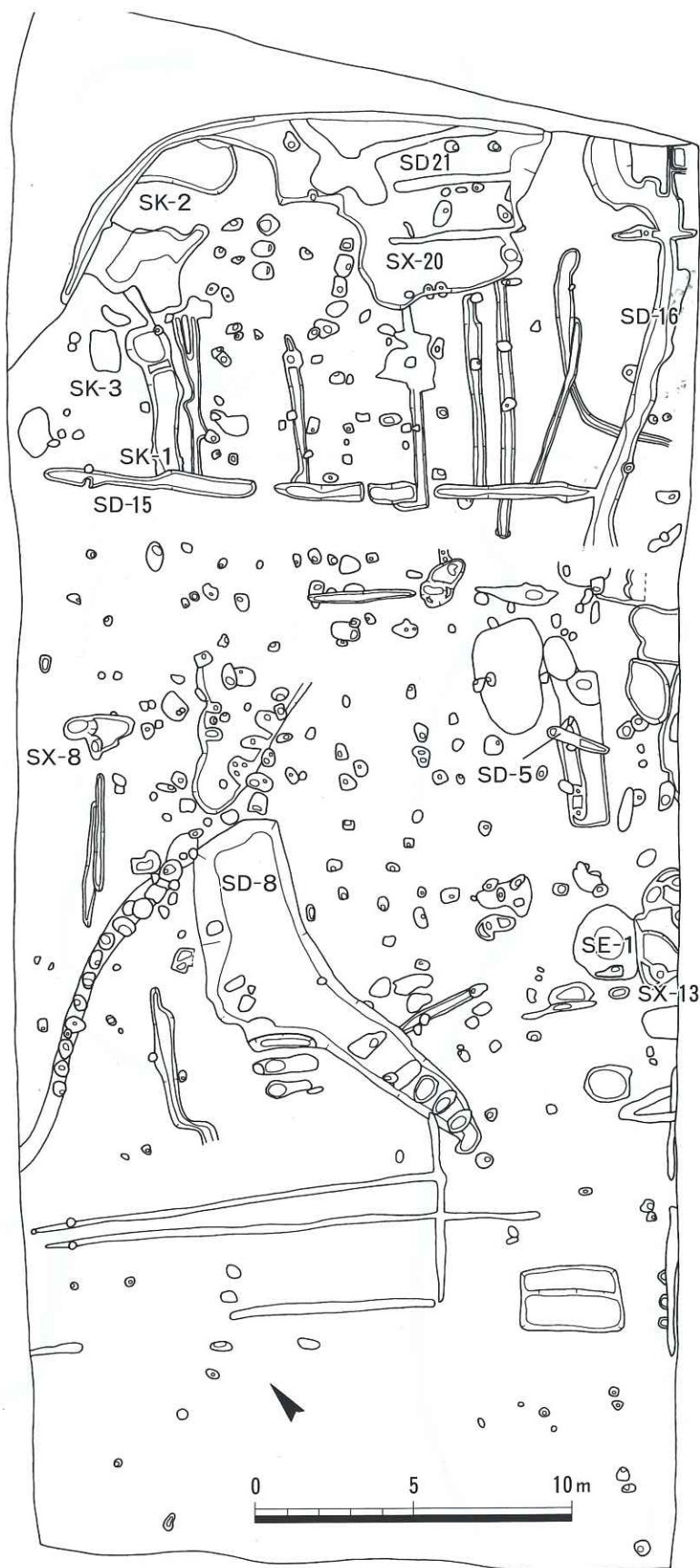
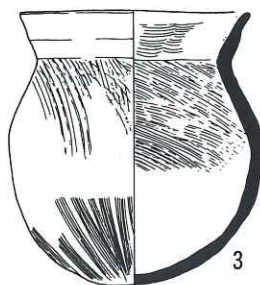
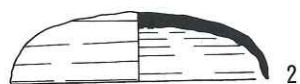
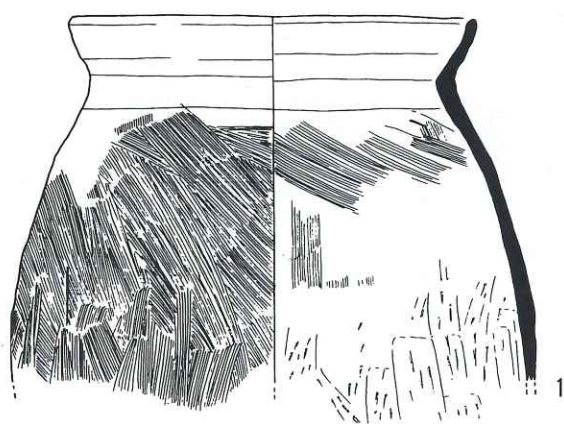
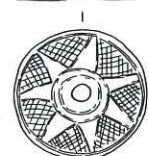
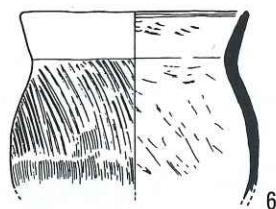
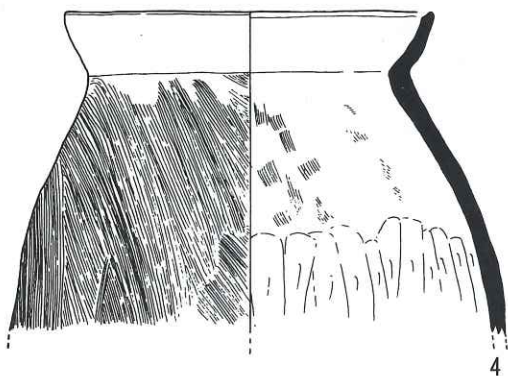


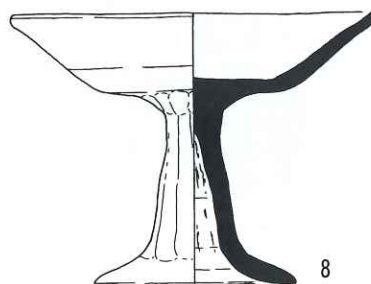
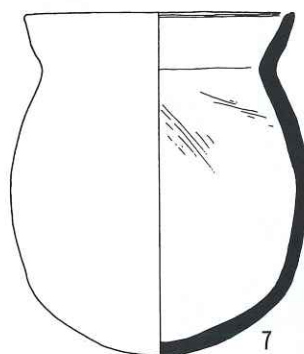
図3 第1遺構面遺構図



〈SH-1〉



$S = 1/1$



〈SH-2〉



图4 出土遺物実測図

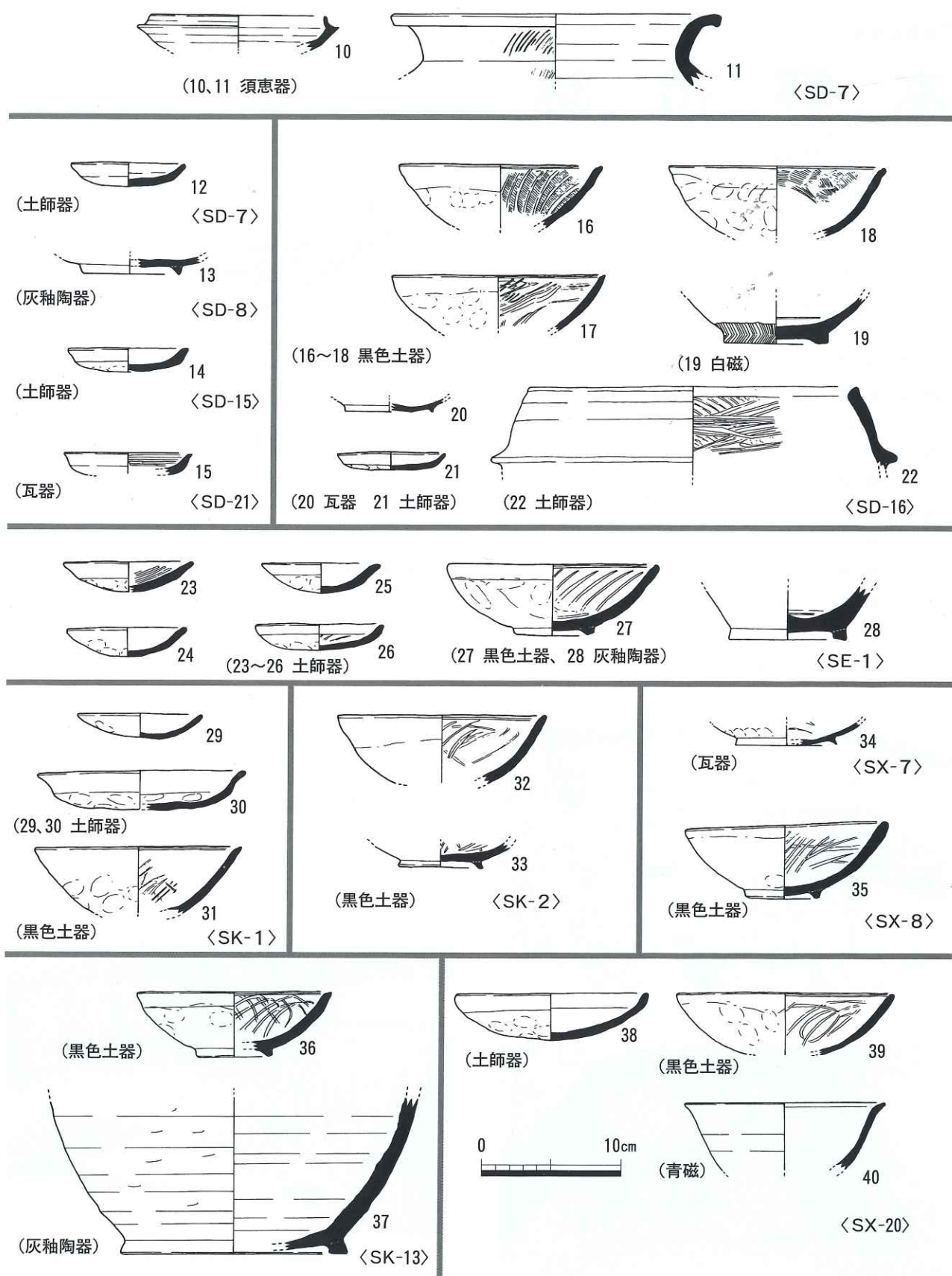


图5 出土遺物実測図

18. Takano

高野遺跡

(83R092-02)

所在地	栗東町高野字ドント178-1、179-1
	北緯 35°01'50"
	東経 136°00'48"
コード	321-092
調査期間	1983年8月22日～11月18日
調査面積	1,737m ²
調査原因	結婚式場建設
調査担当	平井 寿一
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	古墳時代、平安時代
主な遺構	竪穴住居、掘立柱建物
主な遺物	土師器、緑釉陶器
文献	

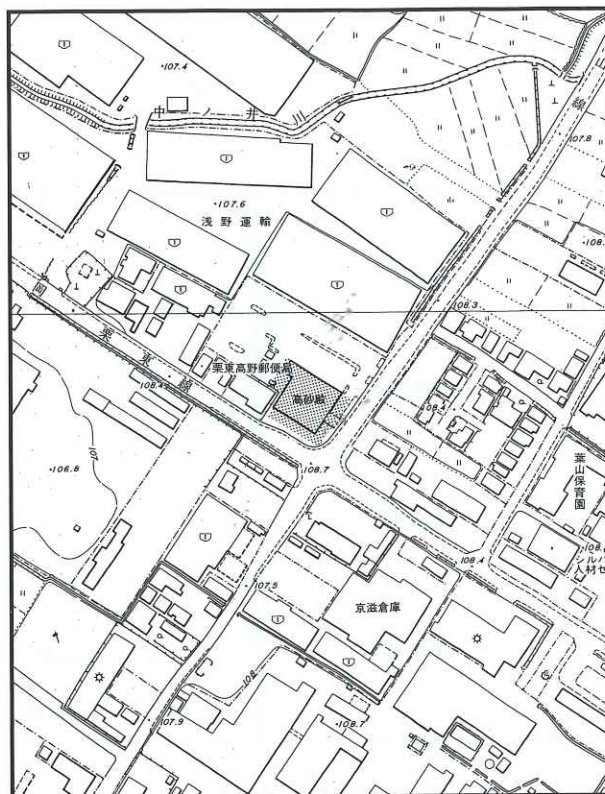


図1 調査地位置図

本調査区は高野遺跡の北半部にあたる。調査では竪穴住居7棟、掘立柱建物、土坑が検出されている。竪穴住居はいずれも古墳時代前期のものである。掘立柱建物は3間×3間（SB-1）、5間×4間（SB-2）、2間×2間（SB-3）のものが確認されている。いずれも平安時代の建物である。



調査区東端 掘立柱建物



SH-2



SH-3

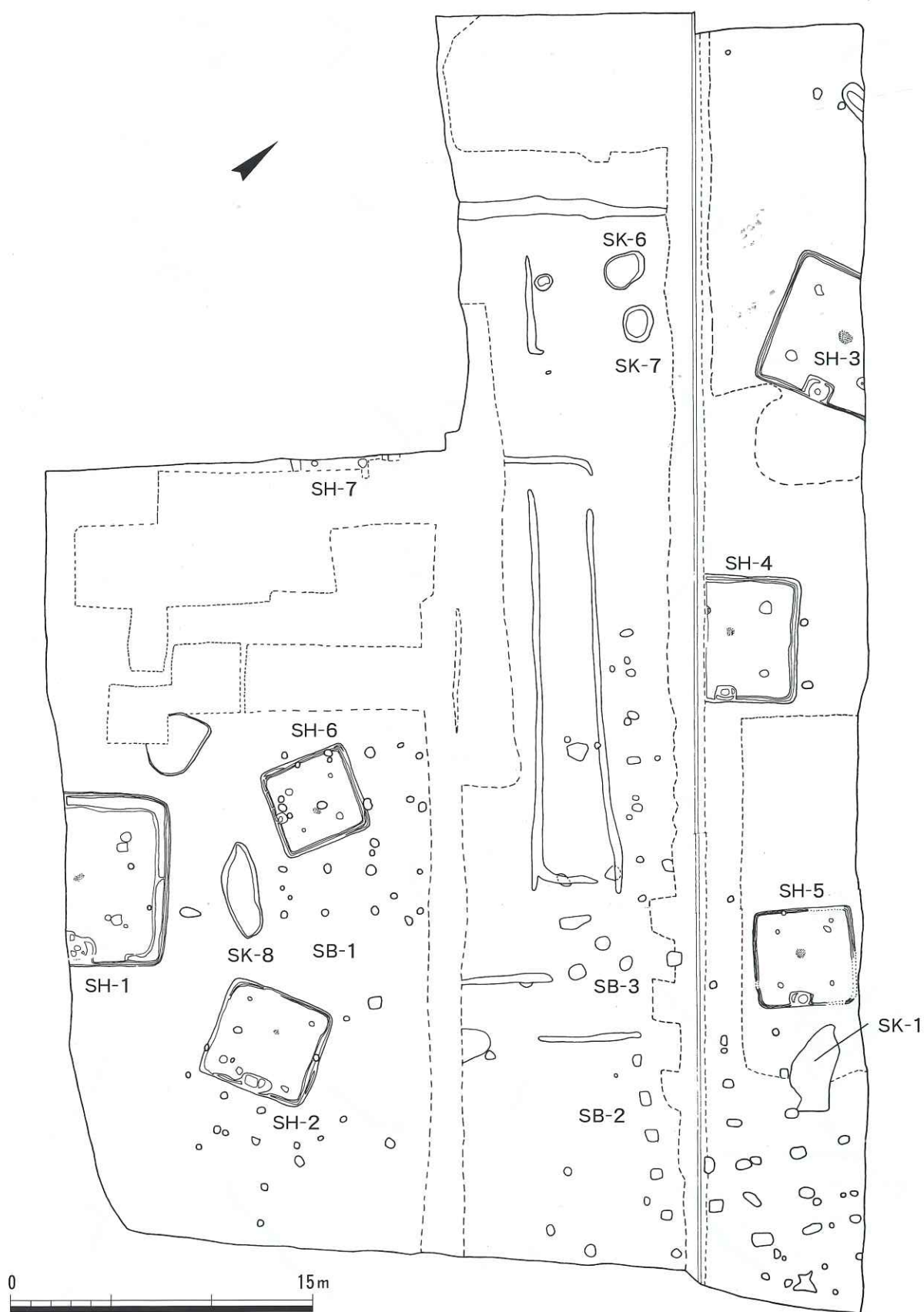


図2 調査地遺構図

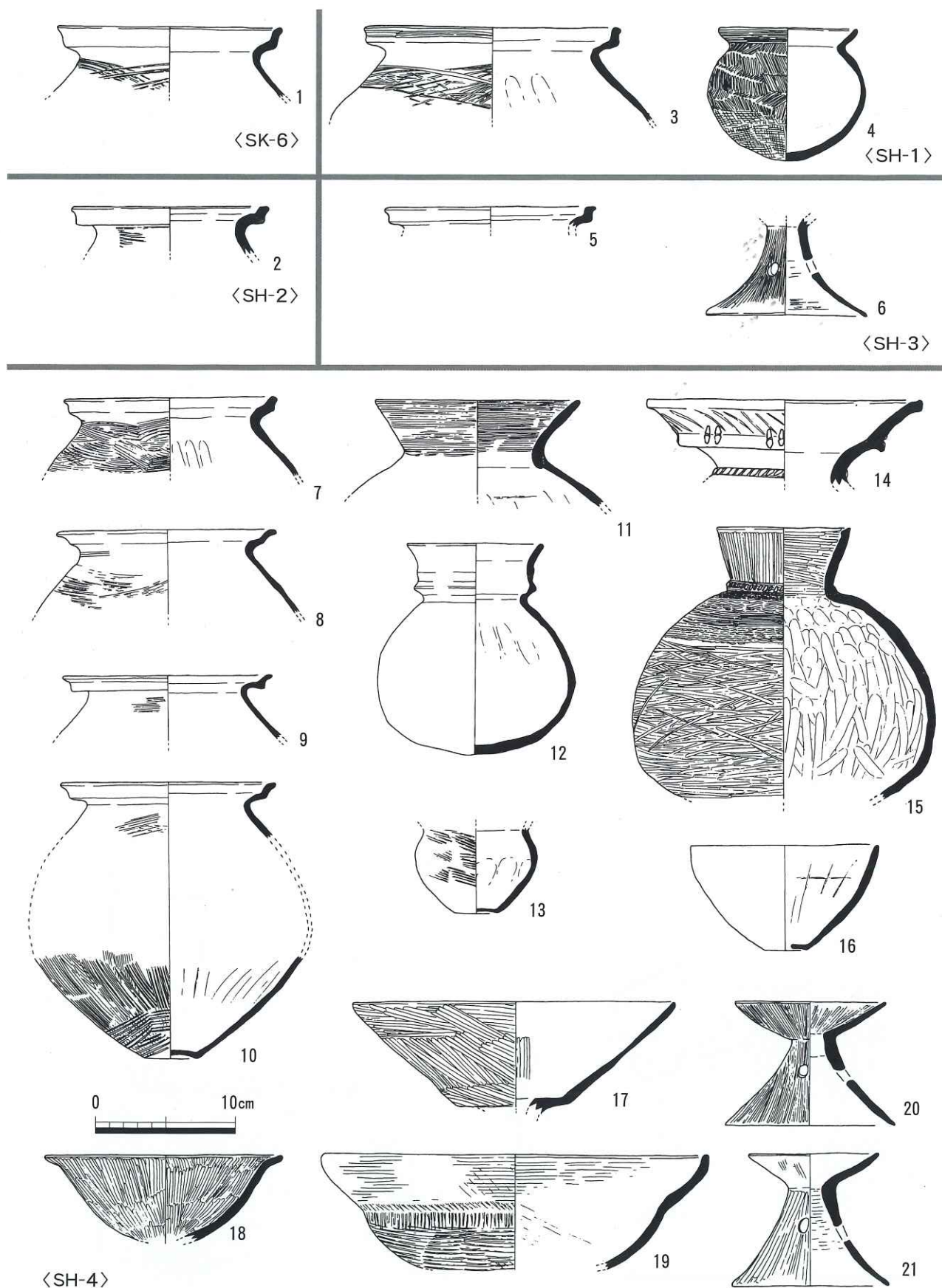


图3 SK6、SH1~4 出土遺物実測図

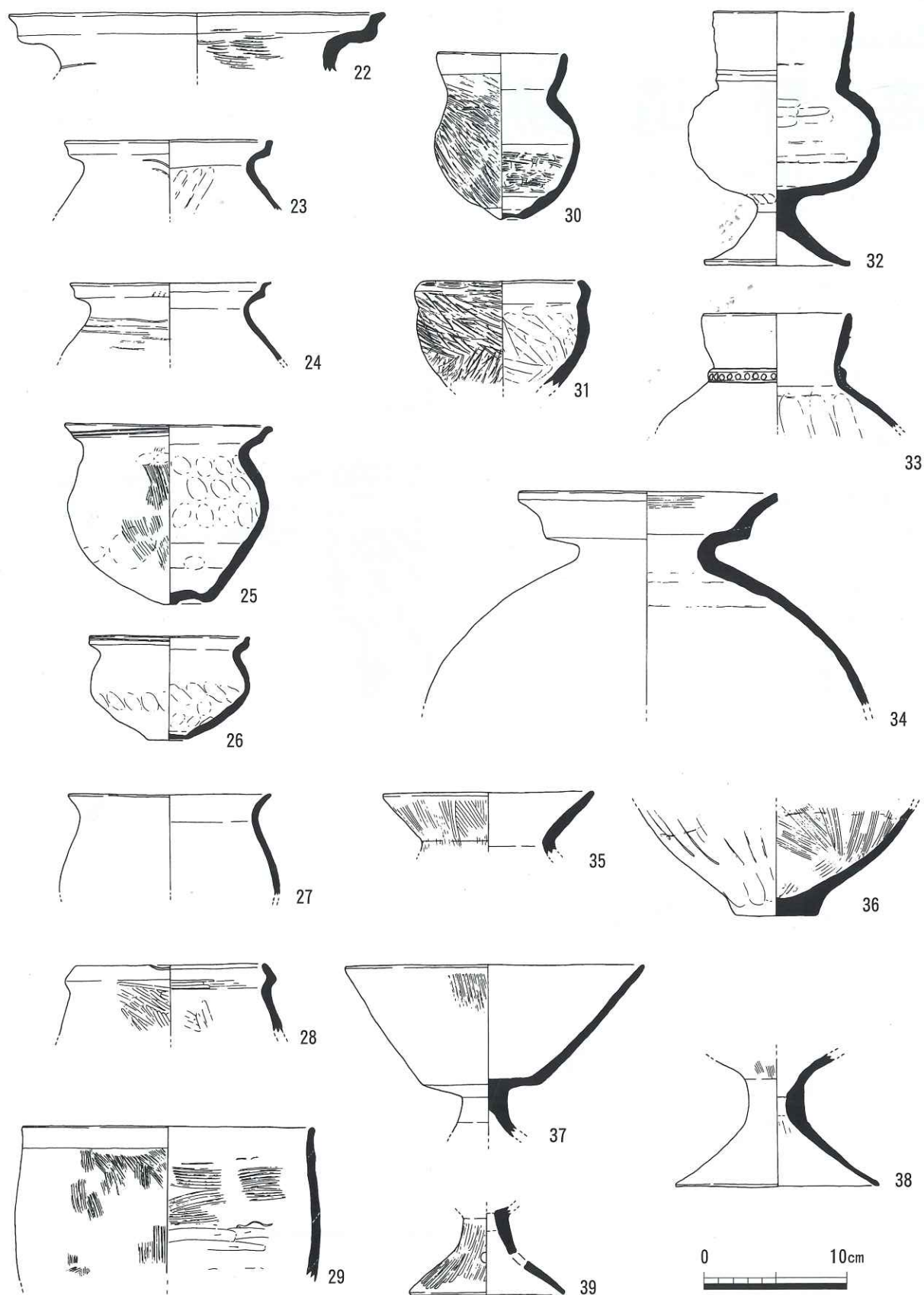


图4 SH6出土遺物実測図

19. Takano

高野遺跡

(83R092-03)

所在地	栗東町高野字いばだち325-1 他
	北緯 35°01'37"
	東経 136°01'08"
コード	321-092
調査期間	1983年10月12日～11月19日
調査面積	1,029㎡
調査原因	共同住宅
調査担当	平井寿一
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	古墳時代
主な遺構	竪穴住居、溝
主な遺物	土師器
文献	

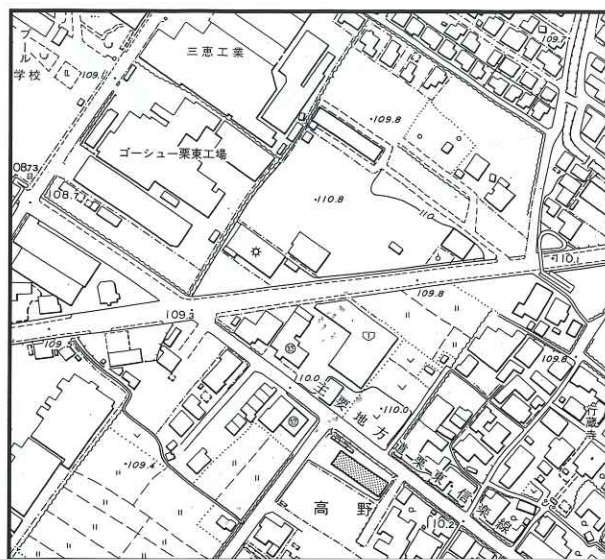
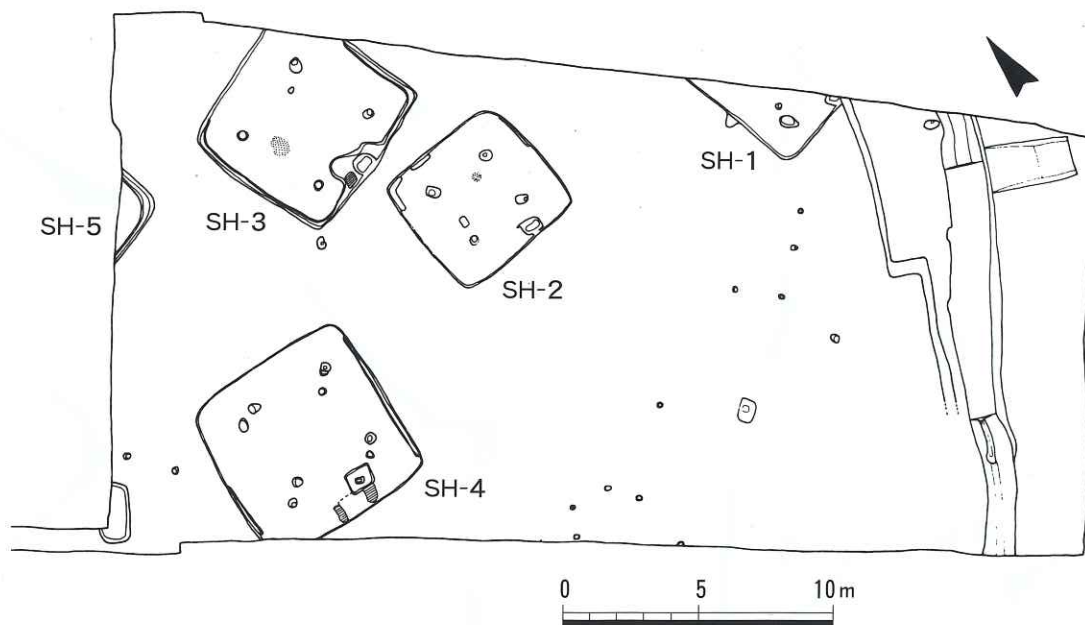


図1 調査地位置図



本調査区からは古墳時代前期の竪穴住居5棟、および中世以降の溝が検出されている。各住居からは土師器が出土しているが、このうちSH-3からは線刻を施した有孔の壺が出土している。

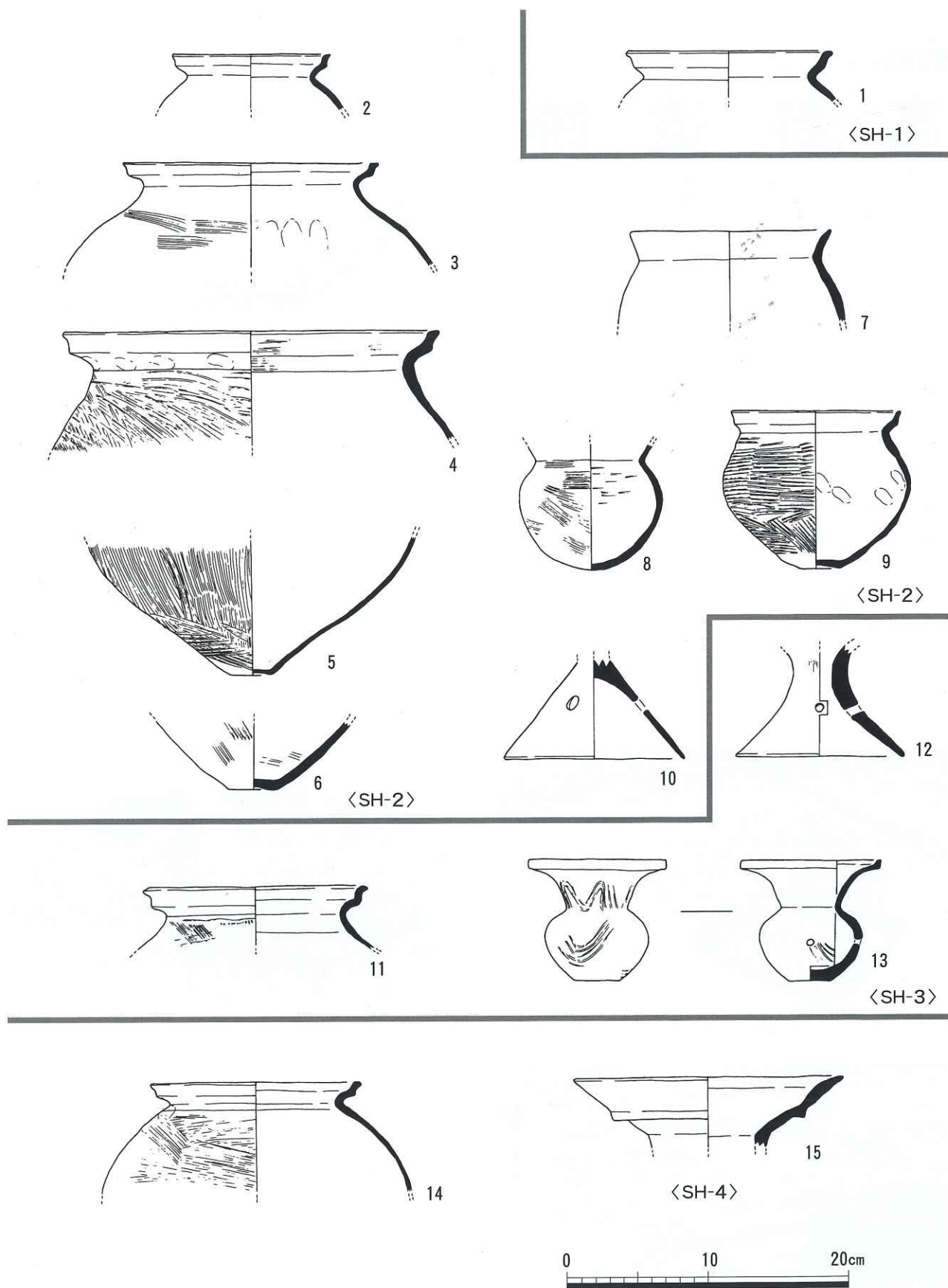


图3 出土遺物実測図

20. Takano

高野遺跡

(83 R 092-04)

所 在 地	栗東町六地藏888 他
	北緯 35°01' 31"
	東経 136°01' 01"
コ ー ド	321-092
調 査 期 間	1984年 2 月 9 日～ 8 月 9 日
調 査 面 積	36,748m ²
調 査 原 因	中学校建設
調 査 担 当	平 井 寿 一
調 査 機 関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種 別	集 落
主 な 時 代	古墳時代、平安時代～鎌倉時代
主 な 遺 構	竪穴住居、掘立柱建物
主 な 遺 物	土師器、黒色土器、宋銭、陶器
文 献	② ③ ④

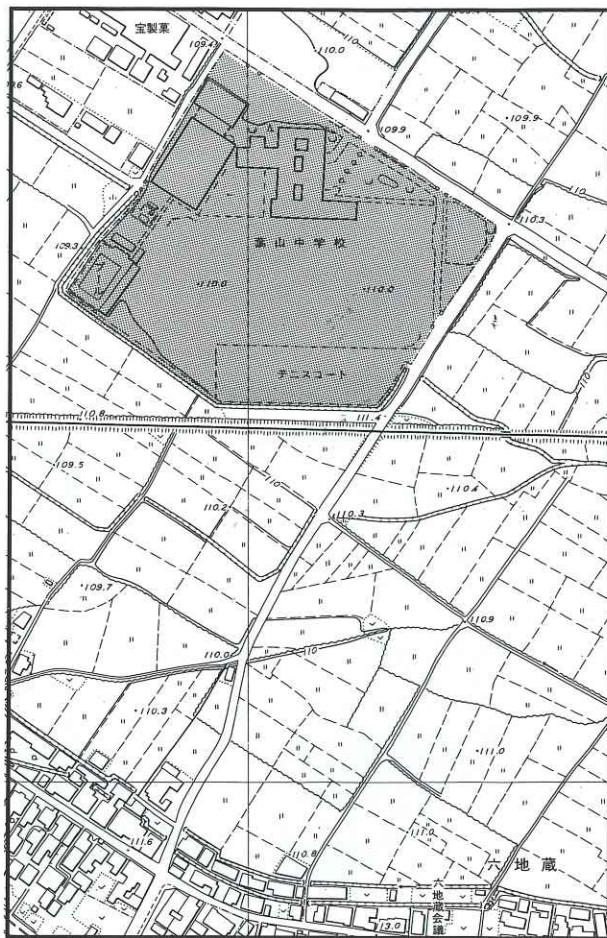


図1 調査地位置図



SH-4 付近



SK-8 土器出土状況



調査地東端部

本調査区からは古墳時代前期の竪穴住居30棟以上、土坑12基以上、および掘立柱建物が検出された。竪穴住居のうちSH-8、11は壁溝の外側よりに各辺4本ずつの柱をもっている。

このほか、平安～鎌倉時代の建物・井戸・土坑・溝等が検出されている。

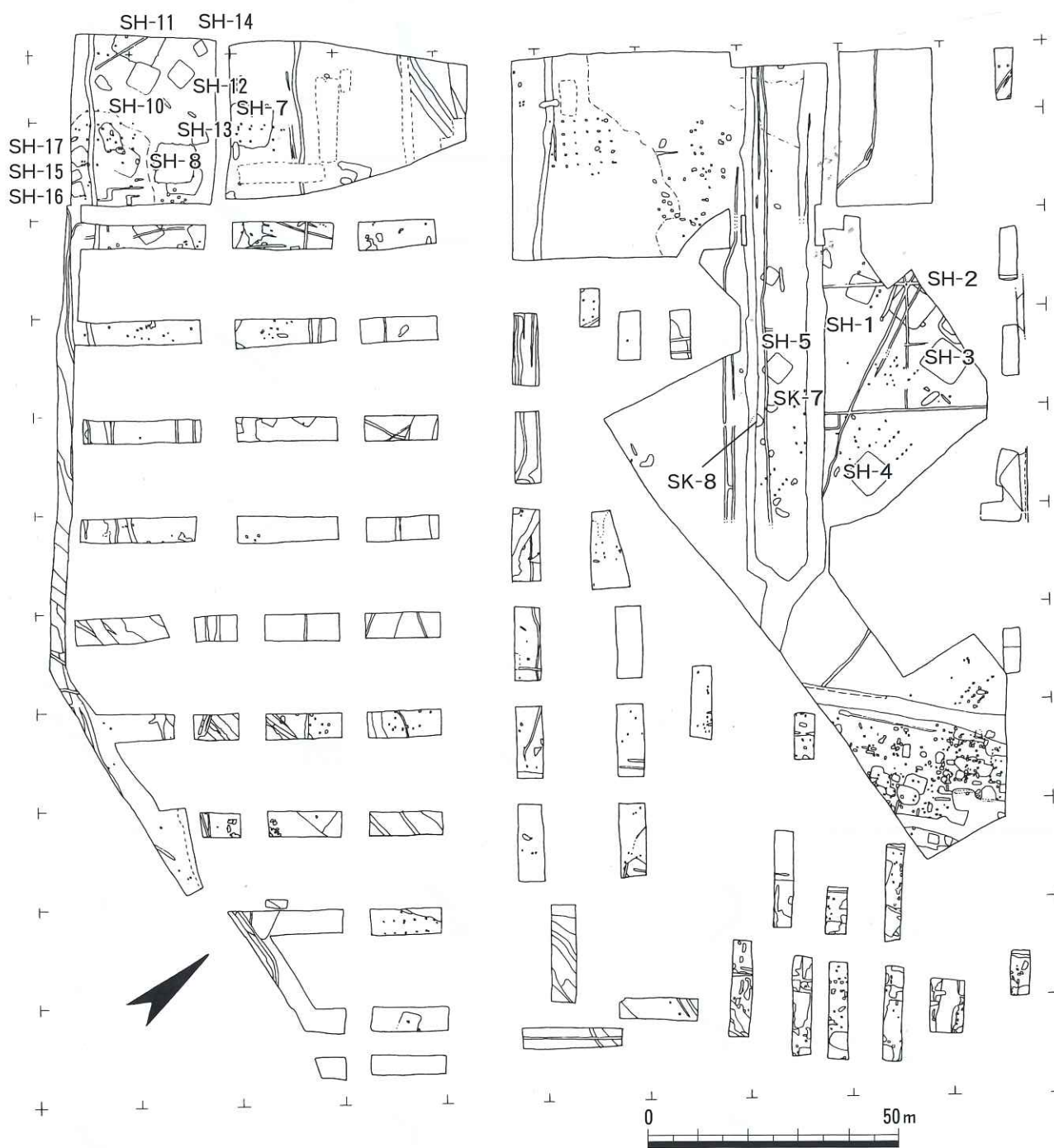
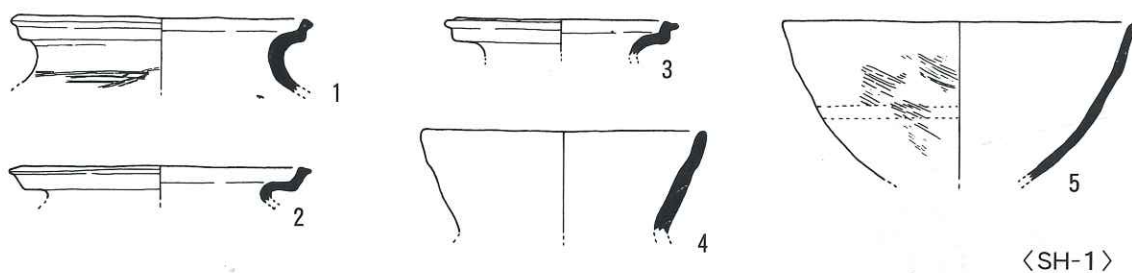
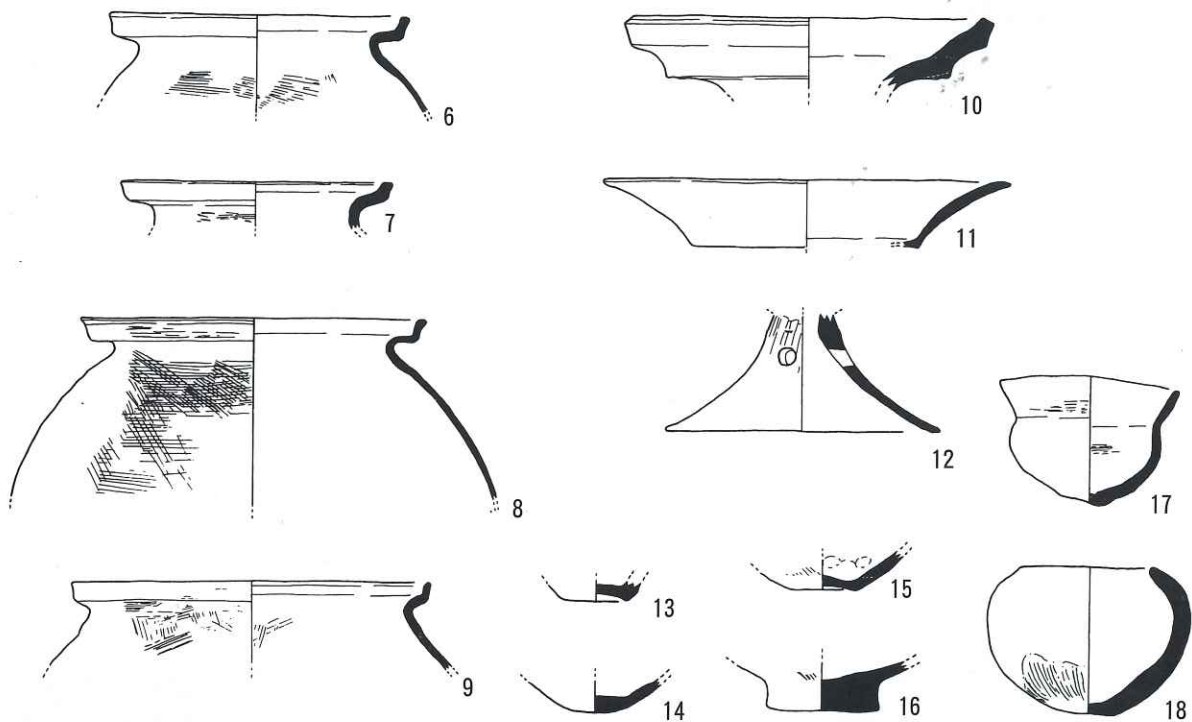


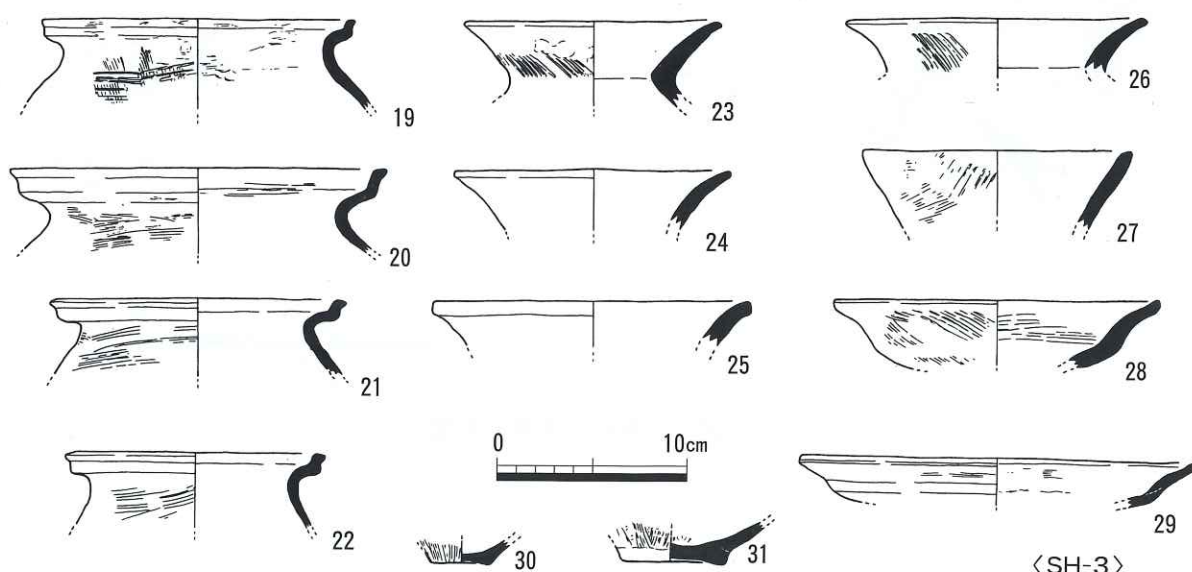
図2 調査地遺構全体図



〈SH-1〉



〈SH-2〉



〈SH-3〉

图3 出土遺物実測図

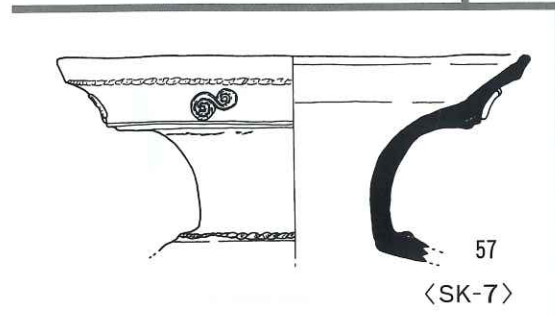
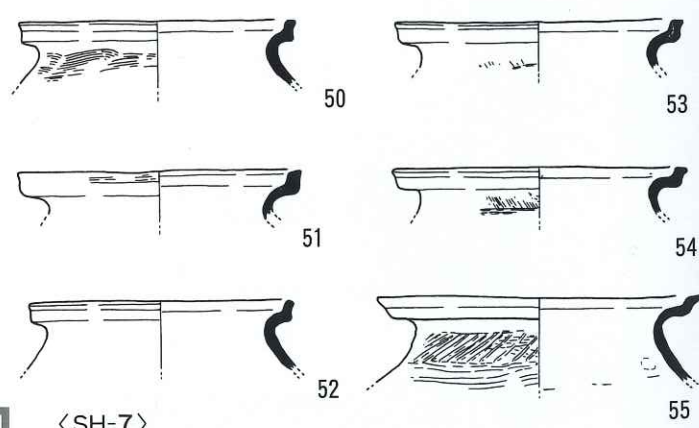
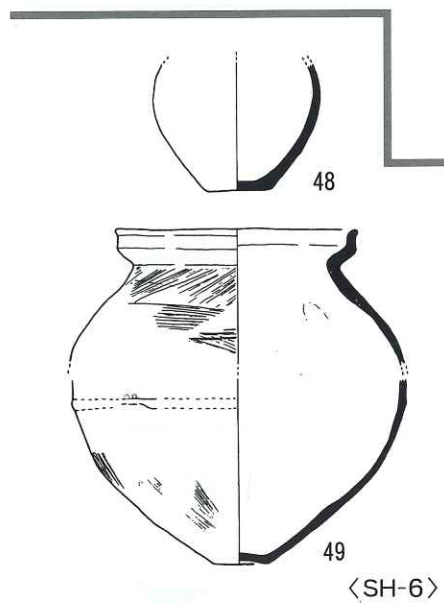
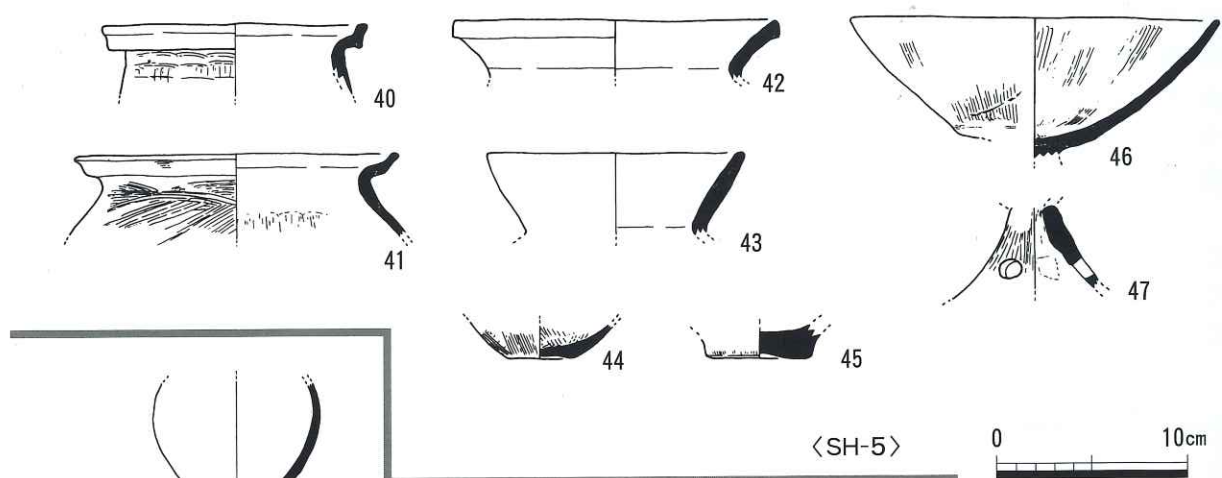
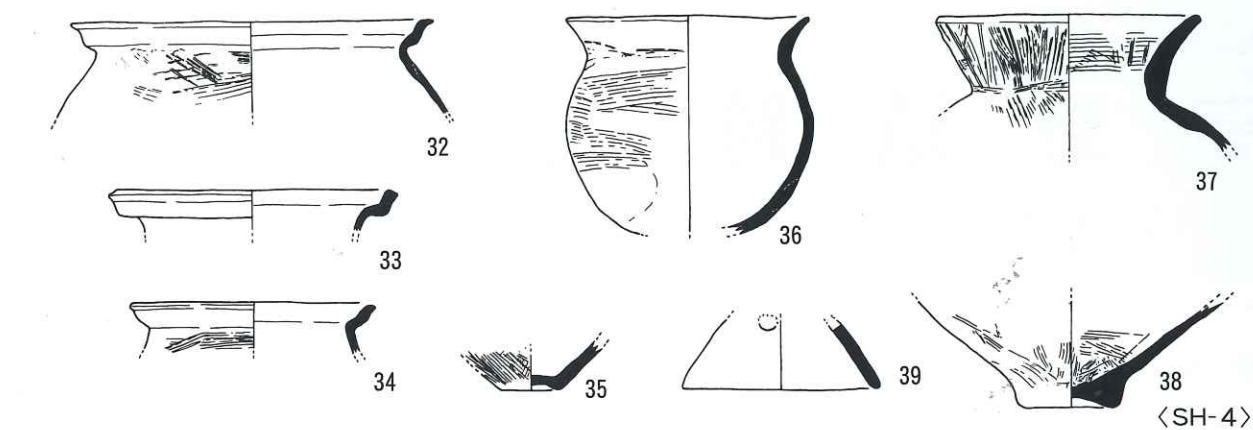


图4 出土遺物実測図

21. Takano

高野遺跡

(83R092-05)

所在地	栗東町高野字サルガウ633-3 北緯 35°01'59" 東経 136°01'02"
コード	321-092
調査期間	1984年2月13日～2月20日
調査面積	669m ²
調査原因	個人住宅
調査担当	平井寿一
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落跡
主な時代	古墳時代
主な遺構	ピット、土坑
主な遺物	須恵器
文献	



図1 調査位置図

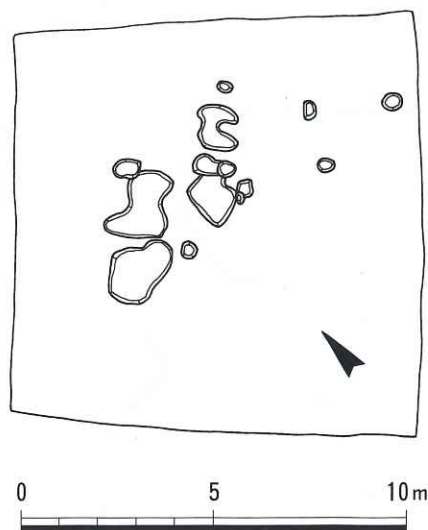
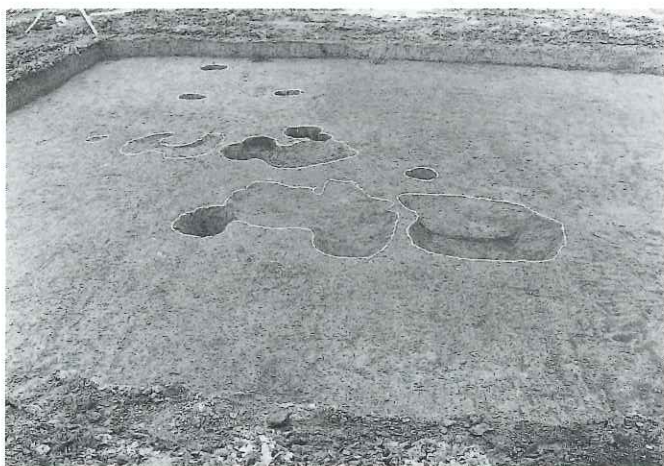
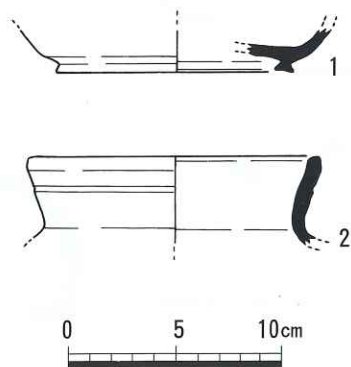


図2 調査地遺構図



調査地全景

本調査区からは不整形の土坑4基、およびピットが確認された。性格は不明である。



SX-12 出土須恵器

22. Nojiri

野尻遺跡

(83R088-01)

所在地	栗東町野尻字梨元274
	北緯 35°01'55"
	東経 135°59'29"
コード	321-088
調査期間	1983年5月14日～5月25日
調査面積	490m ²
調査原因	個人住宅
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	古墳時代、鎌倉時代
主な遺構	溝、井戸、ピット
主な遺物	須恵器、土師器、黒色土器
文献	

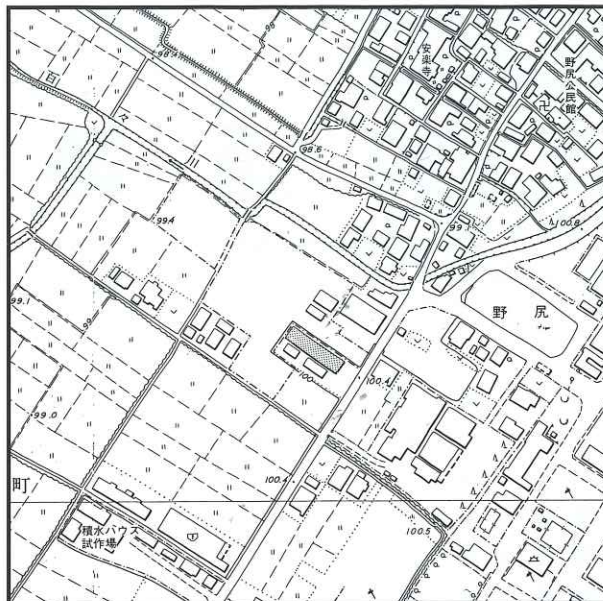


図1 調査地位置図

本調査区からは溝・土坑・掘立柱建物が検出された。溝の時期は古墳時代のもものと鎌倉時代のものがある。古墳時代の溝には周溝状になる可能性が高いものがある。鎌倉時代の溝は南北方向のものとこれに直交するものがある。

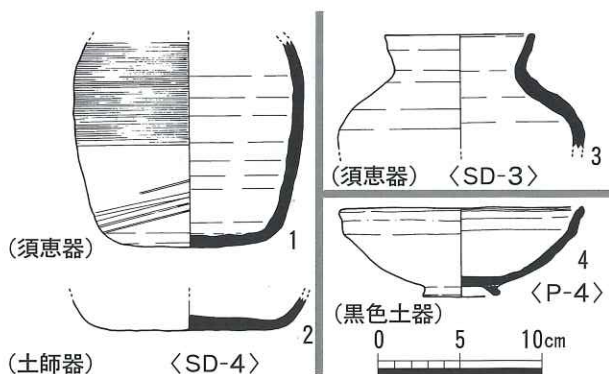


図2 出土遺物実測図



遺構検出状況

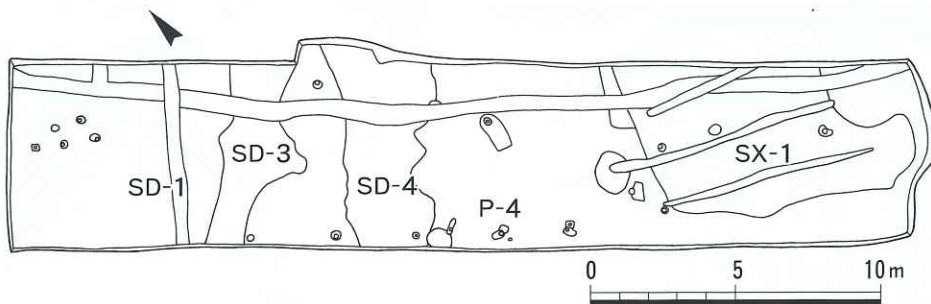


図3 調査地遺構図

23. Shimomagari

下 鈎 遺 跡

(83R095-01)

所 在 地	栗東町下鈎字宮の東1101-1
	北緯 35°01' 31"
	東経 135°59' 48"
コ ー ド	321-095
調 査 期 間	1983年5月9日～6月2日
調 査 面 積	1222.7㎡
調 査 原 因	マンション建設
調 査 担 当	平 井 寿 一
調 査 機 関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落、墓
主 な 時 代	弥生時代、平安時代
主 な 遺 構	方形周溝墓、掘立柱建物、溝
主 な 遺 物	弥生土器、須恵器、黒色土器 緑釉陶器
文 献	



トレンチ東端より



SB-6

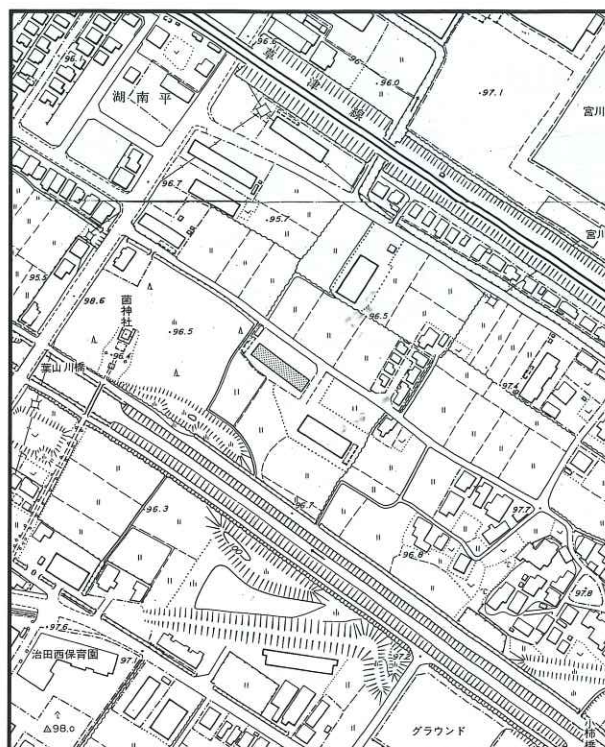


図1 調査地位置図

本調査区では溝・方形周溝墓・掘立柱建物が検出された。溝（SD-2）は幅2.5m、深さ1.0mを計る。これは下鈎遺跡一帯に拡がると考えられている弥生時代中期後半の環濠の一部である可能性が高い。調査区の南半部では方形周溝墓が2基確認されたので、環濠の南の外側に墓域があったと考えられる。

掘立柱建物のうちSB-1、6は、総柱建物で、柱掘り方の規模が大きい。奈良時代末から平安時代初頭のものと考えられる。SB-2、4、5は、柱掘り方の規模が小さいもので、平安時代のものと考えられる。



SD2 調査風景

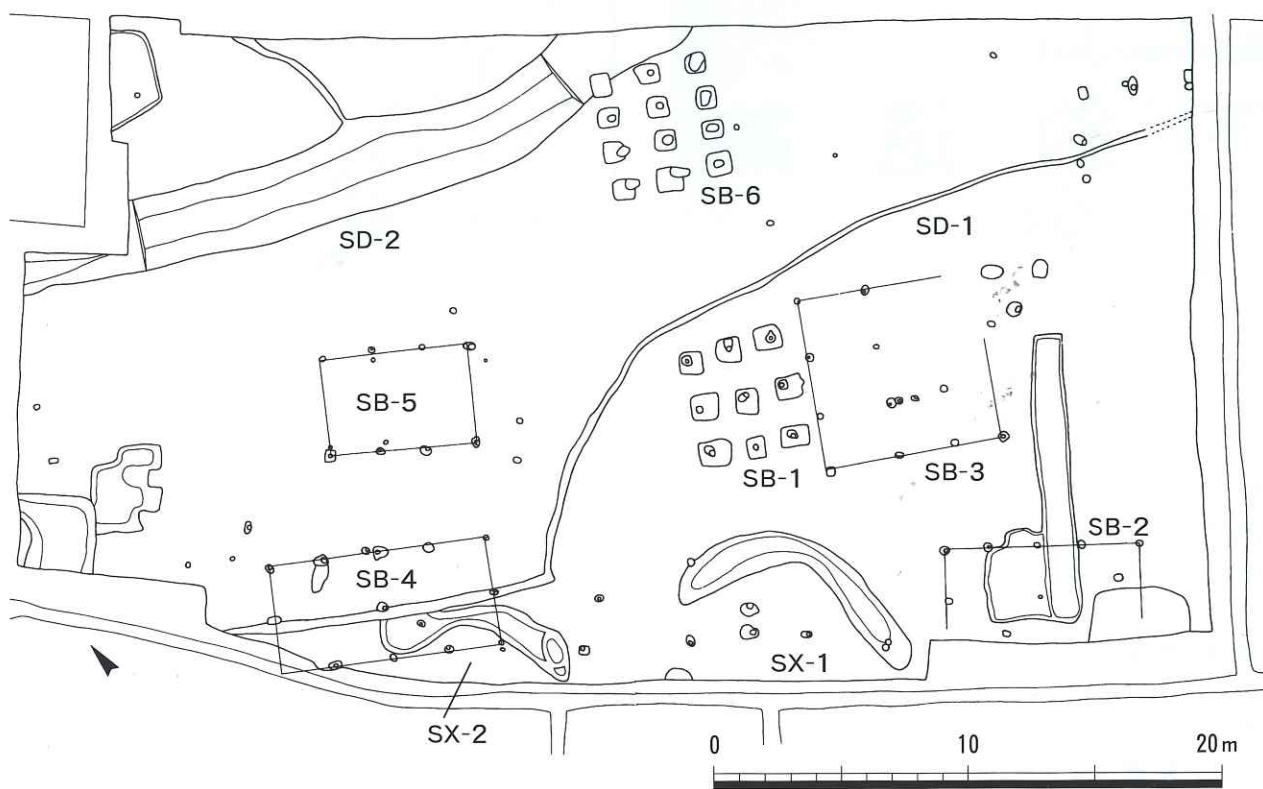


図2 調査地遺構図

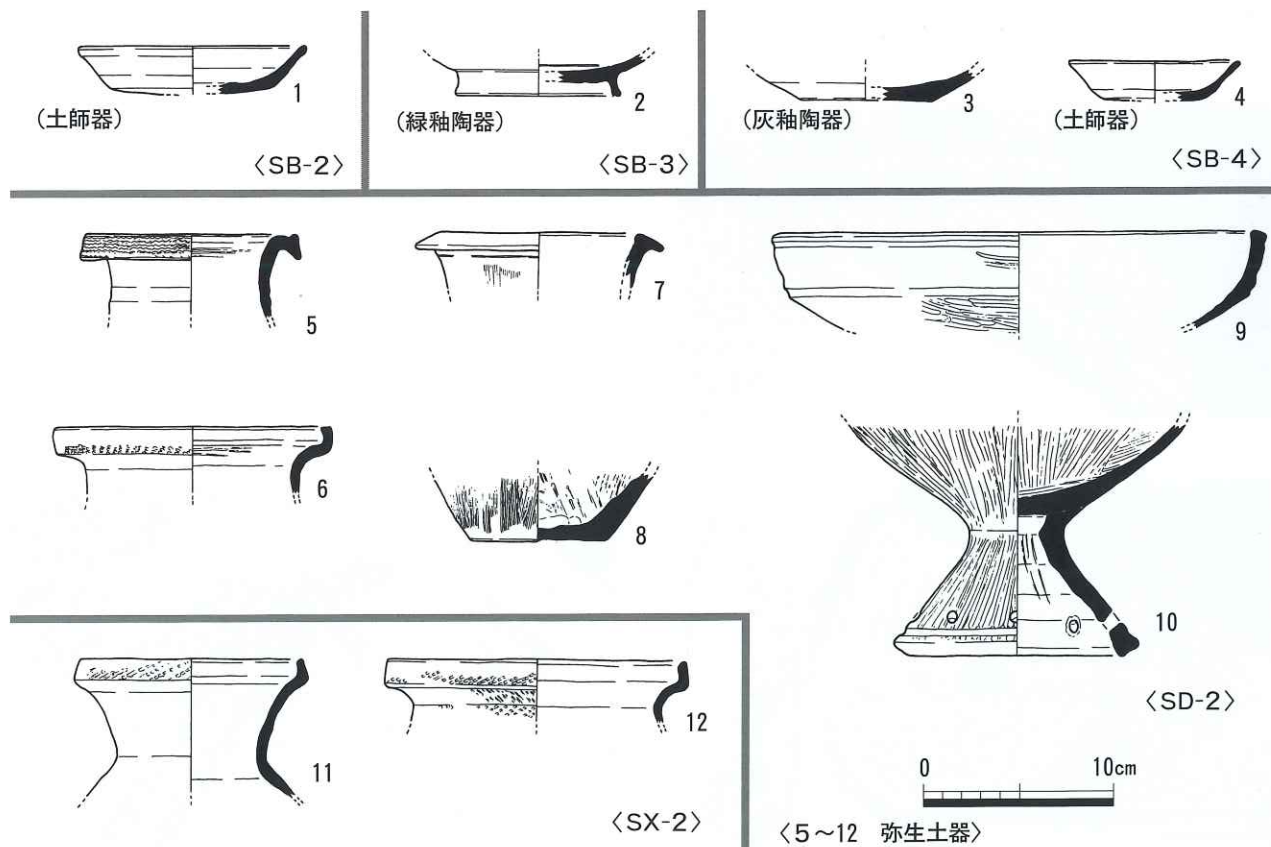


図3 出土遺物実測図

24. Shimomagari

下 鈎 遺 跡

(83R095-02)

所在地	栗東町下鈎字卯之田841-1 他
	北緯 35°01'43"
	東経 135°59'11"
コード	321-095
調査期間	1983年9月16日～10月18日
調査面積	1,094m ²
調査原因	社屋建設
調査担当	大崎 隆 志
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落跡
主な時代	弥生時代、古墳時代
主な遺構	竪穴住居、溝
主な遺物	弥生土器、土師器
文 献	

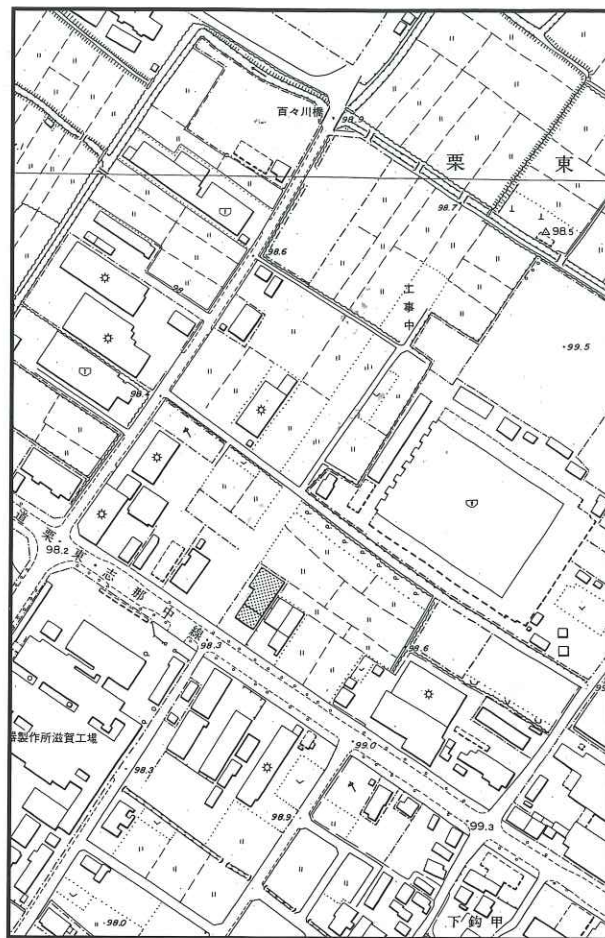


図1 調査地位置図

本調査区では竪穴住居・溝・土坑が検出された。竪穴住居（SH-1）は西側半分のみの調査であるが、床面から弥生土器甕が出土しており、弥生時代後期～末の住居と考えられる。

溝（SD-2）は幅12mを超える溝である。SD-1はSD-2の埋没後に形成された溝で、受け口状口縁甕、高杯等を含んでいる。両溝とも古墳時代前期の溝と考えられる。



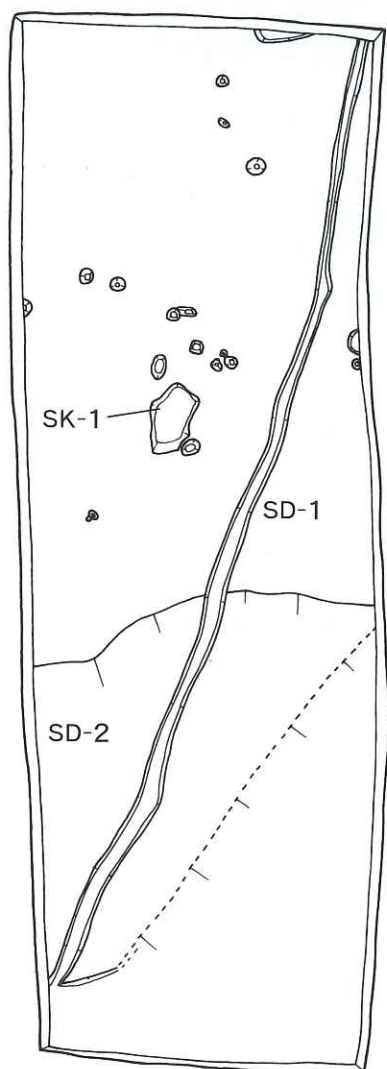
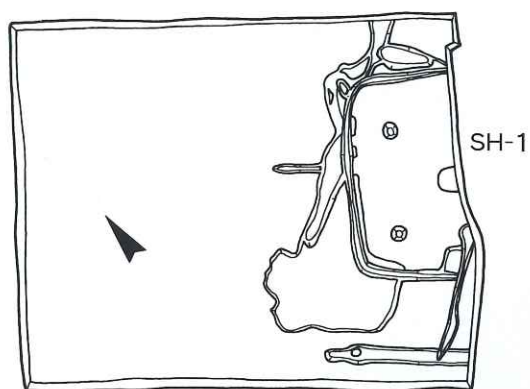
南側トレンチ全景



SH-1

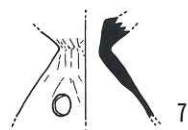
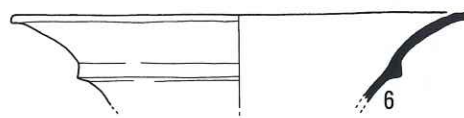
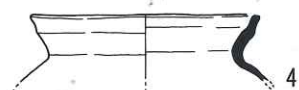
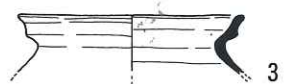
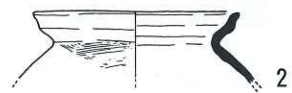
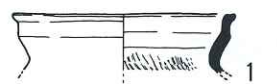


SD-1 調査状況



0 5 10m

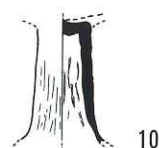
図2 調査地遺構図



〈SD-1〉



〈床面〉



0 5 10cm

〈SH-1〉

図3 出土遺物実測図

25. Shimomagari

下 鈎 遺 跡

(83R095-03)

所 在 地	栗東町下鈎地先
	北緯 35°01'39"
	東経 135°59'14"
コ ー ド	321-095
調 査 期 間	1983年10月18日～11月26日
調 査 面 積	343.2㎡
調 査 原 因	下水道工事
調 査 担 当	清 水 好 洋
調 査 機 関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種 別	集 落
主 な 時 代	平安時代、室町時代
主 な 遺 構	溝、土坑、ピット
主 な 遺 物	須恵器、土師器、黒色土器、陶器
文 献	

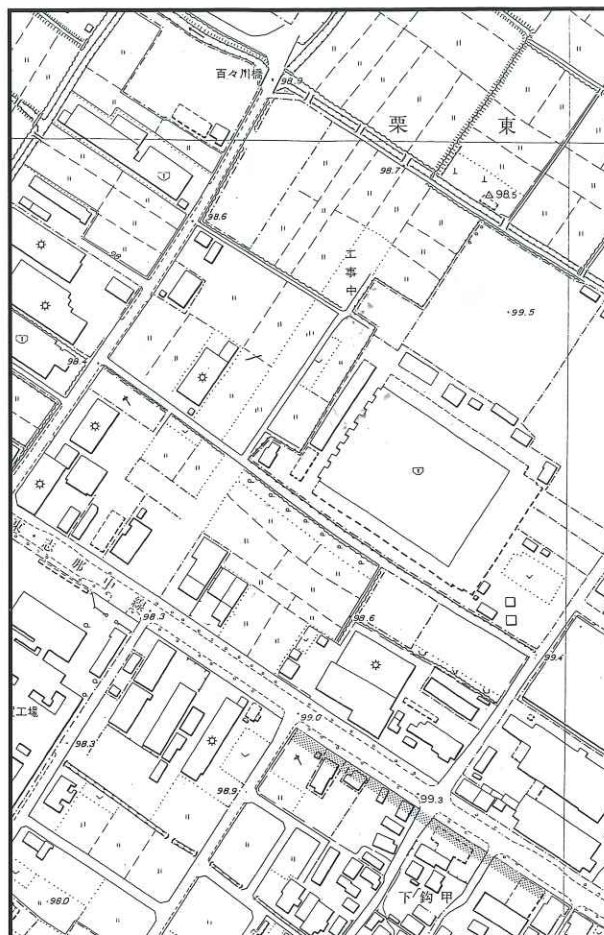


図1 調査地位置図

下鈎遺跡の東端に位置した調査区である。付近には「奥屋敷」「殿ノ後」といった小字名があり、中世の居館あるいは城と想定されている。

本調査区は下水道工事に伴う調査で、平安時代後期および室町時代の溝のほか土坑・井戸・ピットが検出されている。

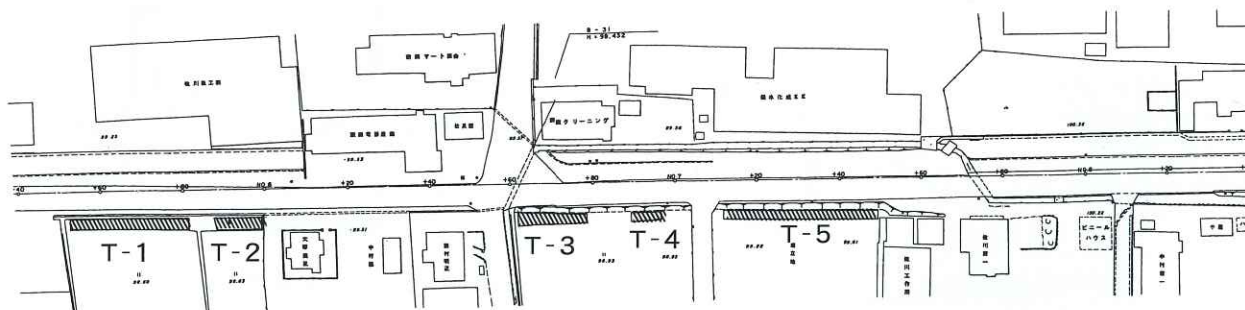


図2 トレンチ配置図



T-1、2

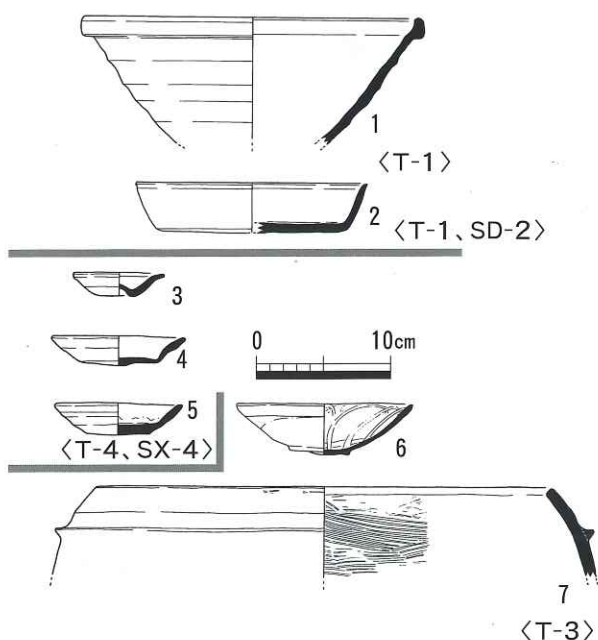


図3 出土遺物実測図

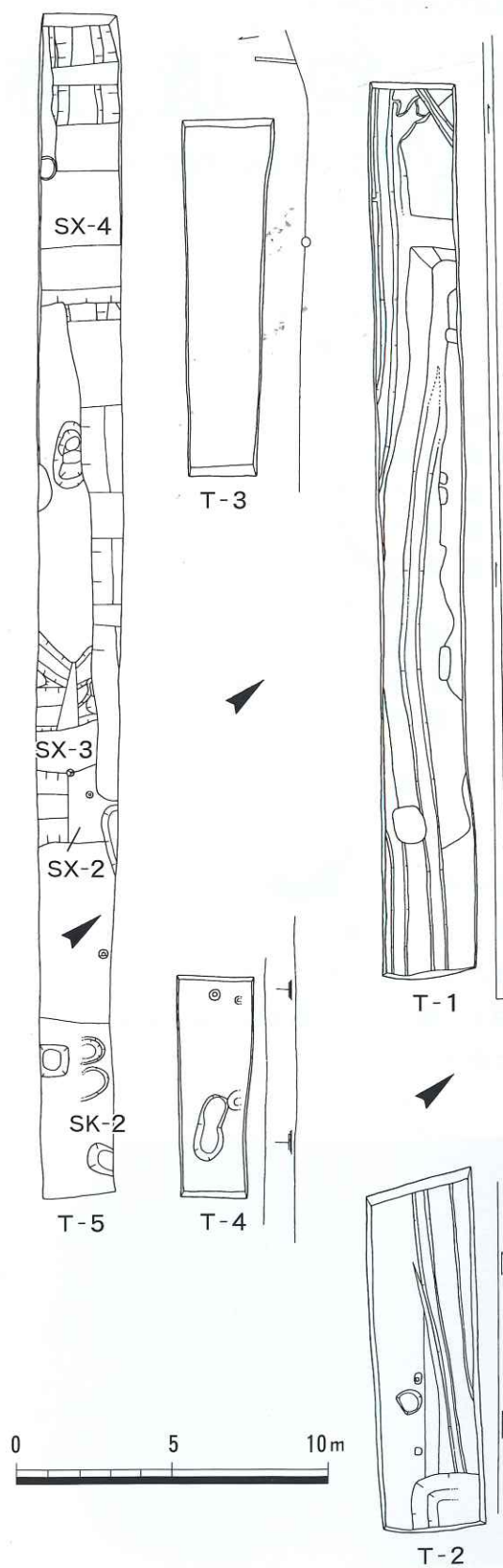


図4 調査地遺構図

26. Shimomagari

下 鈎 遺 跡

(83R095-04)

所在地	栗東町下鈎字宮の北1190-1他 北緯 東経
コード	321-095
調査期間	1983年3月16日～
調査面積	1073.19㎡
調査原因	マンション建設
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	弥生時代～古墳時代
主な遺構	井戸、流路、ピット
主な遺物	弥生土器
文献	④

本調査区では北西方向に流れる幅2～4m以上の流路と、これに接するようにして掘られた井戸が発見された。井戸は直径2m、深さ約0.2mの素掘り井戸で、弥生時代中期末から後期初頭の土器が一括して出土した。



井戸内土器出土状況

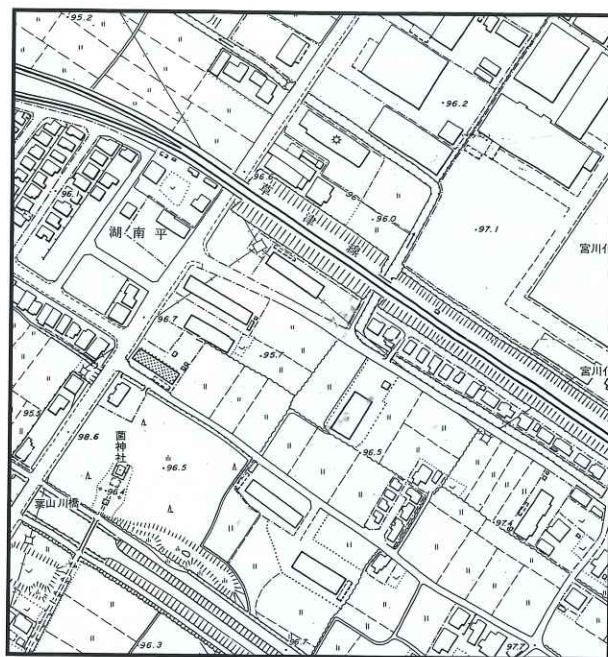


図1 調査地位置図

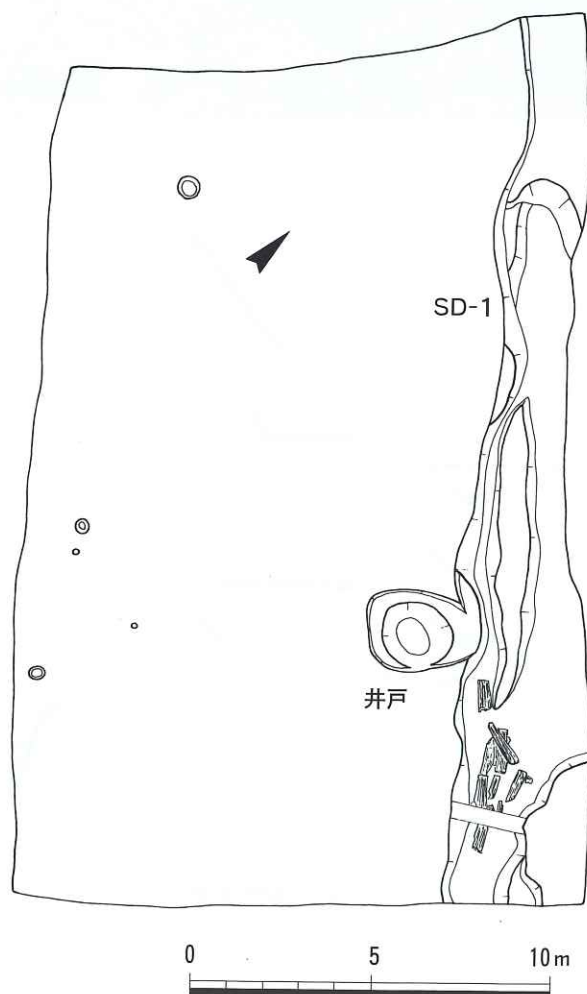
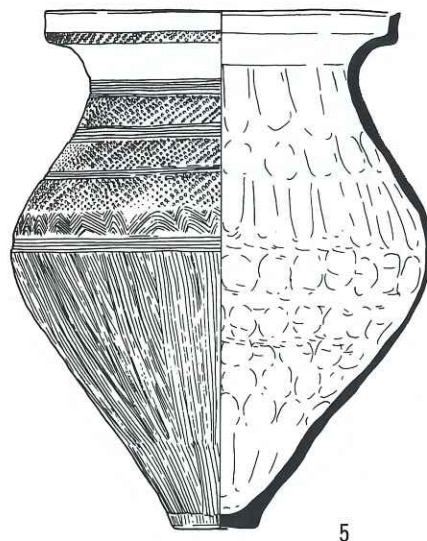
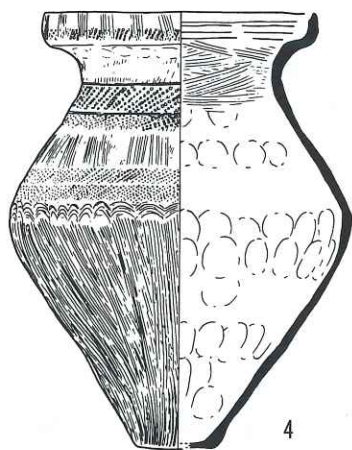
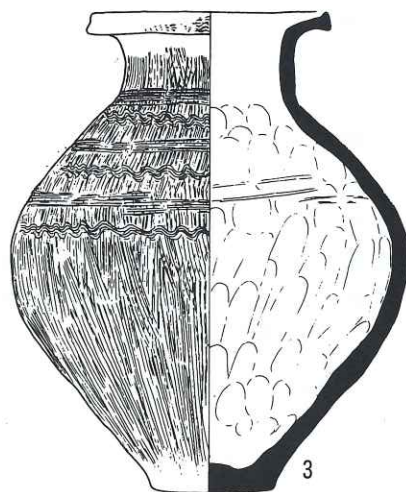
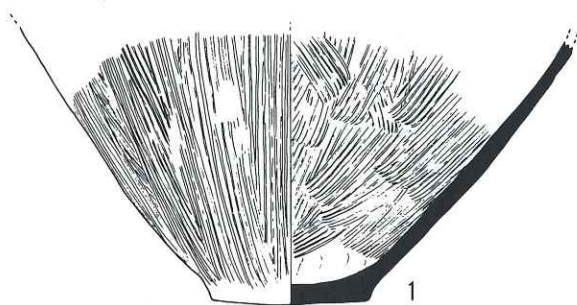
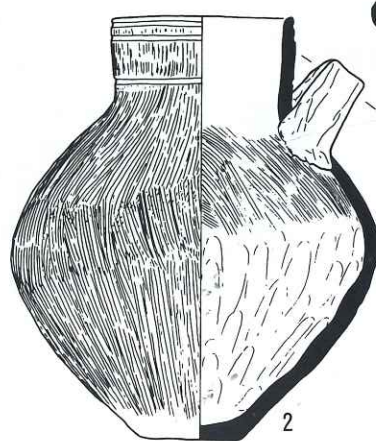
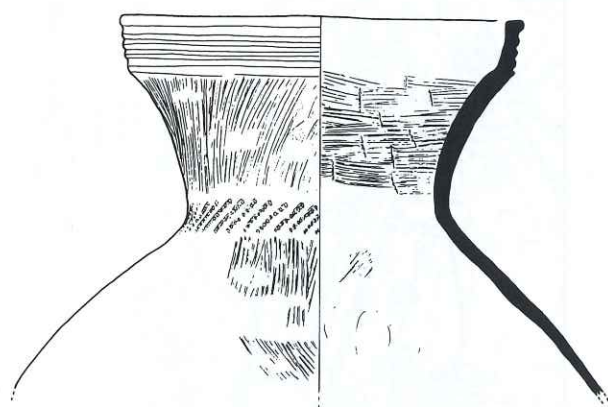


図2 調査地遺構図



0 5 10cm

图3 井戸出土弥生土器实测图

27. Tsujigoe

辻越遺跡

(83R096-01)

所在地	栗東町御園字辻越
	北緯 34° 59' 24"
	東経 136° 00' 47"
コード	321-096
調査期間	1983年6月24日～11月19日
調査面積	
調査原因	圃場整備
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	平安時代～江戸時代
主な遺構	掘立柱建物、溝、井戸、铸造施設
主な遺物	土師器、青磁、白磁、陶器、 墨書土器、貨銭
文献	

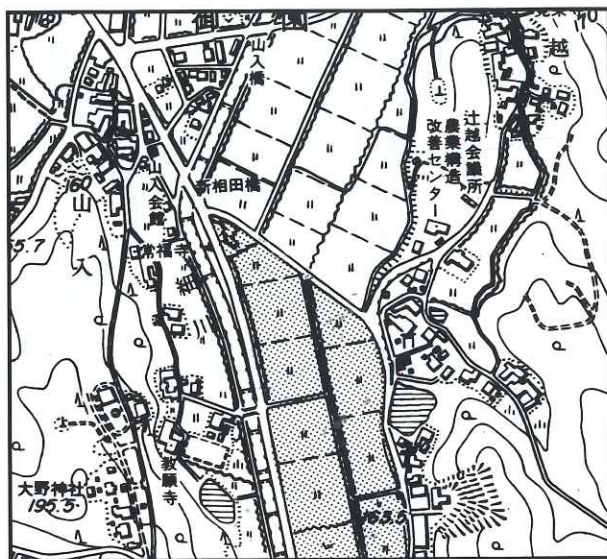


図1 調査地位置図 (S=1/10,000)

I区東半部では、12世紀の集落が明らかになった。またこれを切って14世紀の幅6 m以上を計る溝が東西方向に掘削されていた。II区では楕円形の土坑に焼土や鑄型と見られる土製品が投棄されており、その下層には炭化物が堆積していた。土坑周辺からは炭化物や焼土が出土する落ち込みが発見されている。このことからII区の土坑が鑄造の関連施設であった可能性が考えられる。

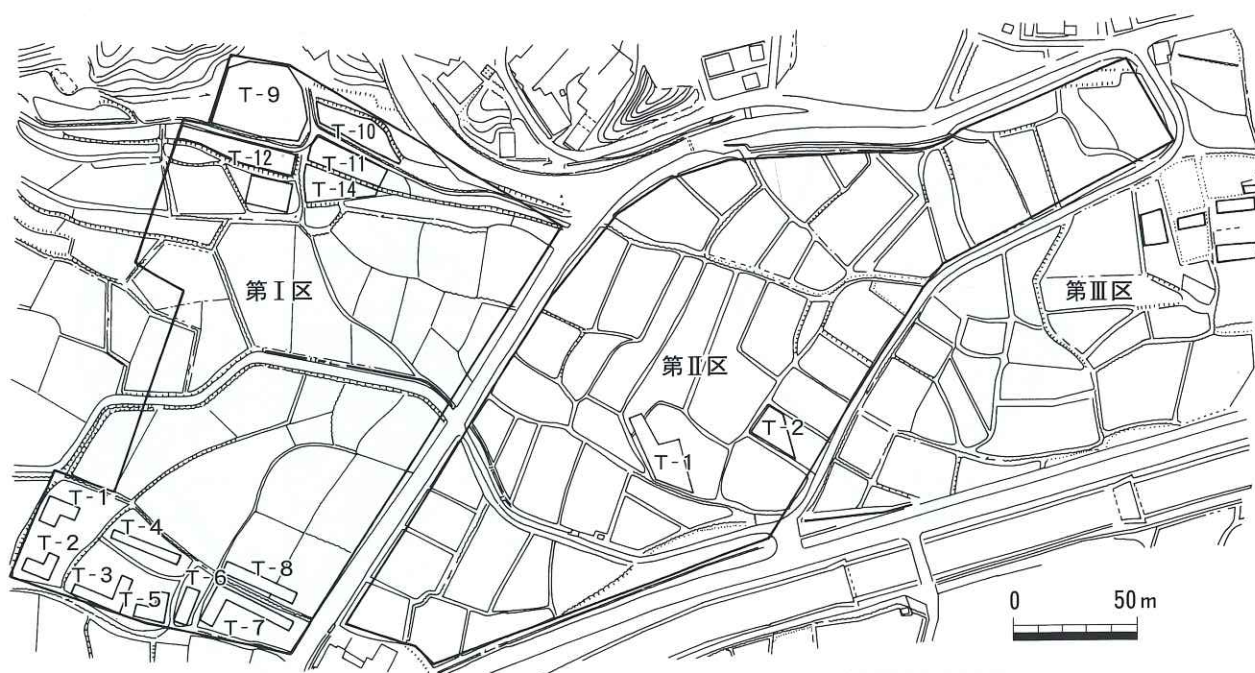


図2 トレンチ配置図

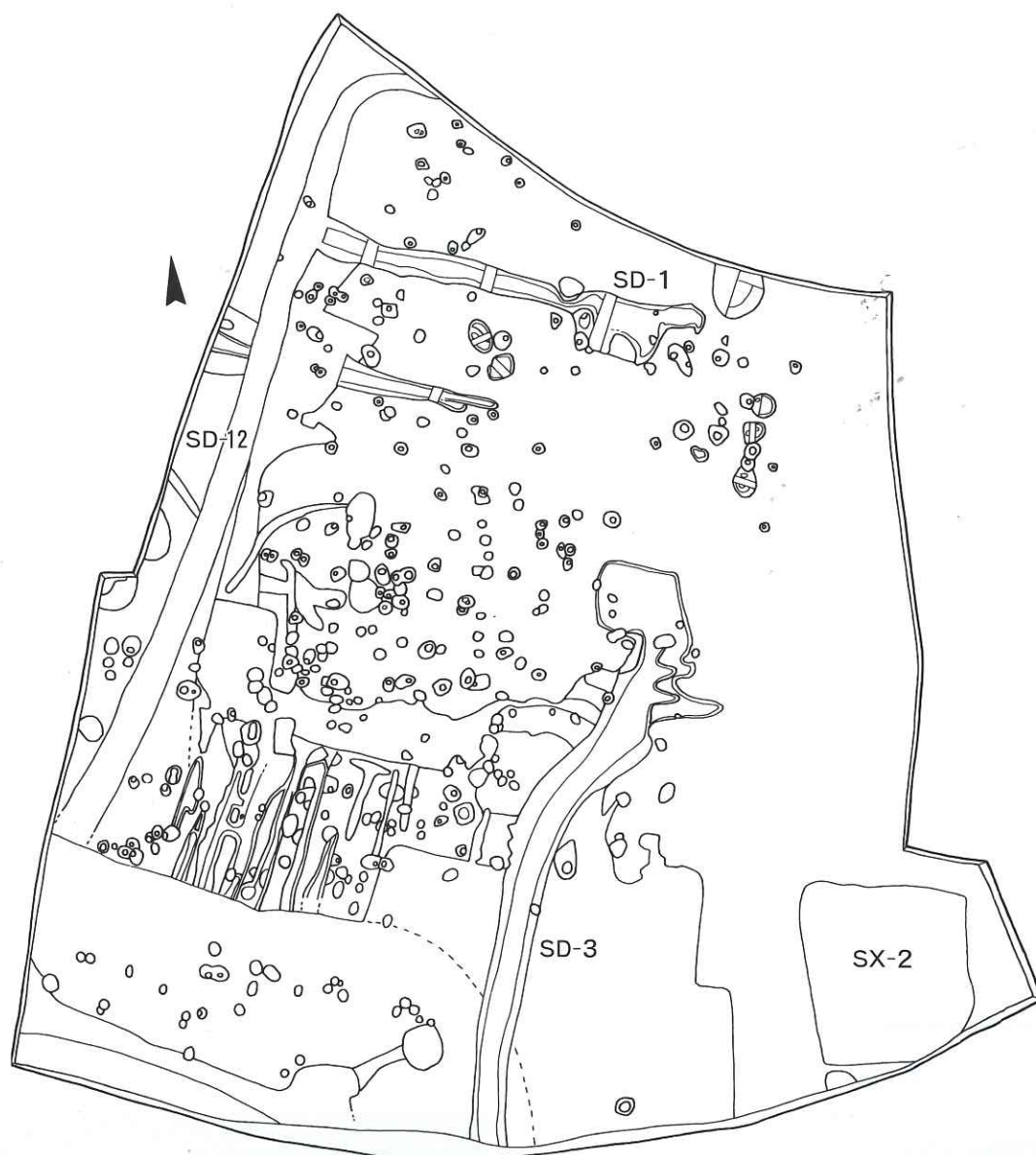
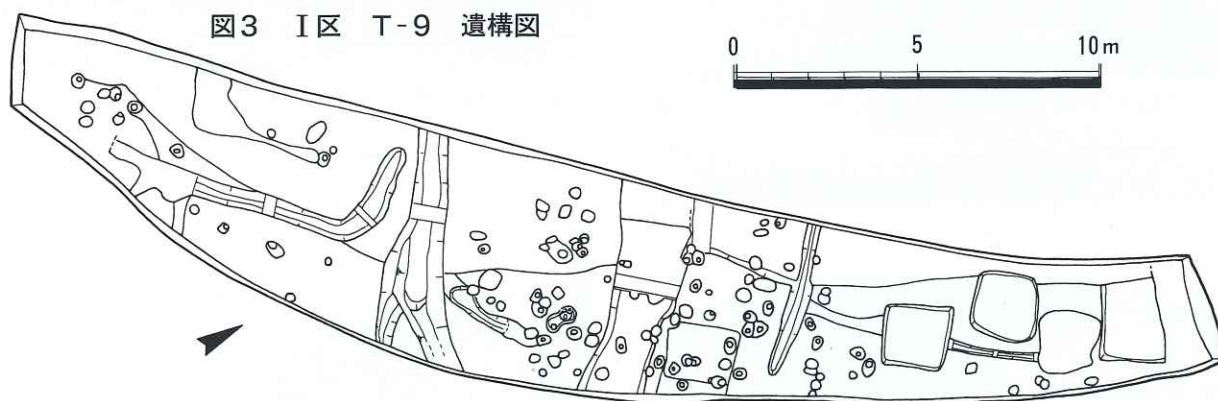


图3 I区 T-9 遺構図

0 5 10m



0 5 10m

图4 I区 T-10 遺構図

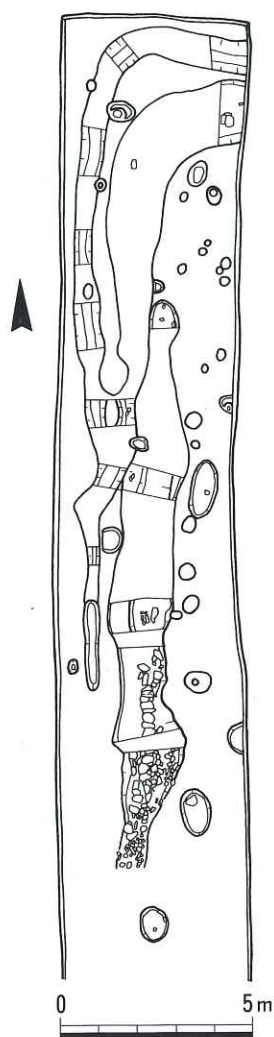


图5 I区 T-7 遺構図

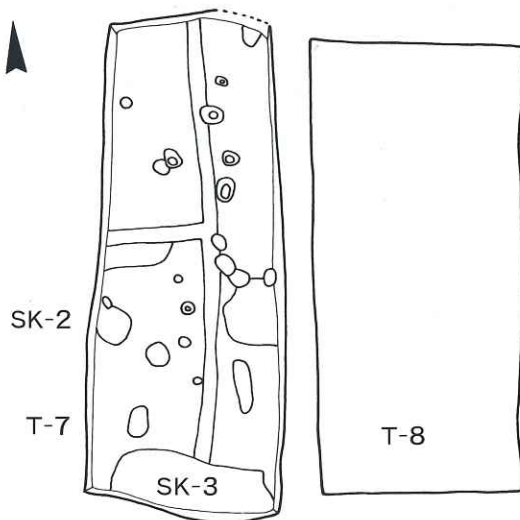
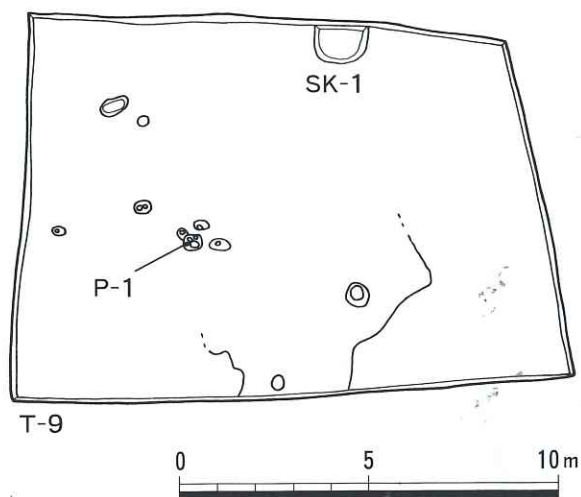


图6 III区 T-7~9 遺構図



I区 T-9



I区 T-10



II区 T-1

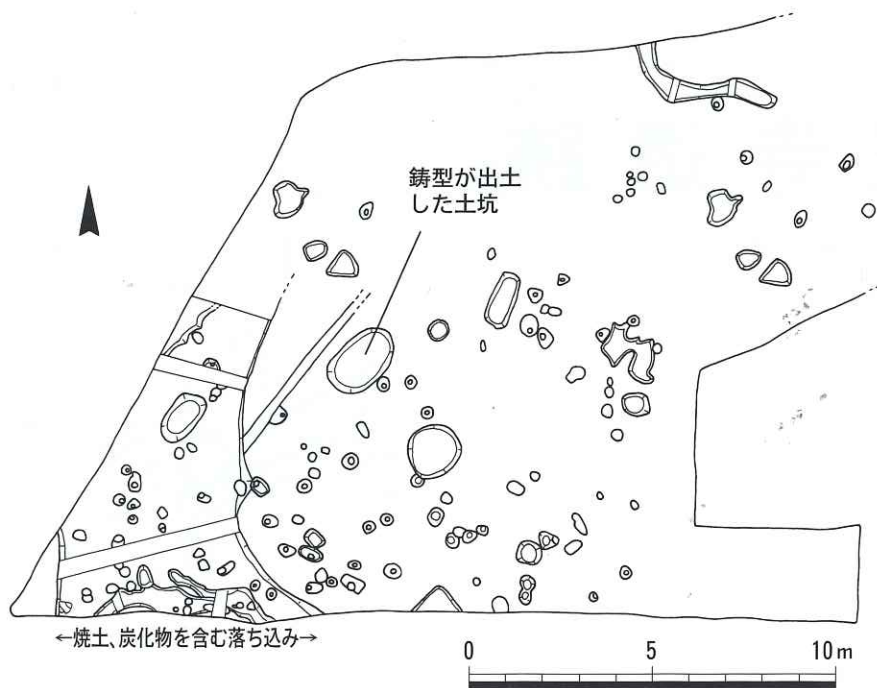
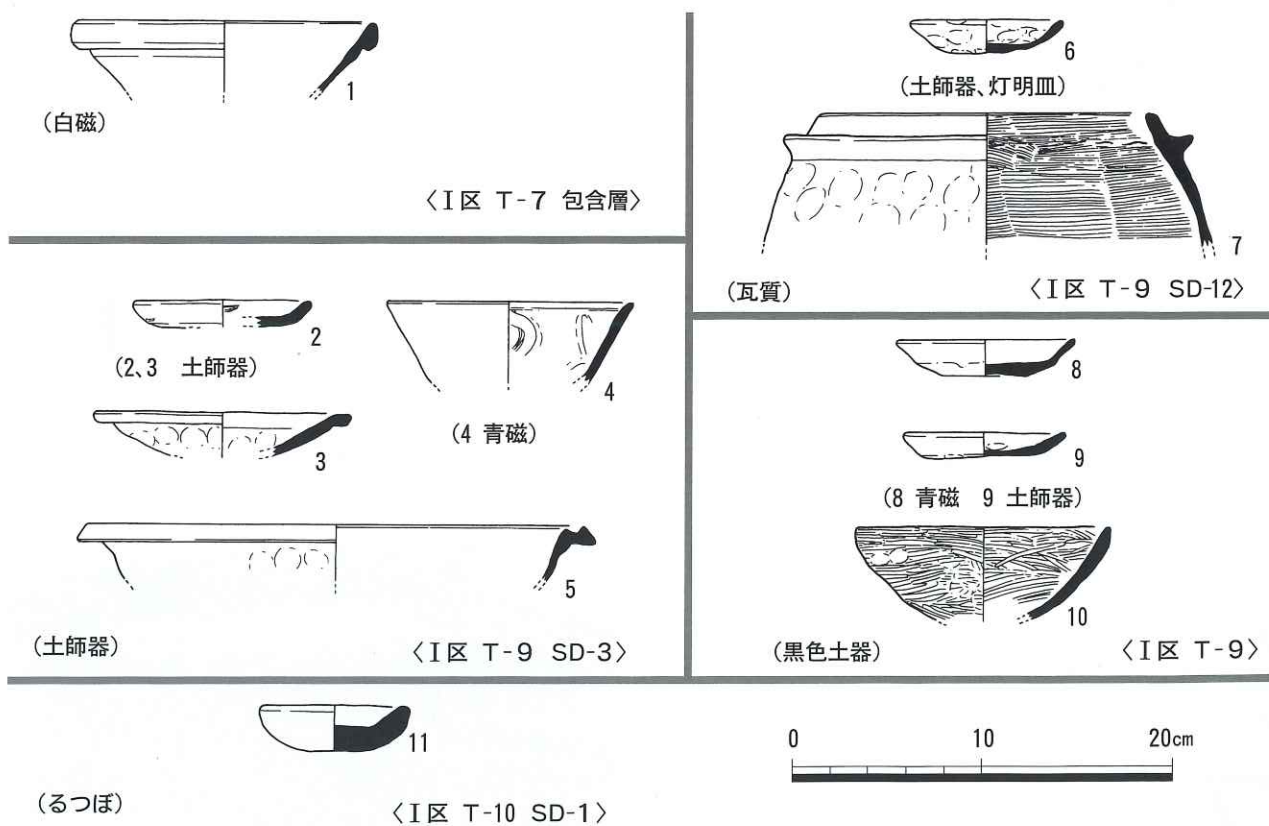


図7 II区 T-1 遺構図



28. Hachiouji

八王寺遺跡

(83R098-01)

所在地	栗東町御園字蔵町地先
	北緯 34°59'40"
	東経 136°02'10"
コード	321-098
調査期間	1983年11月4日～1984年12月6日
調査面積	
調査原因	圃場整備
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	平安時代～鎌倉時代
主な遺構	掘立柱建物、土坑、ピット
主な遺物	緑釉陶器、土師器、須恵器
文献	

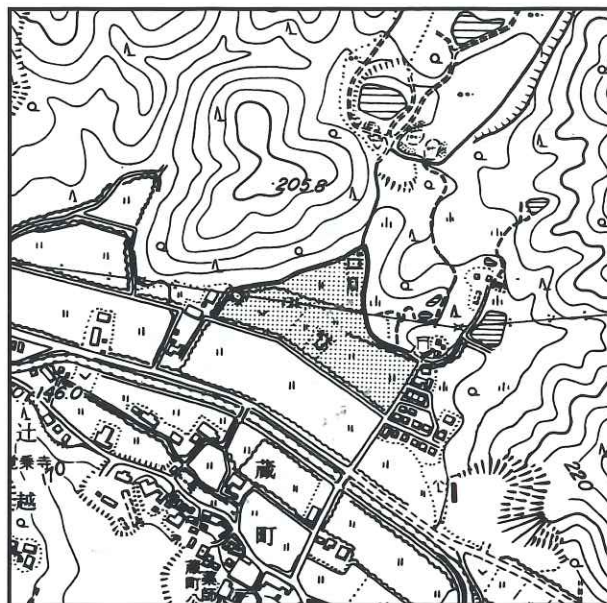


図1 調査地位置図 (S=1/10,000)

八王子遺跡は栗東町の金勝地区から石部に抜ける道沿いに位置する。遺跡の東側には八王子神社がある。調査では、T-1、8から平安時代の掘立柱建物が検出された。

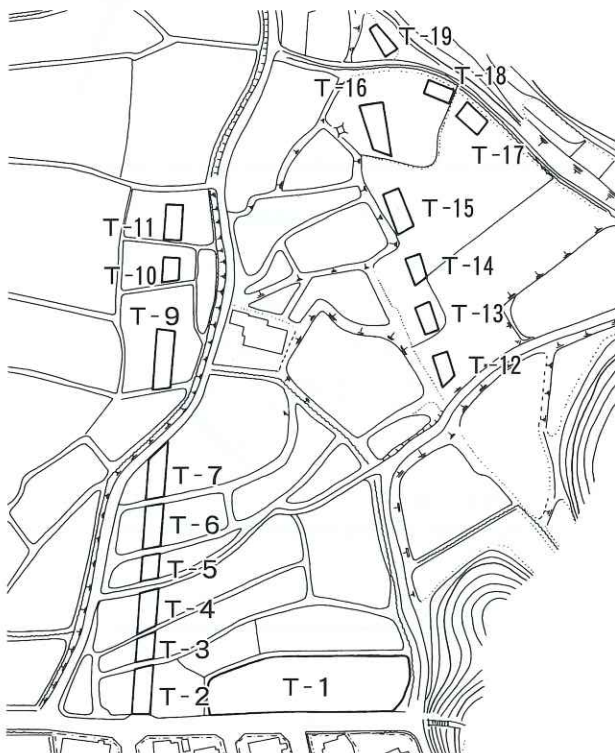


図2 トレンチ配置図

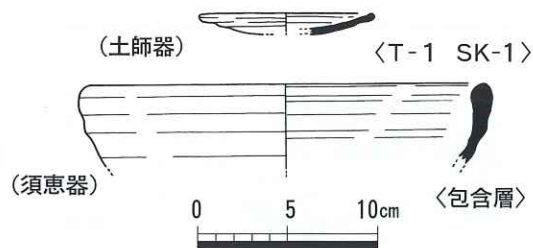


図3 出土遺物実測図



T-1 掘立柱建物 検出状況

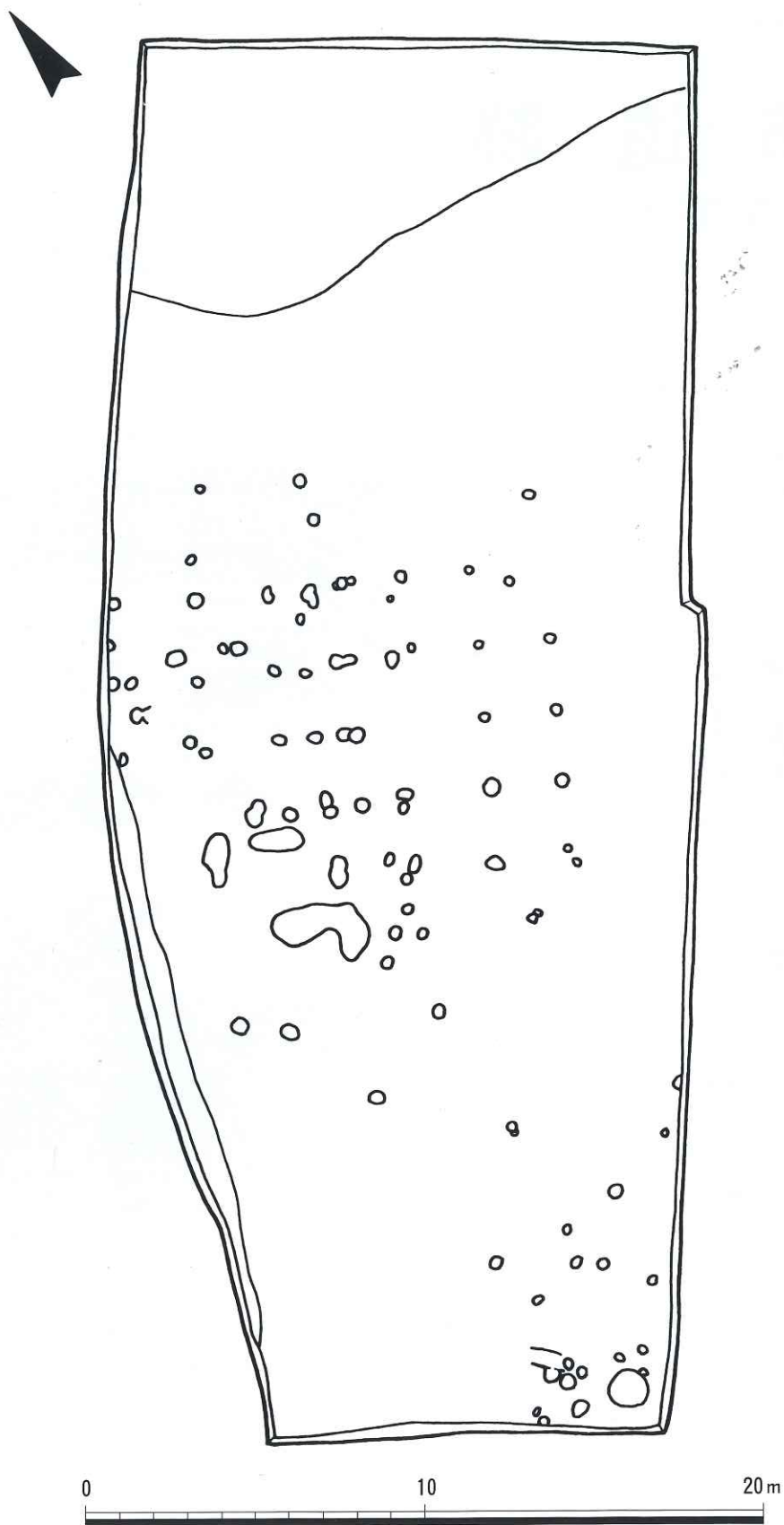


图4 T-1 遺構図

29. Ogaki

小 柿 遺 跡

(83R100-01)

所在地	栗東町小柿字鉤代317-5 北緯 35°01'16" 東経 135°59'44"
コード	321-100
調査期間	1983年8月29日～10月7日
調査面積	330㎡
調査原因	造成工事
調査担当	清水 好 洋
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落、墓
主な時代	古墳時代
主な遺構	溝
主な遺物	須恵器、土師器、絵画土器、 摩製石斧
文 献	



図1 調査地位置図



調査状況

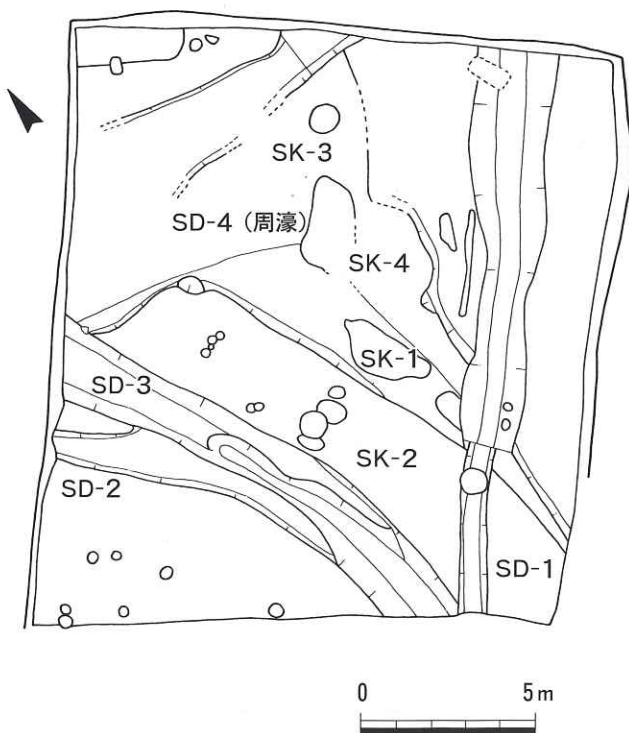
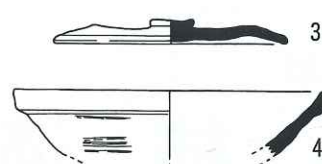
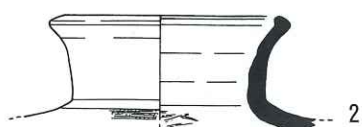
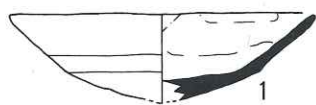


図2 調査地遺構図



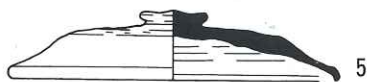
SD-2、3 (北よりみる)

1982年度の調査で方墳2基・円墳1基が検出された地点の東に隣接する。調査では、溝・土壇・周溝状遺構が検出された。周溝状遺構(SD-4)は、幅10m以上で下層からは絵画土器などが出土している。周溝状遺構の埋没後には土壇4基および溝が掘削されている。条里方向の溝は白磁を含んでおり、中世のものと考えられる。



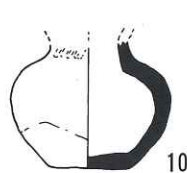
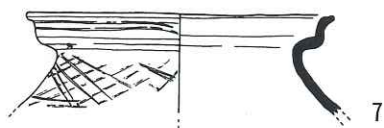
(1、2 土師器 3 須恵器 4 白磁)

〈SD-1〉

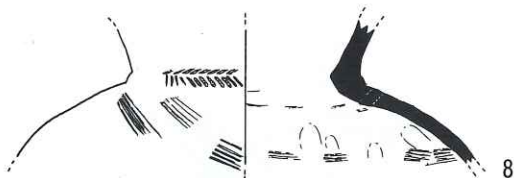


(5、6 須恵器)

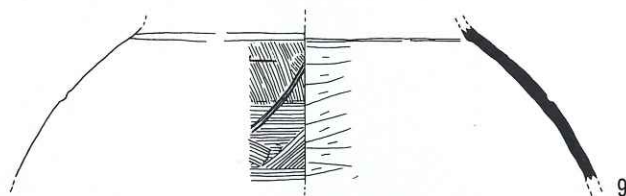
〈SD-3〉



11



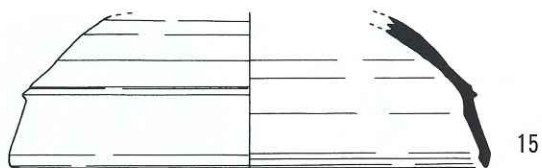
12



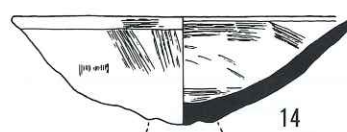
13

(7~14 土師器)

〈7~20 周濠 (SD-4)〉



15

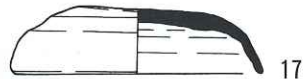


14

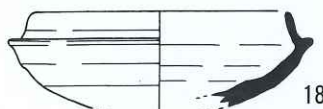
(15~20 須恵器)



16



17



18



19



20

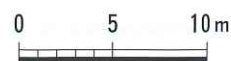


図3 出土遺物実測図

30. Ogaki

小柿遺跡

(83R100-02)

所在地	栗東町小柿地先
	北緯 35°01'15"
	東経 135°58'39"
コード	321-100
調査期間	1984年1月
調査面積	219.6m ²
調査原因	下水道工事
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	弥生～近代
主な遺構	掘立柱建物、土坑、溝、流路
主な遺物	弥生土器、須恵器、白磁
文献	

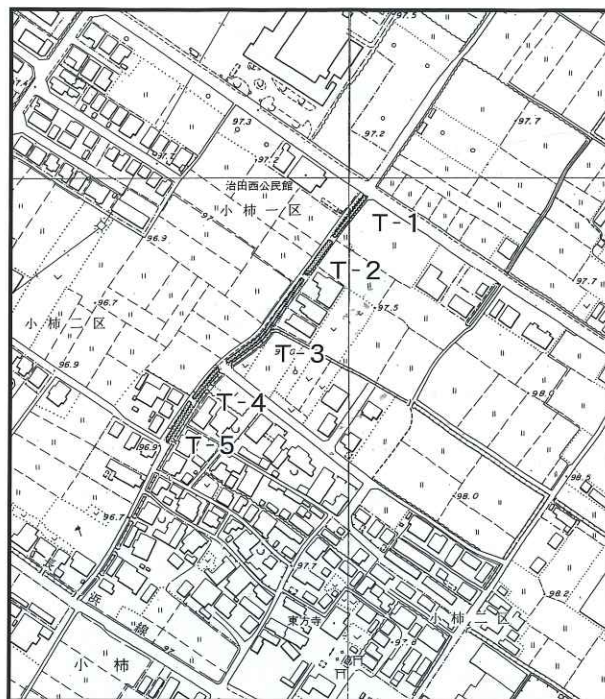
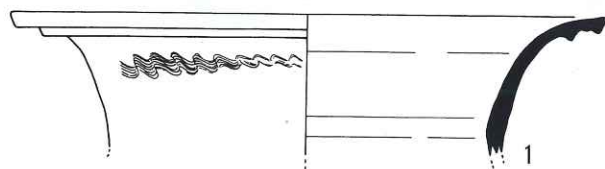
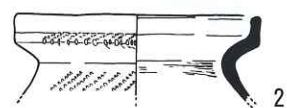


図1 調査地位置およびトレンチ配置略図



(須恵器)

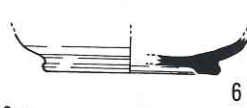
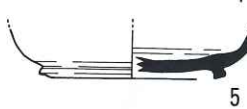
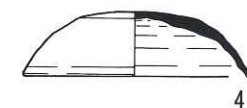
〈SD-25〉



(弥生土器)



(3 白磁)



(4～6 須恵器)

〈包含層〉



図2 出土遺物実測図

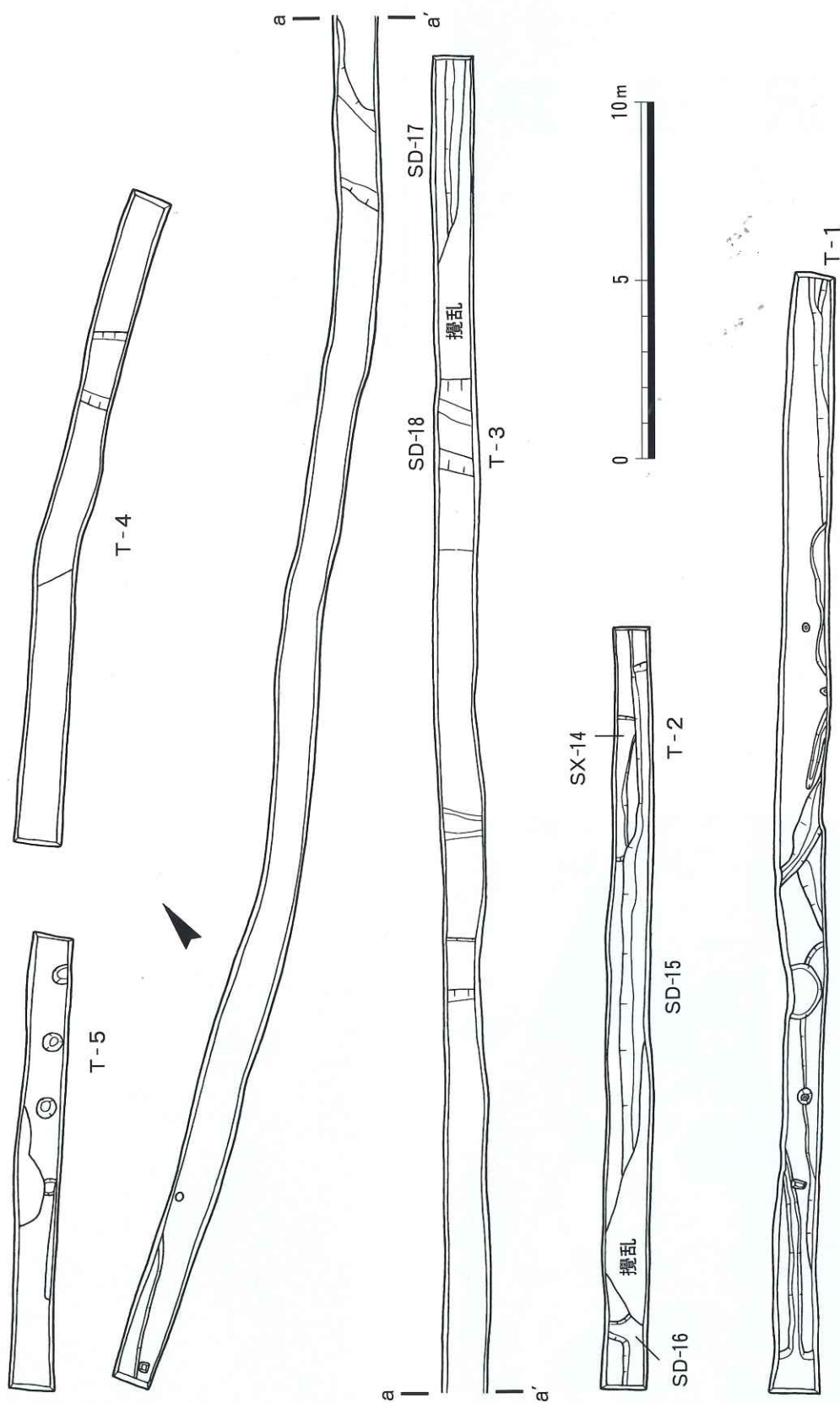


图3 T-1~T-5 遺構図

Nakazawa

中 沢 遺 跡

(83R034-01)

所 在 地	栗東町中沢地先 北緯 35°01'24" 東経 135°58'25"
コ ー ド	321-034
調 査 期 間	1983年12月8日～12月21日
調 査 面 積	1,200㎡
調 査 原 因	下水道工事
調 査 担 当	平 井 寿 一
調 査 機 関	財団法人 栗東町文化体育振興事業団
種 別	集 落
主 な 時 代	弥生時代～古墳時代
主 な 遺 構	溝、ピット、土坑、沼沢地
主 な 遺 物	弥生土器、土師器、染付
文 献	



図1 調査地位置

幅約1mの限られた範囲の調査であるが、調査区中央部分から幅約18mの溝が発見され、弥生時代後期の遺物が出土している。



調査状況



SD-2

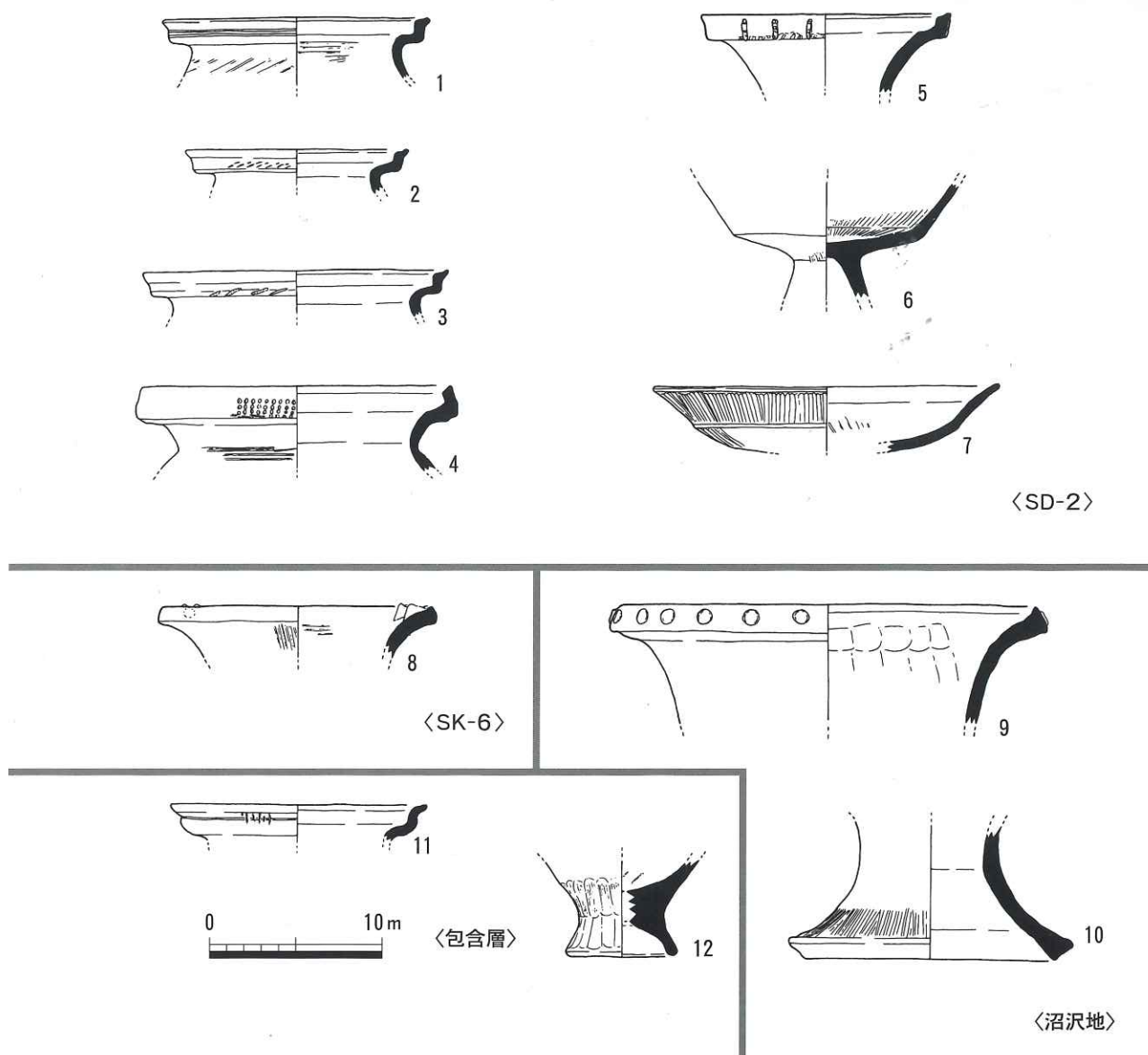


图2 出土遺物実測図

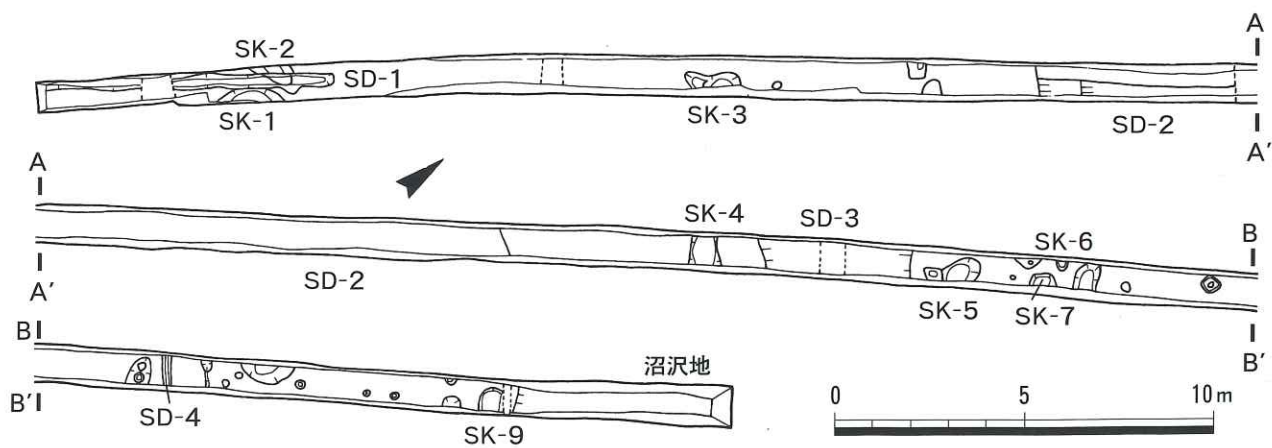


图3 調査地遺構図

参 考 文 献

- ① 平井寿一「辻の鋳物業―埋蔵文化財から報告―」『栗東の文化』創刊号 1984
- ② 平井寿一「埋蔵文化財調査考 高野遺跡Ⅱ」『栗東の文化』Vol.8 1986
- ③ 栗東町史編さん委員会『栗東の歴史 第1巻 古代・中世編』1988
- ④ 栗東町史編さん委員会『栗東の歴史 第4巻 資料編』1994

発 行 日 2000年 3 月31日

1983 年 度
栗 東 町 埋 蔵 文 化 財
発 掘 調 査 資 料 集

編集・発行 財団法人栗東町文化体育振興事業団
埋蔵文化財調査課
〒520-3011
滋賀県栗太郡栗東町大字下戸山47番地
栗東町出土文化財センター内
TEL. 077-553-3359
FAX. 077-553-3514

印刷・製本 株式会社スマイ印刷工業
〒520-3014
滋賀県栗太郡栗東町大字川辺568-2
TEL. 077-552-1045(代)
FAX. 077-552-0890